



Smart Construction Dashboard ユーザーマニュアル

- 本製品をご使用になる前に必ず本書をお読みください。
- 本書はなくさないように大切に保管してください。

2026年7月
v1.0

はじめに

■ 対象読者

- ・ Smart Construction Dashboard を利用する現場担当者・管理者の方

■ 前提条件

- ・ PC（Windows または Mac）とインターネット接続環境があること
- ・ Google Chrome または Microsoft Edge の最新版がインストールされていること

■ 商標について

- ・ スマートコンストラクション・Smart Constructionは、株式会社小松製作所の登録商標です。



その他、本書に記載されている会社名・製品名などは、一般に各社の商号・登録商標または商標です。

■ その他

- ・ 本アプリは事前の予告なくアップデートする場合があります。そのため、本書の内容と実際の仕様が異なる場合があります。
- ・ 本アプリの画面や表示の内容は、アップデートにより変化する場合があります。本書に記載されている内容と、画面に表示される内容に差異がある場合は、画面の表示に従って操作してください。

■ Smart Construction Dashboard へのアクセス

以下の手順で Smart Construction Dashboard にログインします。

- ・ Webブラウザで以下のアドレスにアクセスします。
<https://dashboard.smartconstruction.com/>
- ・ 登録済みのメールアドレスとパスワードを入力してログインします。

■ ユーザーサポートメニュー

ビューア上部のトップバーには、以下のサポートボタンが配置されています。

- ・ モバイルアプリ：Smart Construction Dashboard モバイルアプリの情報を表示します。
- ・ チュートリアル：各機能の使い方を順を追って説明します。
- ・ 目的から探す：Smart Construction Support サイトを開きます。目的から逆引き検索が可能です。
- ・ お問い合わせ：ウェブ上でサポートセンターに連絡します。



「？」アイコンのドロップダウンメニューから、ユーザーマニュアル・利用規約・バージョン番号（例：v1.48.0）を確認できます。問題が発生した場合はバージョン番号をサポートに提供してください。

はじめに	
1 Smart Construction Dashboard でできること	1
2 事業者アカウントの作成～ユーザー登録まで	2
2.1 事業者アカウントの作成	2
2.2 ユーザー登録	2
2.3 ライセンス購入	3
2.4 建機登録	4
3 現場の新規作成	7
3.1 新施工現場	7
3.1.1 現場を新規作成して指定する	7
3.1.2 既存の現場を指定する	8
3.2 座標系	9
3.2.1 ローカライゼーションファイルを利用する	9
3.2.2 任意の座標系を利用する	9
3.3 単位	12
3.4 メンバーの追加	12
3.4.1 メンバーの招待	14
3.5 建機情報の紐づけ	16
4 各種データ登録	19
4.1 データの登録方法	19
4.2 3次元設計データの登録・設定	21
4.3 建機へのファイル転送	23
4.4 3次元測量データの登録・設定	30
4.5 オルソ画像の登録	35
4.6 平面データの登録・設定	37
4.7 地理情報データの登録・設定	39
4.8 構造物データの登録・設定	42
4.9 施工履歴データの登録	43
4.10 注釈の追加	46
5 進捗・出来高の管理	50
5.1 目標設計面と施工前測量レイヤー	50
5.2 施工領域全体の自動計測	50
5.3 計画&進捗 切土・盛土ウィジェット	50
5.4 ヒートマップと分類	51
5.5 進捗折れ線グラフ	52
5.6 作業範囲サマリのダウンロード	53
6 計測	55
6.1 切盛土量の計測	55

6.2	基準面を指定した土量の算出	57
6.3	切盛土量が±0となる標高の算出	60
6.4	面積の計測	62
6.5	距離・勾配の計測	64
6.6	断面の計測	65
6.7	標高履歴の確認	69
7	現場レポートの生成（帳票）	72
7.1	スクリーンショットの出力（PNG）	72
7.2	現場のPDFレポートの作成	72
8	出来形合否判定（i-Construction）	74
8.1	出来形合否判定の概要	74
8.2	利用の準備（工種設定の確認）	75
8.3	出来形チェックの作成（土工）	75
8.4	工種別の設定（水中掘削・舗装）	77
8.5	日々の出来形確認	77
8.6	事前精度確認	78
8.7	施工履歴データ一覧の出力（CSV）	79
8.8	オフラインビューア機能	80
9	各種設定	81
9.1	各種設定の表示	81
9.2	施工現場情報	81
9.3	座標系	82
9.4	データ連携	85
9.5	単位	85
9.6	表示	86
9.7	施工関係者	86
9.8	URL現場共有（共有リンク）	87
9.9	サポートモード	88
9.10	プロジェクトの削除	89
10	3Dビューとタイムライン	90
10.1	画面構成	90
10.2	3Dビューのナビゲーション	91
10.3	タイムライン	93
11	3Dアイコン	95
12	連携機能	98
12.1	モバイルアプリ連携	98
12.2	Smart Construction Rover連携	99
12.3	転圧管理システム連携	103

13 建機管理	106
13.1 組織建機管理	106
13.2 プロジェクト建機管理	108
14 プロジェクトファイル管理	110
15 付録.....	113
15.1 予実管理（サマリー）	113
15.2 補助機能（目的から探す・アシスタント）	113
15.3 サポート・問合せ先.....	114

1 Smart Construction Dashboard でできること

3次元設計データ・3次元地形データをインポートすることで、完成に必要な土量を計算できます。ICT建機と連携すると、進捗を自動更新できます。施工計画から完成書類の出力まで、現場の生産性向上を一貫してサポートします。

■ 施工現場のデジタル管理

- ・ 設計データと測量データをアップロードすることで、各施工段階における現況・出来高をリアルタイムで確認できます。
- ・ クラウド上にデータが保存され、関係者と円滑に共有できます。

■ 最新測量データの取り込みと工事進捗の把握

- ・ Smart Construction Edge2・Cloud SFM・Quick 3D などのソリューションで取得した最新測量データを追加することで、施工進捗を常に最新状態で把握できます。

■ 建機との連携

- ・ 3DMG（マシンガイダンス）を搭載した建機の施工実績データは、Smart Construction Dashboard に自動送信され、工事進捗が自動更新されます。
- ・ Komatsu製 ICT建機の稼働状況・作業量を Smart Construction Dashboard 上で確認できます。
- ・ Smart Construction Dashboard から建機に設計ファイル（SL3 ファイル）を転送できます。

■ 工事進捗の可視化

- ・ 工事進捗をヒートマップとして視覚的に確認できます。
- ・ 土量計算機能で工事進捗・出来高を数値として算出できます。
- ・ 算出した工事進捗は「Smart Construction ホーム」でも確認できます。

■ 帳票管理

- ・ 工事完了時に検査書類・完成書類を帳票として出力できます。

■ i-Construction 2.0 への対応

Smart Construction Dashboard は、国土交通省が推進する i-Construction 2.0 に対応しています。施工計画から完了まで、一貫したデジタル管理が可能です。

2 事業者アカウントの作成～ユーザー登録まで

Smart Construction Dashboard を利用開始する前に、以下を設定します。

1. 事業者アカウントを作成する
2. ユーザーを登録する
3. ライセンスを購入する

2.1 事業者アカウントの作成

Smart Construction をご利用いただくには、事業者アカウント（組織）の作成が必要です。

■ 作成手順

1. 以下のアドレスにアクセスし、事業者登録を行います。
<https://portal.smartconstruction.com/signup>
2. 登録が完了するとメールが届きます。メールに記載されたURLにアクセスし、メールアドレスとパスワードでログインしてください。
3. 画面の表示内容に従って操作すると、「Smart Construction」画面が表示されます。

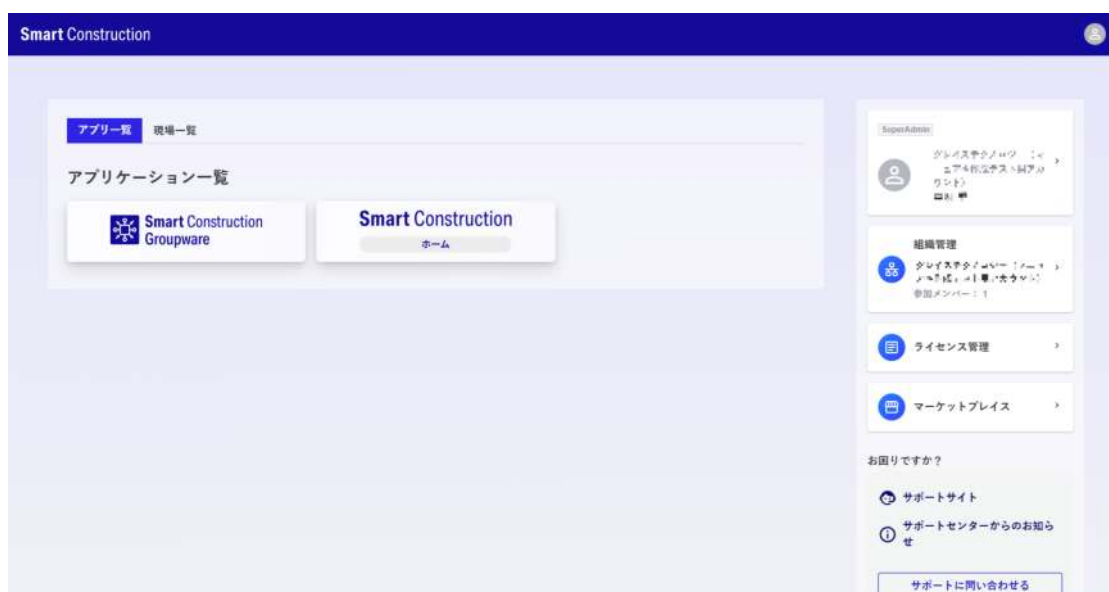


2.2 ユーザー登録

Smart Construction のユーザー登録をします。

■ 操作手順

1. 「Smart Construction」画面で、[組織管理] ボタンをクリックすると、「組織メンバー一覧」画面が開きます。



2. [社内ユーザーを新規追加する] ボタンをクリックし、ユーザー情報を登録します。
社外ユーザーを追加する場合は、[社外ユーザーを招待する] ボタンをクリックしてください。



管理権限については、以下のとおりです。Smart Construction Dashboardの権限設定については、「[3.4.1 メンバーの招待](#)」を参照してください。

管理種別	組織情報	メンバー管理	ゲストメンバー管理
Super Admin	閲覧、変更、削除	登録、閲覧、変更、削除	登録、閲覧、変更、削除
Admin	閲覧	登録、閲覧、変更、削除	登録、閲覧、変更、削除
Manager	閲覧	閲覧	登録、閲覧、削除
Staff	閲覧	閲覧	閲覧



ユーザー登録されると、以下のアドレスからログインできます。

<https://auth.pf.smartconstruction.com>

2.3 ライセンス購入

Smart Construction Dashboard を利用するには、ライセンスの購入および割り当てが必要です。

■ 購入手順

1. コマツ担当者または代理店に連絡すると、購入手続きの案内が届きます。
2. 案内に従い必要情報を提出すると、見積書が送付されます。

3. 見積を確認して発注すると、ライセンスとアカウント情報がメールで届きます。



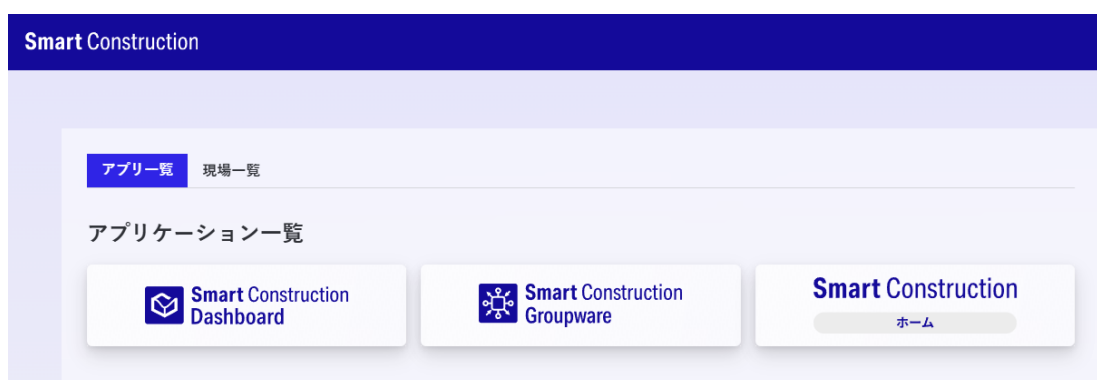
- ・ライセンスの購入に関しては、コマツの担当者または販売代理店にお問い合わせください。
- ・ライセンスの更新手続きは自動で行われます。
- ・解約した際は、ライセンス期間が切れると Smart Construction Dashboard にアクセスできなくなります。

2.4 建機登録

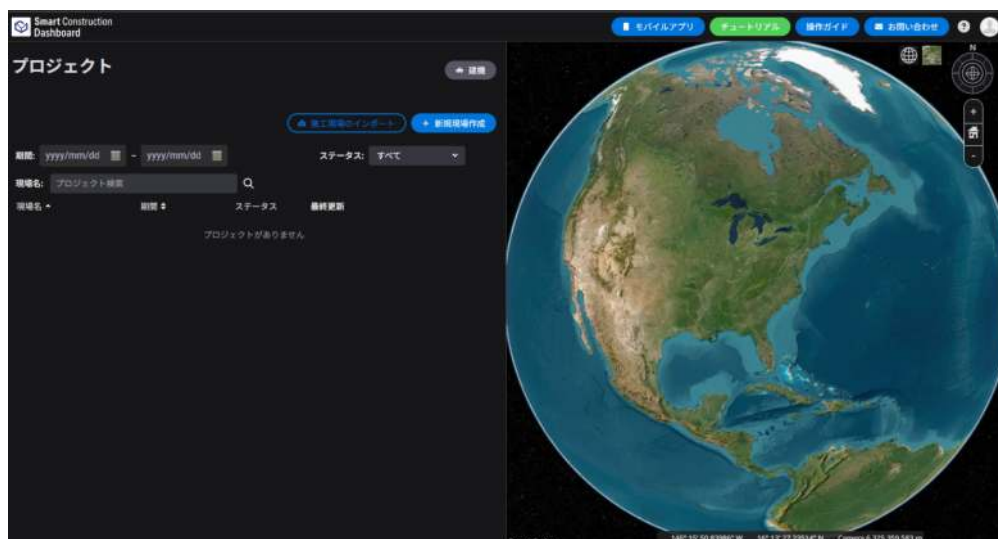
所有している建機の情報登録を行います。

■ 操作手順

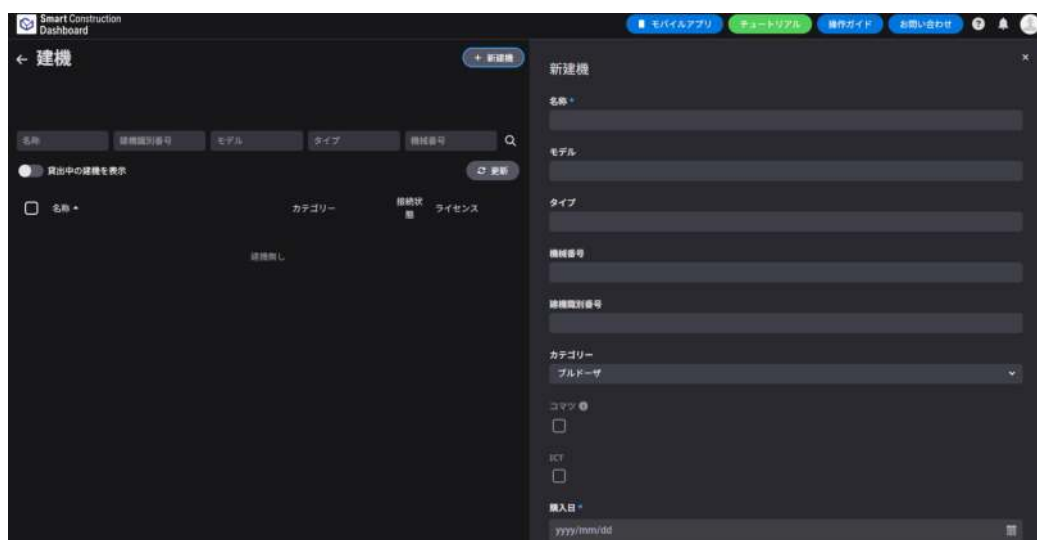
1. 「Smart Construction」画面で、[Smart Construction Dashboard] をクリックします。



2. 「プロジェクト」画面で、[建機] ボタンをクリックします。



3. 「建機」画面で、[+ 新建機] ボタンをクリックし、新建機の情報を入力します。



「新建機」画面で入力する項目は以下のとおりです。

- ・ 名称：建機の名称を入力します。
- ・ モデル：建機のモデル（機種名）を入力します。
- ・ タイプ：建機の種類などを入力します。
- ・ 機械番号：建機のシリアル番号（製造番号）などを入力します。
- ・ 建機識別番号：識別に必要な管理番号など任意の番号を入力します。
- ・ カテゴリー：建機のカテゴリーを選択します（例：モーターグレーダ、転圧機など）。
- ・ 購入日：購入した場合は、購入日を選択します。

4. 情報登録が完了したら、[追加] ボタンをクリックします。



ICT建機の登録が必要な場合は、コマツ担当者へご連絡ください。

■ 転圧機の設定

建機の「カテゴリー」として「転圧機」、[ブルドーザー] を選択した場合、以下のとおりとなります。

- ・ 転圧機・ブルドーザーとして登録された建機の施工履歴データは、Smart Construction Dashboard 上で転圧施工履歴として扱われます。
- ・ 転圧機の詳細設定については、コマツ担当者にお問い合わせください。

■ 建機のレンタル（貸出）

自社保有の建機を他の組織に貸し出す場合は、以下の条件をすべて満たす必要があります。

- ・ 建機が自社保有物であること
- ・ 他の組織への貸出中でないこと
- ・ 施工領域（プロジェクト）に割り当てられていないこと

■ 貸出手順

1. 「建機詳細」パネルを開き、「レンタル詳細」セクションの[レンタルを開始] ボタンをクリックします。
2. 貸出先のユーザー ID（メールアドレス）を入力します。

-
3. 開始日と終了予定日を設定します。開始日は建機の購入日より後、終了予定日は開始日より後に設定してください。
 4. [レンタルを開始] をクリックして完了します。
-



レンタルを開始すると、貸出先組織の全ユーザーに通知が送信されます。貸出先が承認すると、貸出が完了します。レンタル期間中は、貸出先の組織がリモートサポートの操作権限を持ちます。

3 現場の新規作成

施工現場の基本情報を登録し、プロジェクトを作成します。

1. 施工現場情報を登録する
2. 座標系を設定する
3. 単位を設定する
4. 現場のメンバーを登録する
5. 建機を現場に紐づける

3.1 新施工現場

Smart Construction Dashboardは現場を指定してプロジェクトを作成することができます。

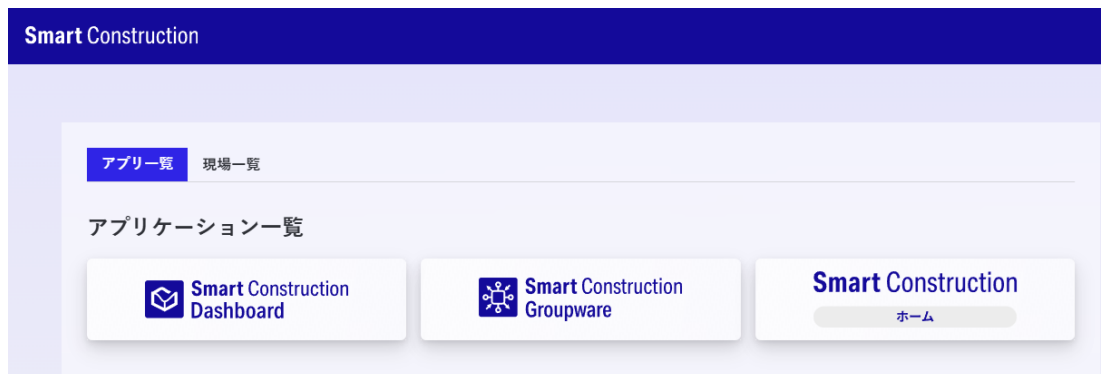
プロジェクト作成時、現場は以下の2つの方法で指定できます。

- ・ 現場を新規作成して指定する
- ・ 既存の現場を指定する

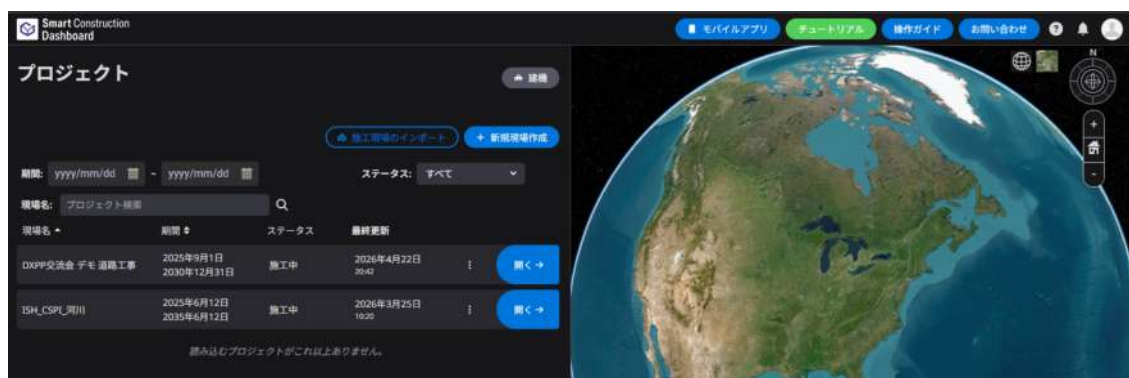
3.1.1 現場を新規作成して指定する

■ 操作手順

1. 「アプリケーション一覧」画面で、[Smart Construction Dashboard] をクリックします。



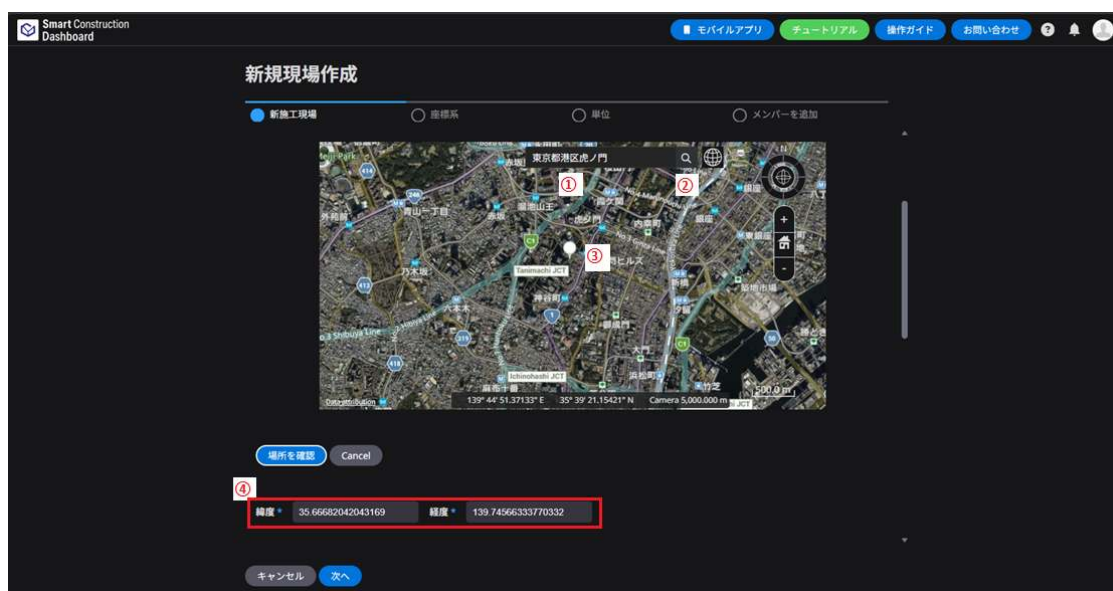
2. Smart Construction Dashboard の「プロジェクト」一覧画面で「新規現場作成」ボタンをクリックします。



3. 「現場名・利用場所名」欄に現場名を入力します。



4. 住所もしくは地名を入力（①）し、虫眼鏡ボタンをクリックします（②）。
該当の場所が地図上に表示されるので、ピンの場所（③）を調整します。
[場所を確認] ボタン（④）をクリックすると、緯度/経度が表示されます。

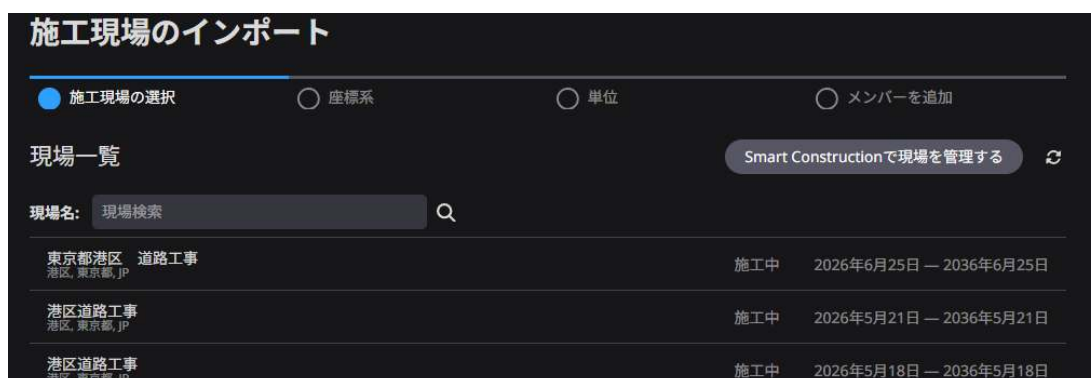


5. [次へ] をクリックして3.2 座標系へ進みます。

3.1.2 既存の現場を指定する

■ 操作手順

1. 「プロジェクト一覧」画面で「施工現場のインポート」ボタンをクリックすると、登録済みの施工現場が表示されます。



2. 使用したい施工現場を選択します。

3. [次へ] をクリックして [3.2 座標系](#) へ進みます。

3.2 座標系

座標系とは、地図上の位置を表す基準となる数値体系のことです。現場の所在地に合った座標系を選択してください。



日本国内の現場では通常「平面直角座標系」を使用します。

プロジェクトの座標系の設定には、以下の2種類があります。

- ・ ローカライゼーションファイルを利用する
- ・ 任意の座標系を利用する

3.2.1 ローカライゼーションファイルを利用する

■ 操作手順

1. 「ファイルをアップロードする」タブを選択します。
2. 利用したいローカライゼーションファイルをドラッグ & ドロップ、またはクリックして選択します。

対応ファイル形式 : Topcon (.gc3 / .tp3) 、 Trimble (.cal / .dc)

アップロード完了後、座標系・現場位置・タイムゾーンが自動的に設定されます。



- ・ Trimble (.cal / .dc) は、「座標スケール」の指定が必要です。
- ・ 日本国内の現場では、サマータイムの設定は不要です。
- ・ 「座標系を同期する」タブは、他の Smart Construction アプリで座標系情報が存在する場合にのみ表示されます。他のアプリで設定した座標系情報 (.gc3 / .tp3 / .dc 等) を自動で読み込みます。

3.2.2 任意の座標系を利用する

■ 操作手順

1. 「新規現場作成」画面で「座標系を選択」をクリックします。

2. 「垂直基準」ドロップダウンから現場に合った基準を選択します。



- ・座標系はプロジェクト作成後も「各種設定」から変更できます。
- ・平面直角座標系は全国を 19 の系番号で区分しています。現場の都道府県に対応する系番号を選択してください。

系番号	座標系原点の経緯度		適用区域	対応するEPSGコード	
	緯度（東経）	緯度（北緯）		水平	垂直
I	129度30分0秒 0000	33度0分0秒 0000	長崎県 鹿児島県のうち北方北緯32度南方北緯27度西方東経128度18分東方東経130度を境界線とする区域内（奄美群島は東経130度13分までを含む。）にあるすべての島、小島、環礁及び岩礁	6669	6695
II	131度 0分0秒 0000	33度0分0秒 0000	福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県（I系に規定する区域を除く。）	6670	
III	132度10分0秒 0000	36度0分0秒 0000	山口県 島根県 広島県	6671	

系番号	座標系原点の経緯度		適用区域	対応するEPSGコード	
	緯度（東経）	緯度（北緯）		水平	垂直
IV	133度30分0秒 0000	33度0分0秒 0000	香川県 愛媛県 徳島県 高知県	6672	
V	134度20分0秒 0000	36度0分0秒 0000	兵庫県 鳥取県 岡山県	6673	
VI	136度 0分0 秒0000	36度0分0秒 0000	京都府 大阪府 福井県 滋賀県 三重県 奈良県 和歌山県	6674	
VII	137度10分0秒 0000	36度0分0秒 0000	石川県 富山県 岐阜県 愛知県	6675	
VIII	138度30分0秒 0000	36度0分0秒 0000	新潟県 長野県 山梨県 静岡県	6676	
IX	139度50分0秒 0000	36度0分0秒 0000	東京都（XIV系、XVIII系及びXIX系に規定する区域を除く。） 福島県 栃木県 茨城県 埼玉県 千葉県 群馬県 神奈川県	6677	
X	140度50分0秒 0000	40度0分0秒 0000	青森県 秋田県 山形県 岩手県 宮城県	6678	
XI	140度15分0秒 0000	44度0分0秒 0000	小樽市 函館市 伊達市 北斗市 北海道後志総合振興局の所管区域 北海道胆振総合振興局の所管区域のうち豊浦町、壮瞥町及び洞爺湖町 北海道渡島総合振興局の所管区域 北海道檜山振興局の所管区域	6679	
XII	142度15分0秒 0000	44度0分0秒 0000	北海道（XI系及びXIII系に規定する区域を除く。）	6680	
XIII	144度15分0秒 0000	44度0分0秒 0000	北見市 帯広市 釧路市 網走市 根室市 北海道オホーツク総合振興局の所管区域のうち美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町及び大空町 北海道十勝総合振興局の所管区域 北海道釧路総合振興局の所管区域 北海道根室振興局の所管区域	6681	
XIV	142度 0分0 秒0000	26度0分0秒 0000	東京都のうち北緯28度から南であり、かつ東経140度30分から東であり東経143度から西である区域	6682	
XV	127度30分0秒 0000	26度0分0秒 0000	沖縄県のうち東経126度から東であり、かつ東経130度から西である区域	6683	
XVI	124度 0分0 秒0000	26度0分0秒 0000	沖縄県のうち東経126度から西である区域	6684	
XVII	131度 0分0 秒0000	26度0分0秒 0000	沖縄県のうち東経130度から東である区域	6685	
XVIII	136度 0分0 秒0000	20度0分0秒 0000	東京都のうち北緯28度から南であり、かつ東経140度30分から西である区域	6686	
XIX	154度 0分0 秒0000	26度0分0秒 0000	東京都のうち北緯28度から南であり、かつ東経143度から東である区域	6687	

3. 「次へ」ボタンをクリックします。



現場で設定された単位と、Smart Construction Dashboardで設定された単位が一致している必要があります。

修正が必要な場合は、以下の手順で行ってください。

1. 「Smart Construction」のページで、「現場一覧」タブをクリックします。
2. 修正が必要な現場を選択し、右下の「現場情報を編集」ボタンをクリックします。
3. 「詳細設定」をクリックし、該当の単位を修正してください。

3.3 単位

計測時に表示する「勾配」の単位を設定します。

■ 操作手順

1. 「新規現場作成」画面で「単位」タブをクリックします。

新規現場作成

☒ 新施工現場 ☒ 座標系 ☒ 単位 ☐ メンバーを追加

測定時に表示する単位を選択します。

勾配

角度

2. 使用する単位（角度（°）、割合（%）、比率（：））を選択します。

新規現場作成

☒ 新施工現場 ☒ 座標系 ☒ 単位 ☐ メンバーを追加

測定時に表示する単位を選択します。

勾配

角度

角度

%

比率

3. 「次へ」ボタンをクリックします。



この設定は後から「各種設定」でも変更できます。

3.4 メンバーの追加

登録されているメンバーを現場に追加します。

■ 操作手順



組織外ユーザーを追加する場合は、「組織外ユーザーを招待する」を選択し、メールアドレスを入力して、「メンバーを追加」ボタンをクリックしてください。追加したいメンバーにメールで招待通知が送られます。

3.4.1 メンバーの招待

管理者は「Smart Construction」画面からも、現場ごとのメンバーを招待できます。

■ 操作手順

1. 「Smart Construction」画面の「現場一覧」タブをクリックします。



2. メンバーを招待したい現場をクリックし、[新規メンバーを追加する] ボタンをクリックします。

Smart Construction

← 現場一覧に戻る

進行中 2025/09/01～2030/12/31

DXPP交流会 デモ 道路工事

参加者一覧 招待中のメンバー

参加者一覧

新規メンバーを追加する

すべて ▼

名前を検索する 検索する

チェックしたメンバーの参加を解除する

3. [組織内の所属メンバーから追加する] をクリックします。所属しているメンバーが表示されたら、追加したいメンバーを選択し、[メンバーを追加する] ボタンをクリックしてください。

現場に追加するメンバーを選択

● 組織内の所属メンバーから追加する ○ 組織外ユーザーを招待する

名前を検索する メールアドレスを検索 検索する

やめる メンバーを追加する



- ・組織外ユーザーを追加する場合は、[組織外ユーザーを招待する]を選択し、メールアドレスを入力して、[メンバーを追加する] ボタンをクリックしてください。追加したいメンバーにメールで招待通知が送られます。

現場に追加するメンバーを選択

☐ 組織内の所属メンバーから追加する

☒ 組織外ユーザーを招待する

権限の詳細はこちら

メールアドレス

権限

役割

追加する

現場監督

現場監督

作業員（リーダー）

作業員（一般）

関係者（閲覧者）

メンバーを追加する

- ・組織外ユーザーを追加する場合、対象ユーザーは他組織の事業者アカウントにメンバーとして登録済みである必要があります。

招待を受けたユーザーは、メール内のリンクから初回登録を行う必要があります。リンクの有効期限にご注意ください。

- ・権限については、以下のとおりです。

アクセスレベル	閲覧 *1	書込・編集・削除 *2	機器の接続 *3	現場情報・参加者管理 *4
現場監督	○	○	○	○
作業員（リーダー）	○	○	○	—
作業員（一般）	○	○	—	—
関係者（閲覧者）	○	—	—	—

*1 データの閲覧、ダウンロード権限

*2 データ（メッセージデータ、ファイル、位置情報）のアップロード権限、ファイルストレージのファイル作成、更新、削除権限

*3 削除を除くデバイス、チャンネル、パケット、地理情報の作成、更新権限

*4 現場情報の更新、参加者招待を含む全操作が可能な権限

- ・ユーザー登録されると、以下のアドレスからログインできます。

<https://auth.pf.smartconstruction.com>

3.5 建機情報の紐づけ

利用する建機を現場（プロジェクト）に紐づけます。

■ 操作手順

1. 「プロジェクト」画面の「建機」ボタンをクリックします。



2. 紐づけを行う建機をクリックし、[+ 建機を現場に追加] ボタンをクリックします。

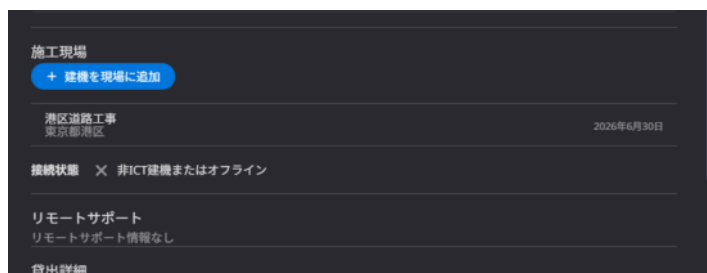


プロジェクト内のサイドパネル「建機」からも、現場に建機を紐づけることができます（「[13.2 プロジェクト外建機管理](#)」参照）。

3. 紐づける現場名を選択し、[追加] ボタンをクリックします。



現場情報に建機が登録されます。



■ 稼働期間の設定

建機を現場に紐づける際に、稼働開始日と稼働終了日を設定できます。

1. 稼働開始日：建機が現場で稼働を開始する日付を設定します。
2. 稼働終了日（任意）：設定されるまで「未定」となります。後から変更できます。



稼働期間の日付は、「建機詳細」パネルの鉛筆アイコンをクリックして後から変更できます。

4 各種データ登録

Smart Construction Dashboard では、設計データや測量データなどの各種データを「データレイヤー」として登録し、3Dビュー上に重ねて表示できます。本章では、データの登録方法と、データの種類ごとの登録・設定手順を説明します。また、登録したデータを Komatsu 製 ICT 建機へ転送する方法も説明します。

4.1 データの登録方法

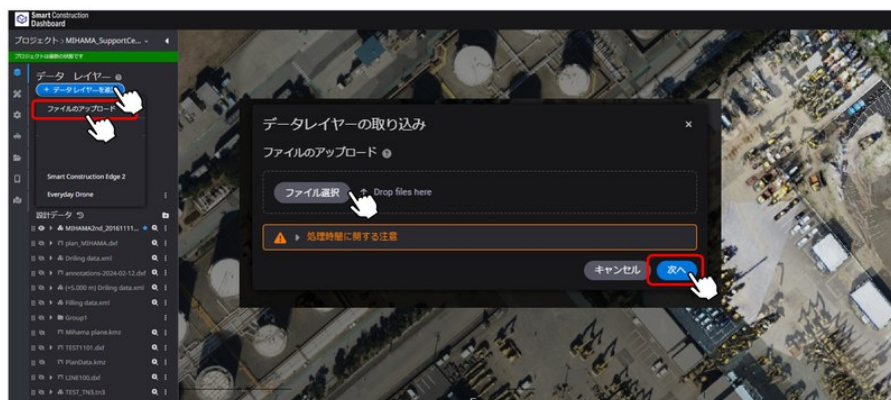
各種データは、共通の操作で「データレイヤー」として登録します。本節では、すべてのデータの種類の共通する基本的な登録手順と、登録後の表示設定を説明します。データの種類ごとの個別の設定は、4.2以降を参照してください。

■ 操作手順

1. 該当のプロジェクトを開き、「データレイヤー」アイコンをクリックします。



2. 3Dビュー左側のパネルで「データレイヤーを追加」をクリックし、「ファイルのアップロード」を選択します。



3. 登録するファイルを画面にドラッグ＆ドロップするか、「ファイル選択」をクリックしてファイルを指定します。

4. 「登録データの種類」で、登録するデータに合った種類を選択します。



5. 「データ名」を確認し、必要に応じて変更します。
 6. 取り込みを実行すると、データがデータレイヤーとして登録され、3Dビューに表示されます。

アップロードできるデータの種類と対応ファイル形式は以下のとおりです。

データレイヤータイプ	対応ファイル形式	備考
オルソ	GeoTIFF (.tiff, .tif)	ファイルはジオリファレンスされている必要があります。
点群測量データ	LASer (.las, .laz)、CSV (.txt, .csv)、LandXML (.xml)、DXF (.dxf)	CSVファイルはプロジェクトで指定した座標系・単位を使用します。ジオリファレンス済みLASerはファイル内の座標系を使用します。
DTM/DSM測量データ	GeoTIFF (.tiff, .tif)	点群データと併用すると統合地形の解像度が低下する場合があります。
施工開始前測量	LASer (.las, .laz)、CSV (.txt, .csv)、LandXML (.xml)、DXF (.dxf)	目標設計面が登録されている場合、欠落している測量範囲は目標設計面で補間されます。
施工履歴データ (建機)	LASer (.las, .laz)、CSV (.txt, .csv)、LandXML (.xml)、DXF (.dxf)	
設計面	DXF (.dxf)、LandXML (.xml)、Trimble (.ttm, .svd, .dsz)、TOPCON (.tp3, .tn3)	ファイル内に単位が指定されていない場合はプロジェクトの単位を使用します。
設計平面図 (ラインワーク)	DXF (.dxf)、LandXML (.xml)、Trimble (.svl, .dsv)、TOPCON (.tp3)	ファイル内のレイヤー構造はサブレイヤーとして保存されます。
オーバーレイデータ	CZML (.czml)、GeoJSON (.json, .geojson)、KML (.kml, .kmz)	EPSG 3875 (WGS84 Spherical Mercator) プロジェクションで処理されます。
2次元設計図	GeoTiff (tif, tiff)	
構造物設計データ	IFCファイル (.ifc)	橋やその他の構造物のコンポーネントをレイヤーフォーマットで含みます。



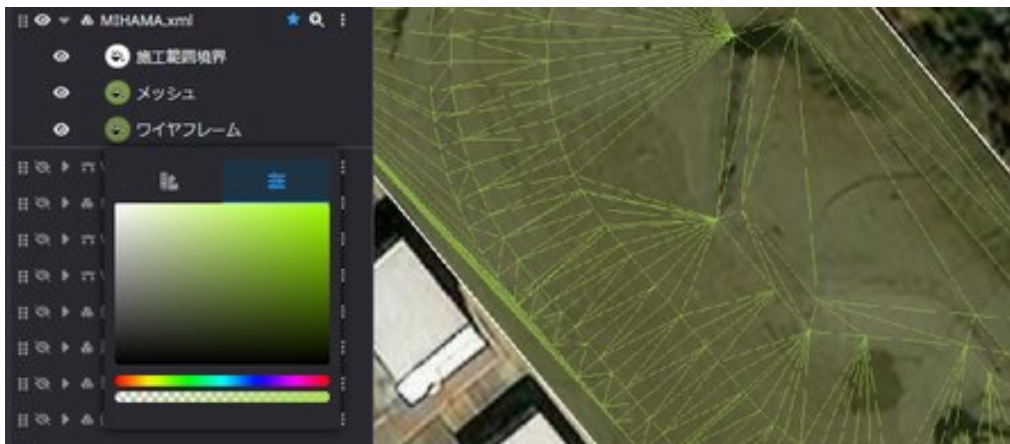
登録できるデータの種類には、設計データ、ラインワーク（平面図）、測量データ、施工履歴データ、オルソ画像、地理情報データなどがあります。種類ごとの詳細は4.2以降を参照してください。

■ 表示の切り替えと設定

登録したデータレイヤーは、左側のパネルで表示／非表示や色などを切り替えられます。

- 各レイヤー名の左にある目のアイコンをクリックすると、表示／非表示を切り替えられます。
- 各レイヤー名の「▼」をクリックすると、色や透過率を変更できます。

設計データは「▼」を展開し、「施工範囲境界」「メッシュ」「ワイヤーフレーム」の左側にあるペンキ缶アイコンをクリックすると、色や不透明度を指定できます。測量データは「▼」から「透明度」と「点のサイズ」を指定できます。



4.2 3次元設計データの登録・設定

3次元設計データ（設計データ）は、施工の目標となる地形や構造物の設計情報です。LandXML形式などのファイルを登録し、目標設計面として設定することで、現況の地形との差分から土量を算出できます。

■ 操作手順

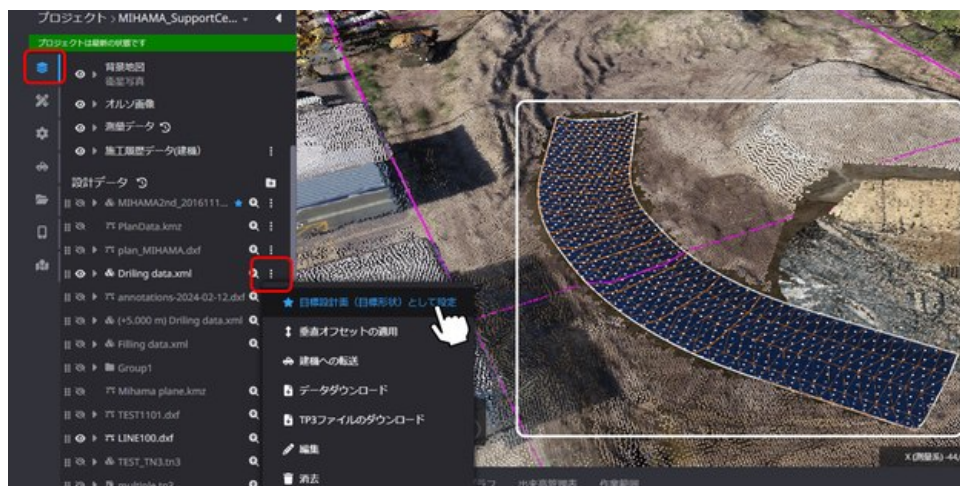
1. 4.1の手順でファイルをアップロードし、「登録データの種類」で「設計データ」を選択して登録します。



複数の設計データがある場合は▼をクリックすると、設計データが一覧で表示されます。



2. 登録した設計データを選択し、メニューから「目標設計面（目標形状）として設定」をクリックします。



ボトムパネルで「進捗管理」による土量の算出ができるようになります。



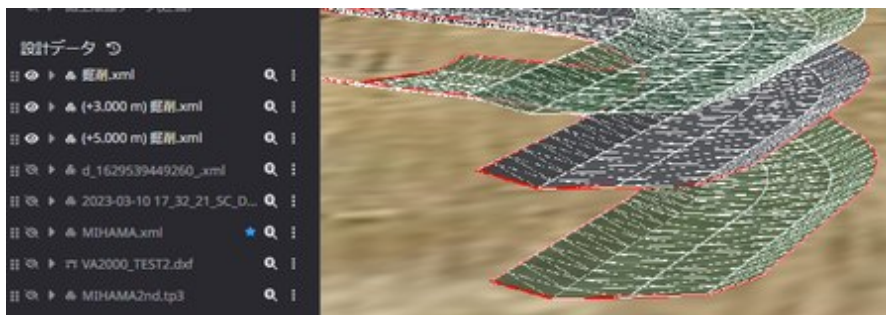
進捗管理を表示するには、目標設計面（目標形状）／施工前測量／計測データまたは施工履歴データなど、必要なデータが設定されている必要があります。設定されていない場合は、不足しているファイルごとに通知が表示されます。



目標設計面として設定できるデータは1つのみです。

■ 表示・オフセットの設定

- 対象データの「▼」をクリックすると、色や透過率を変更できます。目のアイコンで表示／非表示を切り替えられます。
- 右上のアイコンからフォルダ（グループ）を作成してデータを管理できます。表示順序はドラッグ＆ドロップで変更できます。
- 「垂直オフセット」に値を入力すると、設計面の高さを調整できます。



- ・ 設計領域にマウスを重ねると、施工領域を計測エリアとして設定できます。



現在、オフセット後の高さを保持したデータの出力には対応していません。また、データの拡張・延伸などには対応していません。

登録した設計データは、Komatsu製 ICT建機への転送にも利用できます。転送方法は「[4.3 建機へのファイル転送](#)」を参照してください。

4.3 建機へのファイル転送

準備した転送可能なデータを、プロジェクト内に登録したKomatsu製 ICT建機にリモートで転送することができます。

転送方法は以下のとおりです。

- ・ 設計データレイヤーからの転送方法
- ・ サイドパネルの「プロジェクトファイル」から転送する方法



Komatsu製 ICT建機ではなく、3DMG建機にデータを転送したい場合は、Smart Construction Pilot のWebアプリからのみ転送ができます。サポートメニューを参照してください。

[Smart Construction Support](#)

■ 設計データレイヤーからの転送方法

設計データとして登録したデータをKomatsu製 ICT建機に転送します。

1. 設計データとして登録したデータを選択し、メニューボタンをクリックします。
2. 「建機への転送」をクリックし、転送したい建機・データ転送の承認者を選び、転送します。



3. 承認者にメールまたは製品内で通知が送信されます。ブラウザを更新し、ヘルマークまたは各建機の転送パネルから「承認」をクリックすると、ファイル転送が開始されます。



ファイル転送の承認は、転送時に指定した承認者のみが行えます。

設計データのレイヤーから転送する際の、元の形式と建機へ転送される形式は以下のとおりです。

Dashboar	建機に転送される形式	備考
3D設計データ (LandXML・DXF・DWG)	TP3 (自動変換)	ローカライゼーションの現場では、基準点 (登録中のgc3) を埋め込んだTP3を送付します。
ラインワーク (LandXML・DXF・DWG)	LN3 (自動変換)	—
TP3・TN3・LN3 (変換済みデータ)	そのまま送付	変換されません。



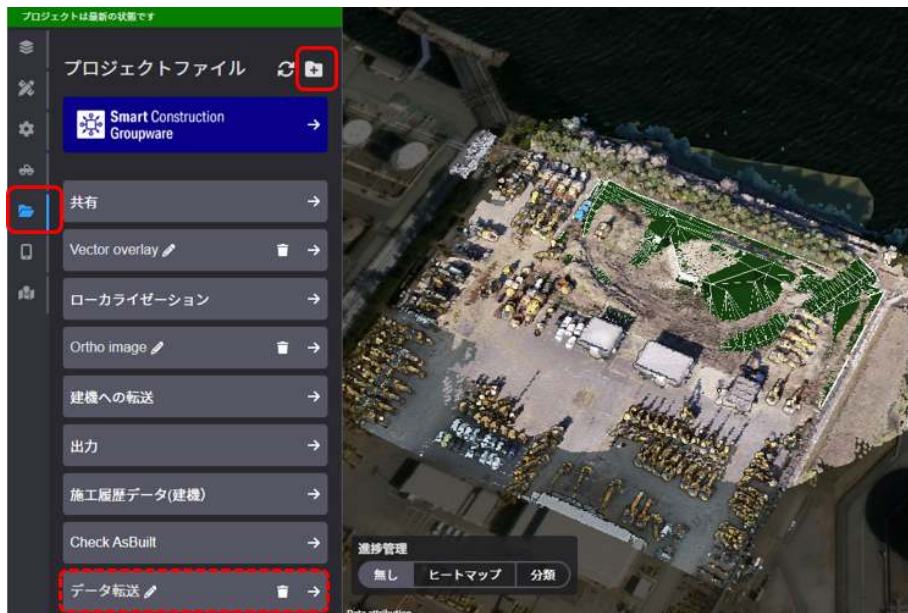
・複数のレイヤーを持つLandXMLデータは転送できません。

・PC200i-12の場合

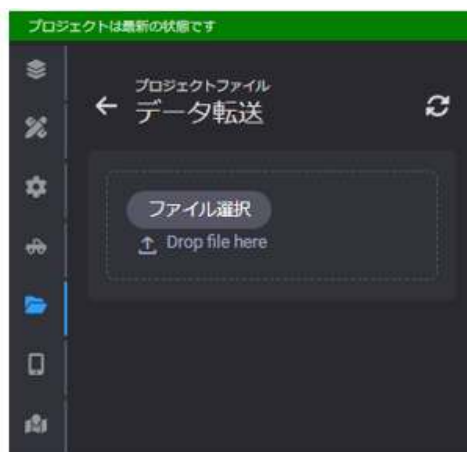
TP3データを転送した場合、ICTモニタ上部にファイル転送リクエストが表示され、[許可] ボタンをクリックすることで「受信トレイ」にデータが入ります。

■ サイドパネルの「プロジェクトファイル」から転送

1. サイドパネルの「プロジェクトファイル」をクリックし、「フォルダ作成」ボタンをクリックして、データ転送用のフォルダを作成します。（転送用のフォルダは編集ボタンにて名称変更を推奨します）



2. 転送するデータをフォルダ内にインポートします。





建機へ転送できるデータ

ICT建機で施工するために必要なデータをプロジェクト内からKomatsu製ICT建機に転送する場合に限ります。対象データは以下となります。

- ・「ローカライゼーション」フォルダ：gc3
 - ・「建機への転送」：sl3
 - ・「その他データ」：tp3 .tn3 .ln3 .bk3 .mx3 .rd3 .gd3 .pt3 .pl3 .dwg
- * 転送できるサイズは10MB/回までとなります。
- * データ名称には特殊文字を含まないことを推奨します。

3. インポートしたデータのサブメニューボタンをクリックし、「建機への転送」をクリックします。



4. データを転送する建機にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



転送には承認が必要であり、必ず承認者を選んでください。承認者はアプリケーションのライセンスを保有する関係者を選択してください。



転送後、承認者へは"noreply-dashboard@smartconstruction.com"からメールが届きます。リンクをクリックするとプロジェクト現場が表示されます。

メールが見られない場合、承認者がアプリケーションを開くことで画面右上のお知らせアイコンに通知されます。

転送メール例

建機へのファイル転送要求が
より行われました。

送信先：
PC200I-10-454238

送信ファイル：
掘削.tp3

依頼日時： 2023-07-10T05:02:32Z

Dashboard 上で、内容確認の上、承認願います。

https://jpn01.safelinks.protection.outlook.com/?url=https%3A%2F%2Fdashboard.smartcons%2Fbf2b51794ce2&data=05%7C01%7Cdaigo_manzawa%40global.komatsu%7C1300696f61ef4e60dcf7C0%7C638245621596059272%7CUnknown%7CTWFpbGZsb3d8eyJWljoIMC4wLjAwMDAiLCJQIjI%7C%7C&sdata=HdK%2BgF1roQUe6gAsPnbZsTVEAwQ3L0HuaRujDCfDSNM%3D&reserved=0

転送後に遅延していると感じた場合は、ブラウザの更新を何度か行ってください。

5. お知らせアイコンをクリックし [承認] を選択すると、建機へ転送がかかります。





- ・建機側がオフライン（モニタのインターネット接続が確認できない状態）の場合は、オンライン（エンジンがかかっていてモニタのインターネット接続ができている状態）になったタイミングでデータを受信します。転送後、建機がオフラインのまま72時間経過すると、転送できずエラーになります。建機のステータスが緑色になっていればオンラインの状態です。



・転送履歴・状況の確認

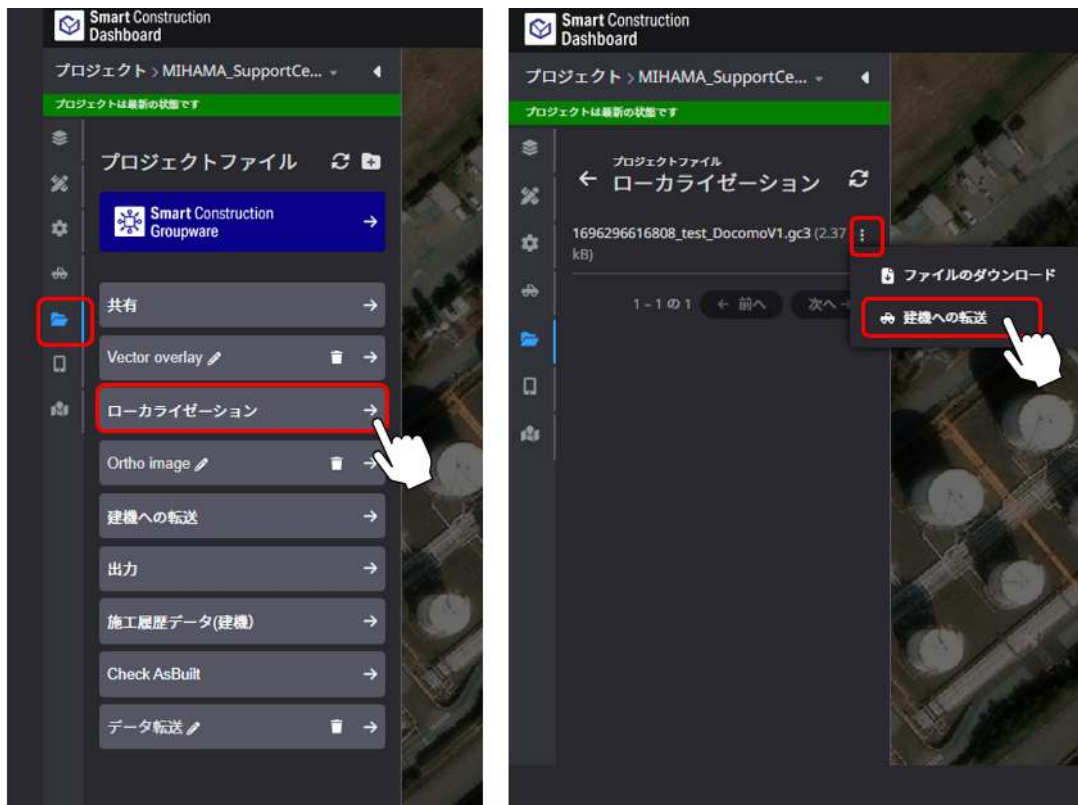
データの転送後、[建機への転送履歴] をクリックすると、一覧履歴より確認ができます。その他確認方法として、登録している建機を選択後、「転送」タブを選択すると転送日・転送データが確認できます。



■ [ローカライゼーション] を選択して、Komatsu製 ICT建機に転送する方法

1. サイドパネルの[プロジェクトファイル] をクリックします。
2. [ローカライゼーション] を選択します。

3. メニューボタンから「建機への転送」をクリックします。

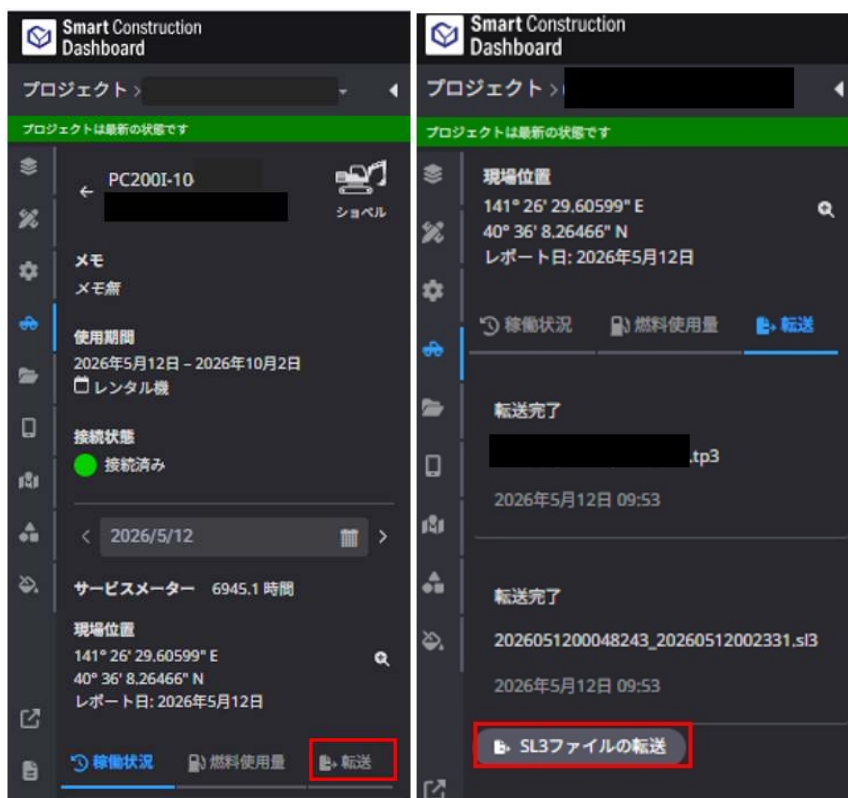


■ SL3ファイルの転送

プロジェクト建機パネルでは、建機を開いて「SL3ファイルの転送」から転送をリクエストすることもできます。

1. 建機を開いて「転送」をクリックします。

2. 「SL3ファイルの転送」をクリックします。



4.4 3次元測量データの登録・設定

3次元測量データ（測量データ）は、ドローンや3Dスキャナーで取得した現況地形のデータです。点群やTIN（不整三角形網）などの形式で登録し、現況地形の把握や、設計データとの差分による土量の算出に使用します。



■ 操作手順

1. 4.1の手順でファイルをアップロードし、「登録データの種類」で「測量」を選択します。



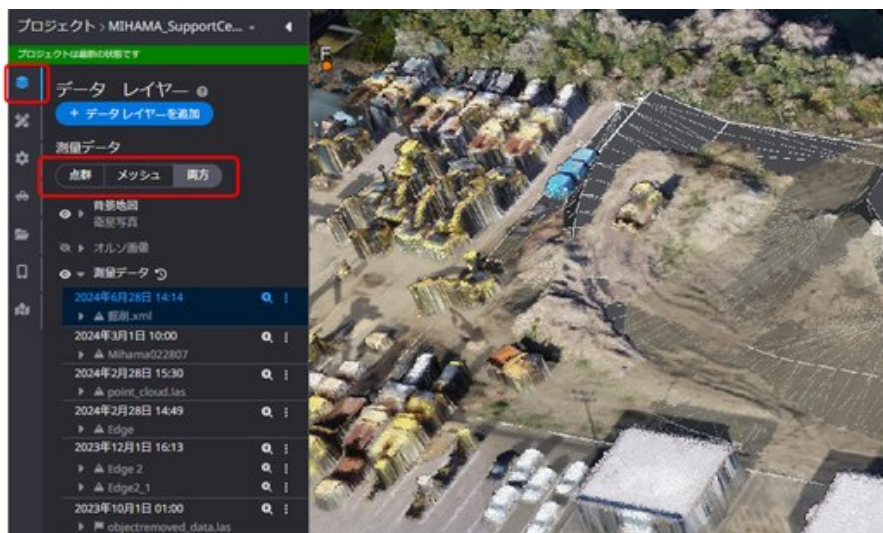
2. タイムスタンプ（測量日時）を設定し、「取り込み」をクリックします。
3. 「施工前地形（基準地形）」として登録するか、それ以外として登録するかを選択します。



施工前地形（基準地形）として登録したデータは、土量計算の基準となる地盤データとして扱われます。

■ 測量データの表示方法の変更

登録した測量データは、点群・メッシュ・点群とメッシュの両方のいずれかで表示できます。表示方法は、対象データのメニューから切り替えます。

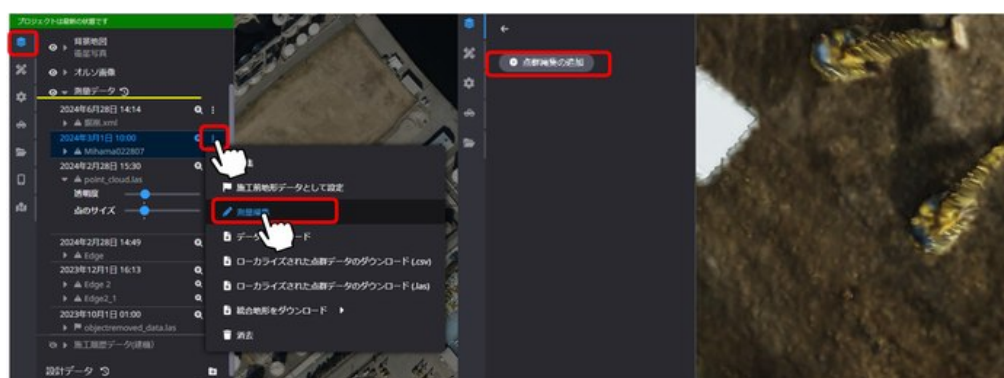




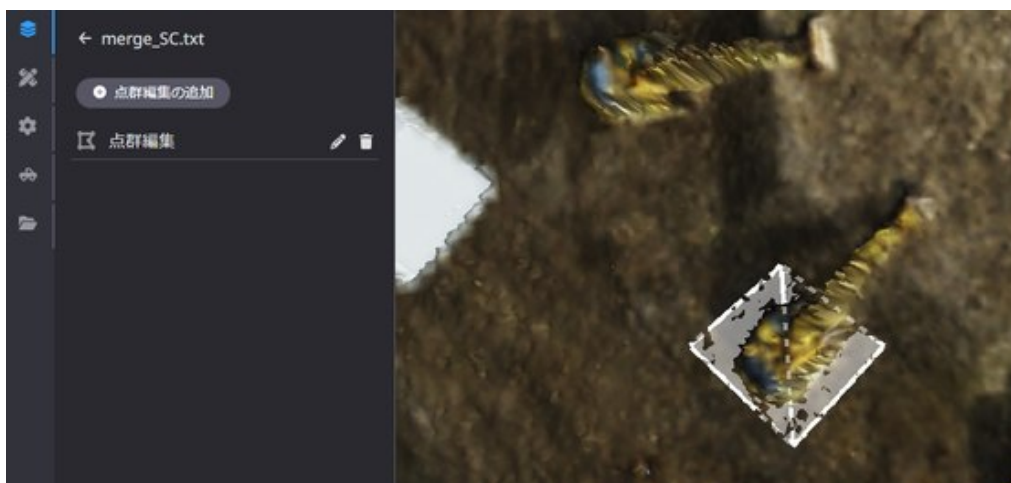
■ 点群データの編集（不要物の除去）

取り込み後の測量データは、樹木や建設機械などの不要な点群を除去できます。

1. 対象の測量データを選択し、編集メニューを開きます。



2. 除去する範囲を指定して、不要な点群を削除します。





斜面などの不要物の除去は目的としていません。平面上に点在する樹木・建設機械の除去に利用してください。

過去のデータの不要物を除去すると、編集したデータの登録日から再計算を行います。現在の日付より過去に遡るほど、再処理に時間がかかる場合があります。

■ 背景地図の透過率設定

スライダーを左右に動かすと、測量データ・設計データ・オルソ画像データの表示状態に応じて、背景地図の透過率を設定できます。

透過前

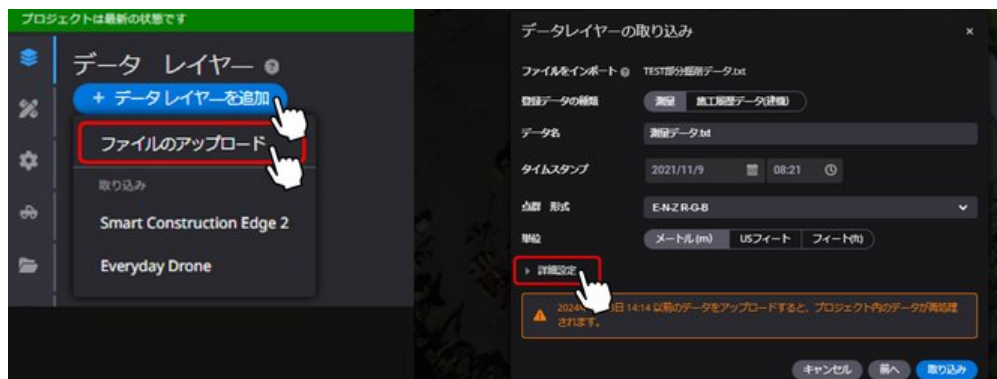
透過後



■ 詳細設定

測量データのインポート時に「詳細設定」をクリックすると、点群の補間や小数点の変更、高さ情報の設定などができます。

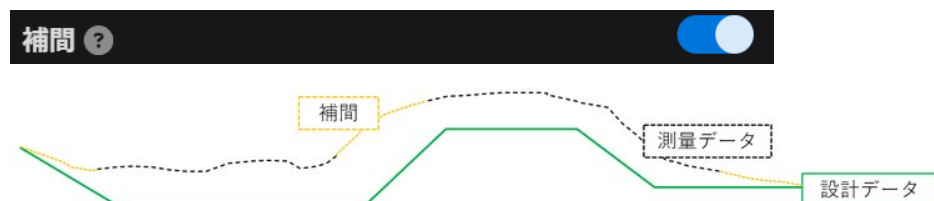
1. 測量データをインポートする際に「詳細設定」をクリックします。



2. 「詳細設定」画面で、必要な機能を選択して設定します。

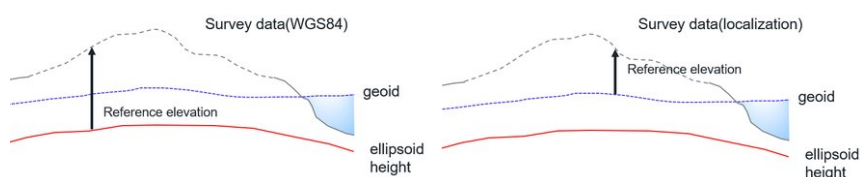


- ・補間：計測データの欠損や、設計範囲に対して不足した範囲を、周囲の点群から補間してカバーします。
- ・補間機能の使用時、点群にノイズが含まれている場合は、その点も利用するため、期待される形状と一致しないことがあります。



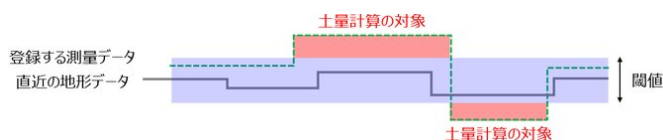
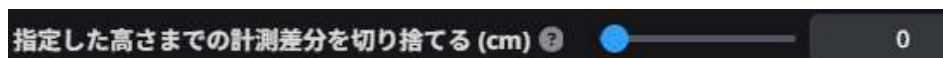
- ・小数点変更：座標値の小数点の表示形式を変更します。

- ・「座標の高さ情報をそのまま使用」は、ローカライゼーションの場合で、インポートするデータの高さ値が現場の座標系分の鉛直方向オフセットを既に含んでいる場合に使用します（オフセットが二重に適用されることを防ぐためです）。





- ・指定した高さまでの計測差分を切り捨て：指定した高さ（閾値）以下の計測差分を、土量計算で切り捨てます。
- ・「指定した高さまでの計測差分を切り捨て」は、土量の計算でのみ考慮されます。ビューア上には、取得したデータがそのまま反映されます。



- ・プロジェクション変更：投影座標系を個別に設定します。
- ・プロジェクション変更機能は、現場の設定でプロジェクション（座標系 + 垂直基準）が指定されている場合でも使用できます。



4.5 オルソ画像の登録

オルソ画像（正射画像）は、ドローンの空撮画像を、地表の起伏による歪みを補正して、真上から見た正しい縮尺・位置にした画像です。DTM（数値地形モデル）やDSM（数値表層モデル）を、GeoTIFF形式で登録できます。



■ 操作手順

1. 4.1の手順でファイルをアップロードします。



複数のオルソ画像データファイルは、まとめて取り込むと自動的に合成されます。

2. タイムスタンプ（登録日時）を設定し、[取り込み] をクリックします。

- ・ オルソ画像データ

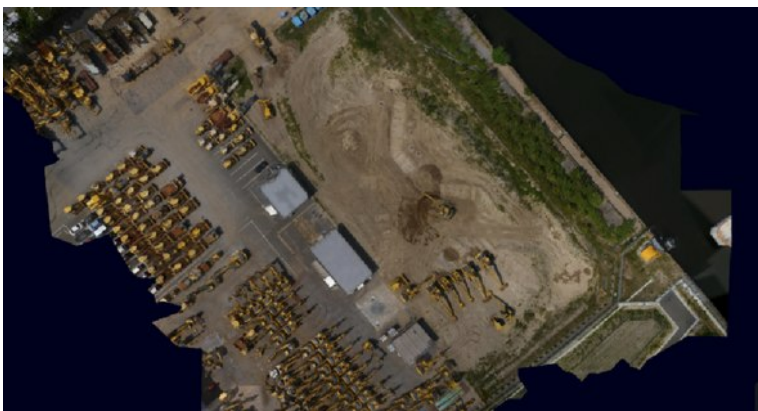
The screenshot shows the 'データレイヤーの取り込み' (Data Layer Import) dialog box. The 'ファイルのインポート' (File Import) section lists 'オルソテスト3_georeferenced.tiff' and 'オルソテスト1_georeferenced.tiff'. The '登録データの種類' (Data Type) is set to 'オルソ' (Ortho). The 'データ名' (Data Name) is 'オルソテスト3_georeferenced.tiff'. The 'タイムスタンプ' (Timestamp) is set to '2/21/2022' at '19:32'. There is a '詳細設定' (Advanced Settings) link. At the bottom are buttons for 'キャンセル' (Cancel), '前へ' (Previous), and '取り込み' (Import).

- ・ DTM/DSMデータ

The first screenshot shows the 'データレイヤーの取り込み' (Data Layer Import) dialog for DTM/DSM data. The 'ファイルのアップロード' (File Upload) section shows 'point survey.tif' and 'ortho.tif'. The '登録データの種類' (Data Type) is set to 'DTMデータ' (DTM Data). The 'データ名' (Data Name) is 'point survey.tif'. The 'タイムスタンプ' (Timestamp) is set to '2024/7/12' at '09:00'. There are buttons for 'キャンセル' (Cancel), '前へ' (Previous), and '取り込み' (Import). The second screenshot shows the same dialog with the '取り込み' (Import) button highlighted.

■ オルソ画像データの表示

登録したオルソ画像データは、3Dビュー上の地形に重ねて表示されます。





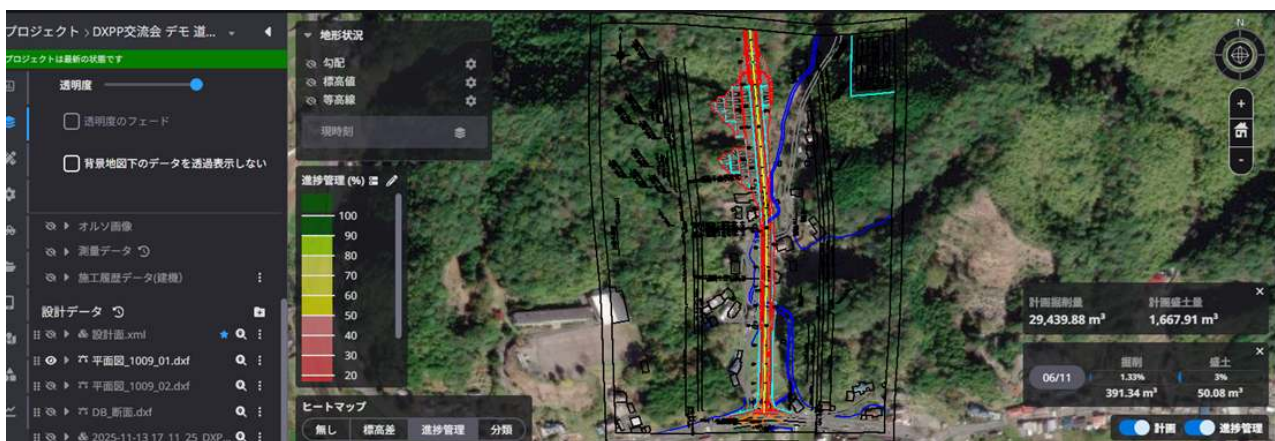
DTM/DSMデータの概要

- ・DTM（数値地形モデル）：建物や樹木などの地物を除いた、地盤（地表面）そのものの標高を表すデータです。
- ・DSM（数値表層モデル）：建物や樹木などの地物を含む、地表の最上面の標高を表すデータです。

設計データなどと背景地図の合致性は、必ずしも正確ではない場合があります。精度を確保するため、測量時に取得したオルソ画像データの利用を推奨します。

4.6 平面データの登録・設定

平面データは、平面図（2次元の設計図や施工図）のデータです。「ラインワーク」として登録し、地形データや設計データに重ねて表示できます。



ご利用になる平面データ等と背景地図の合致性は、必ずしも正確ではない場合があるため、測量時に得られるオルソ画像データの利用を推奨します。

■ 操作手順

1. 4.1の手順でファイルをアップロードします。

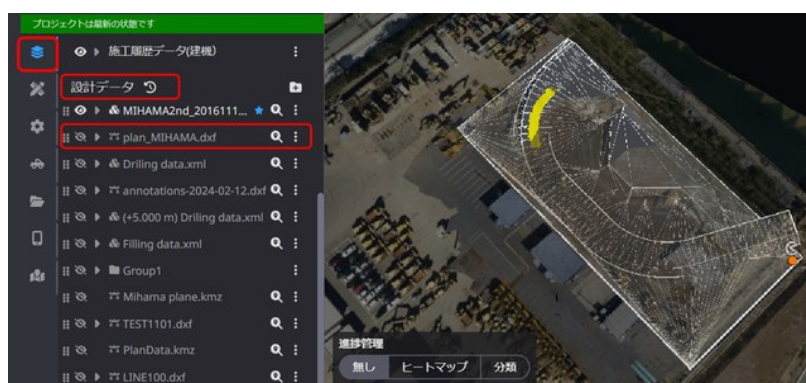


- ・アップロードの前に、縮尺・単位・座標系が、プロジェクトの設定と一致していることを確認してください。
- ・DXFデータの出力データのバージョンはAutoCAD 2010以上を推奨します。

2. 「登録データの種類」で「ラインワーク」を選択します。



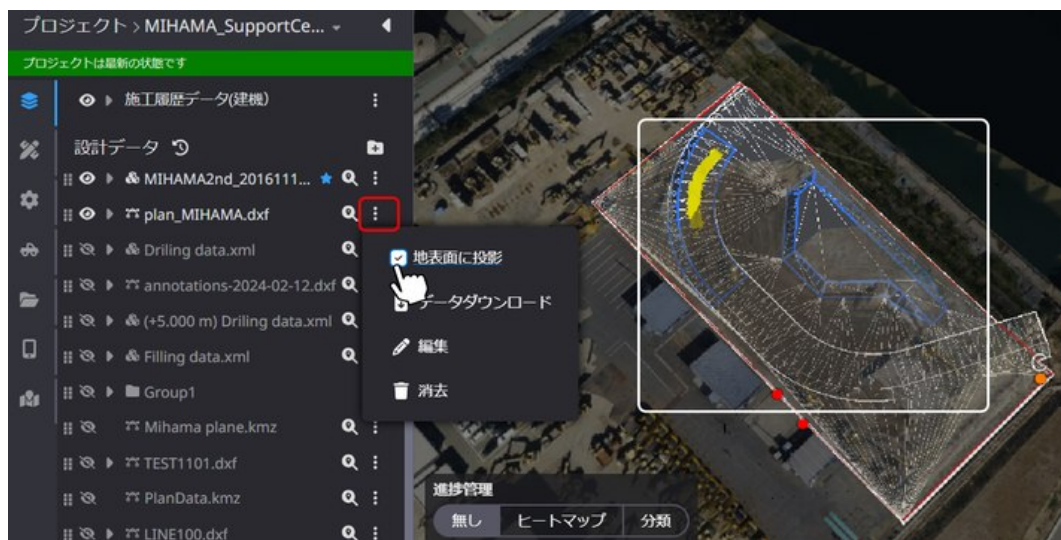
3. 登録後、サイドパネルの設計データ一覧で、登録された平面データを確認します。



■ 地形・設計データへの重ね合わせ

平面データを地形や設計データに重ねて表示するには、「地表面に投影」を有効にします。

1. 対象の平面データのメニューから「設定マーク」をクリックします。
2. 「地表面に投影」にチェックを入れます。

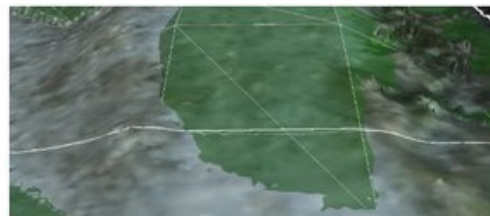
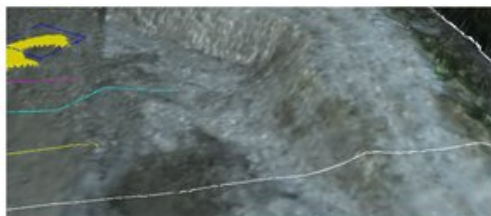




- ・平面図内の文字は、地形などには重なりません。
- ・表示結果は、測量データ・設計データ・オルソ画像データの表示状態によって異なります。
- ・測量データのみ表示オンの場合は、地形に沿って平面図が張り付きます。
 - * 併せて設計データ表示オンを使用中の場合、標高を考慮し優先順が変わります。

測量データのみ表示オン

測量データ・設計データ表示オン



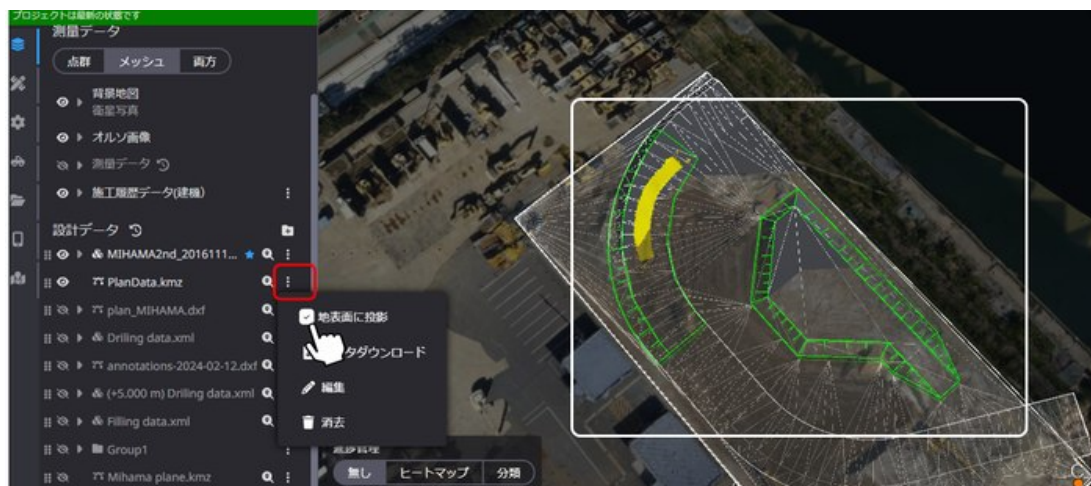
- ・測量データ表示がオフの場合、オルソ画像データ・背景マップの優先順に平面図が張り付きます。
- ・オルソ画像データ表示がオンの場合は、背景マップよりオルソ画像データが優先され平面図が表示されます。



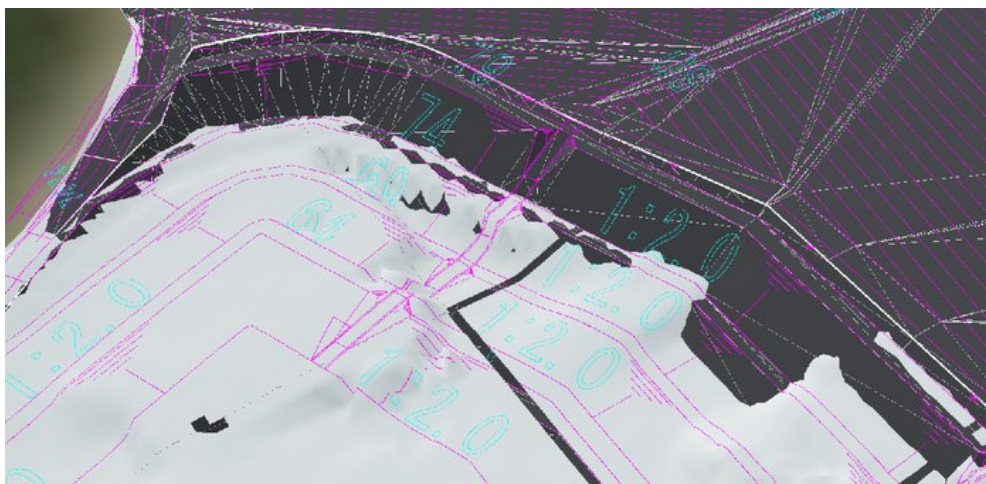
4.7 地理情報データの登録・設定

地理情報データは、KMZ・KML・GeoJSON形式の地理情報のデータです。「オーバーレイデータ」として登録し、地形データや設計データに重ねて表示できます。

2. 「地表面に投影」にチェックを入れます。



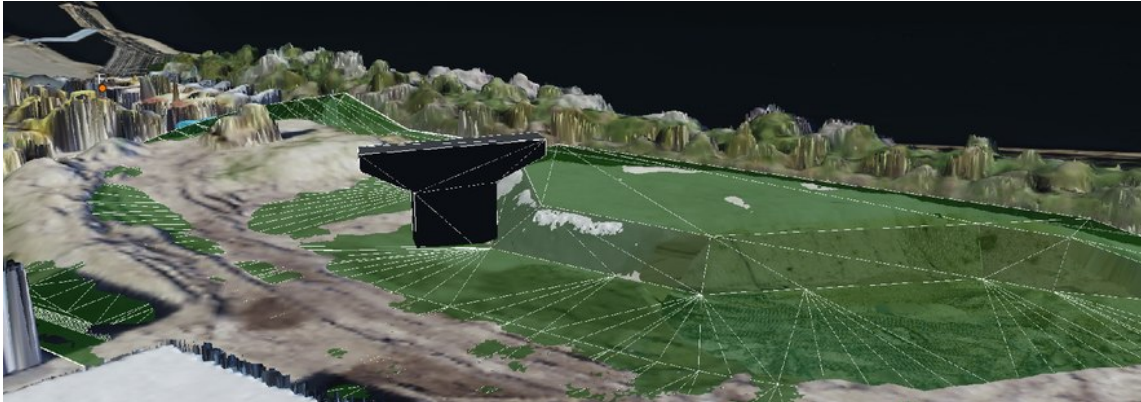
「地表面に投影」を有効にすると、CADデータのレイヤー色が反映されます。



文字や線の情報量が多い場合は、規模によって処理が遅くなることがあります。事前にCADソフトで必要な種別を選定してからアップロードすることを推奨します。

4.8 構造物データの登録・設定

構造物データは、橋梁や擁壁などの構造物を表すIFC形式のデータです。「構造物設計データ」として登録し、現場の完成までの進捗を共有できます。

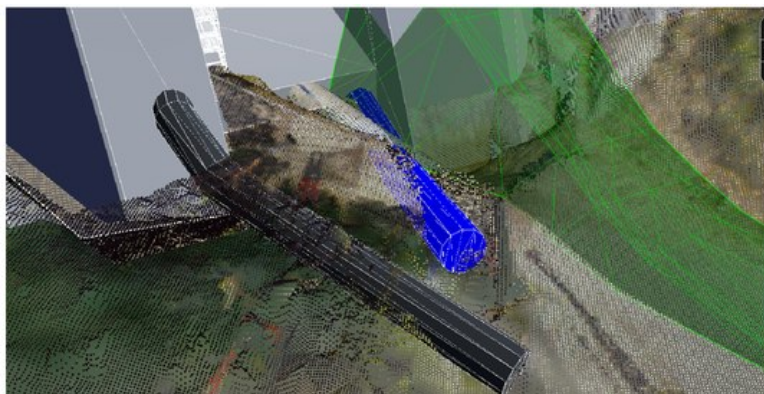


■ 操作手順

1. [4.1](#)の手順でファイルをアップロードします。



- ・構造物データは「構造物設計データ」として登録されます。登録データの種別は自動的に選択されます。
- ・タイムスタンプ（登録日時）の設定はありません。



- ・構造物モデルは、計測機能の対象外です。計測エリアに構造物モデルが含まれていても、土量計算の対象から除外されます。
- ・構造物モデルの色は、出力元のデータ属性設定に依存するため、アップロード後に変更できません。
- ・アップロードの前に、登録する現場と同じ縮尺に調整してください。

4.9 施工履歴データの登録

施工履歴データ（建機）は、ICT建機の施工実績を記録したデータです。

Komatsu製ICT建機やEARTHBRAIN製3DMG装着済み建機は、現場を作成したうえで、建機へのファイル転送（[4.3 建機へのファイル転送](#)）で説明するSitelinkIDの設定を建機側で読み込むことにより現場と紐づけられ、その後はインターネット環境下で施工実績が自動的にアップロードされます。他メーカーの建機やオフライン環境では、手動で登録します。本節では、手動での登録方法を説明します。



■ 操作手順

1. 4.1の手順でファイルをアップロードします。施工履歴データ（建機）ファイルをドラッグ＆ドロップまたはローカルフォルダからアップロードします。



施工履歴データは、テキスト形式（.txt）を推奨します。

2. 「登録データの種類」で「施工履歴データ（建機）」を選択します。

データレイヤーの取り込み

ファイルをインポート ② DiffAsBuilt2023-06-09_2023-06-08.txt

登録データの種類 測量 施工履歴データ(建機)

データ名

タイムスタンプ

点群 形式 N-E-Z

▶ 詳細設定

キャンセル 前へ 取り込み

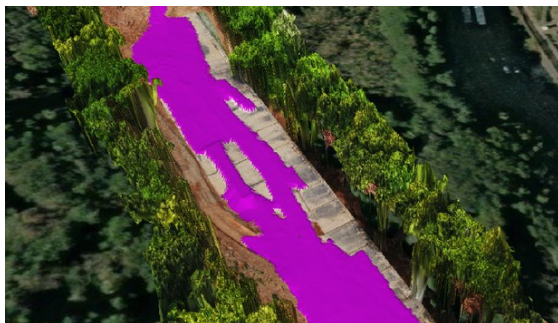
3. タイムスタンプ（施工完了の登録日時）を設定し、「取り込み」をクリックします。



・施工履歴データは、「N E Z」のみの配列にしてください（1行目のヘッダーも不要です）。

	A	B	C	D	E	F
1	-122794	18861.85	33.066			
2	-122803	18896.15	32.925			
3	-122806	18898.05	32.933			
4	-122734	18842.65	33.345			
5	-122812	18906.95	32.836			
6	-122684	18817.55	33.2074			
7	-122780	18890.05	33.023			
8	-122852	18914.55	32.599			

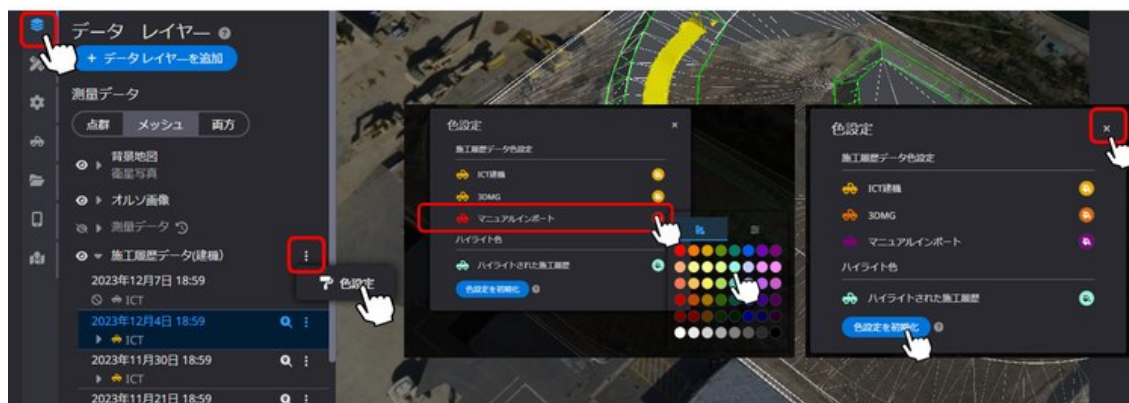
・登録した施工履歴データは、紫色で表示されます。



■ 色情報の設定

登録した施工履歴データの表示色は、変更できます。

1. 対象のデータレイヤーをクリックし、[色設定]を選択します。
2. マニュアルインポートのカラーアイコンをクリックします。
3. 色を変更し、[×] ボタンをクリックして反映します。



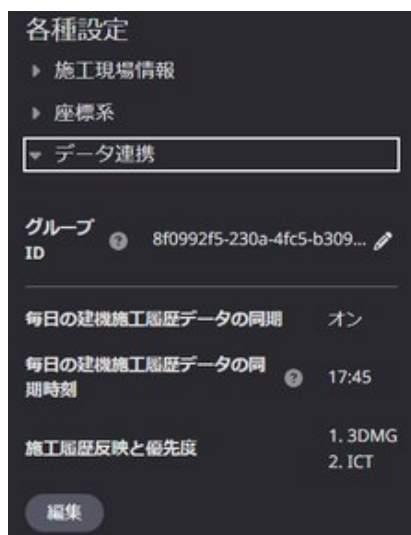
出力する施工履歴データには、色情報は反映されません。

■ 施工履歴データの取得時間の変更

Komatsu製ICT建機などの施工履歴データは、毎日自動的に同期されます。同期する時刻は、現場の稼働時間に合わせで変更できます。



1. サイドパネルの「設定アイコン」をクリックします。
2. 「データ連携」をクリックし、「編集」をクリックします。



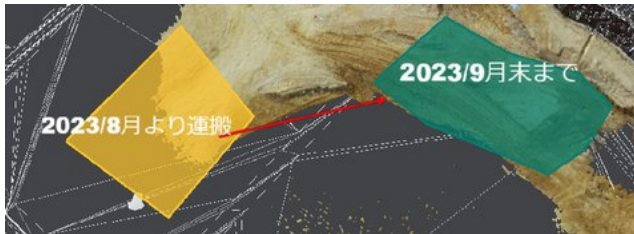
3. 「毎日の建機施工履歴データの同期」が「オン」になっていることを確認します。
4. 「毎日の建機施工履歴データの同期時刻」を設定します。



- ・同期時刻は、デフォルトで17:00が設定されています。
- ・同期時刻にはサマータイムの設定がありません。サマータイム期間中は、実際の現地時間より1時間遅れてデータの取得が開始されます。
- ・同期時刻を変更すると、初期地形から遡って再取得を行います。長期の現場では、取得の完了に時間がかかる場合があります。

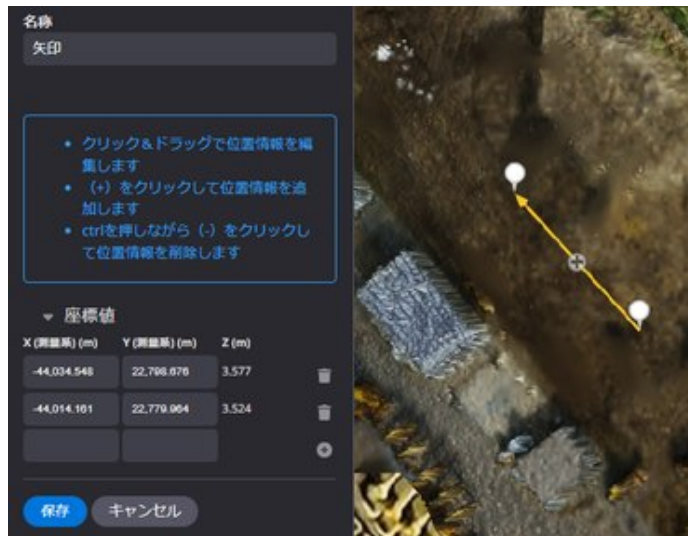
4.10 注釈の追加

地形データ上に、矢印や文字の注釈を追加して、施工計画や指示を共有できます。



■ 矢印を追加する

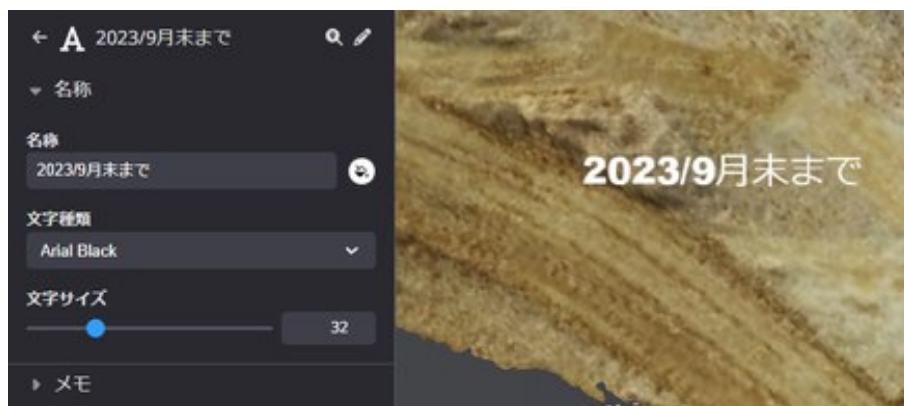
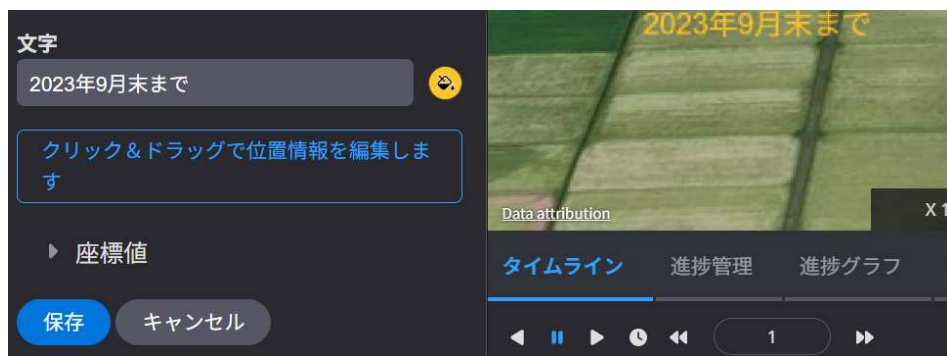
1. 計測アイコンをクリックし、「矢印」を選択します。
2. マウスの左クリックで起点と終点を指定し、右クリックで閉じて「保存」します。



■ 文字を追加する

1. 計測アイコンをクリックし、「文字」を選択します。
2. 左クリックで地形上に文字を配置する場所を指定します。

3. 「文字」BOXに表示したいテキストを入力し、「保存」します。



■ 注釈のファイル出力（DXF）

1. 「注釈と計測」タブから「注釈のファイル出力」ボタンをクリックします。



2. 出力したい注釈にチェックを入れます。



3. 「出力」ボタンをクリックします。



DXFで出力できる注釈は、マーキング・線分・多角形・矢印・文字入力です。複数の注釈を同時に出力すると、統合された1つのファイルが生成されます。

■ 注釈のファイル出力（KML）

注釈は KML 形式でも出力できます。対象の注釈のメニュー（三点リーダー）から「KMLの出力」をクリックします。



- ・KMLで出力できる注釈は、マーキング・線分・多角形・矢印です。文字入力は出力できません。
 - ・DXF出力と異なり、一度に出力できる注釈は1つのみです。
 - ・出力したKMLは、ドローンのフライト計画などに活用できます。
-

5 進捗・出来高の管理

「目標設計面（目標形状）」と「施工前測量」を設定すると、現場全体の切土・盛土量や進捗率を自動で算出・可視化できます。本章では、進捗・出来高の確認方法を説明します。目標設計面・施工前測量の登録は「[4.2 3次元設計データの登録・設定](#)」「[4.4 3次元測量データの登録・設定](#)」を参照してください。

5.1 目標設計面と施工前測量レイヤー

Smart Construction Dashboard のプロジェクトには、計測とレポートに使用される2つの主要なレイヤーがあります。

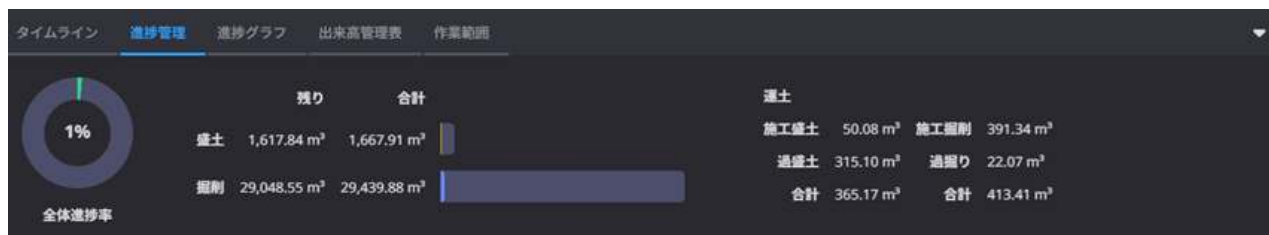
- ・ 施工前測量：施工開始前の現場の測量データです。プロジェクトごとに1回だけ登録でき、別の測量データに変更するには、「設定マーク」から「施工前地形データとして設定」を選択します。
- ・ 目標設計面（目標形状）：現場の最終設計を表す設計レイヤーです。プロジェクトに読み込んだ任意の設計レイヤーに変更できます。



「目標設計面」または「施工前測量」を変更すると、すべてのプロジェクトレイヤーが再タイリングされ、進捗の各計測値が再計算されます。

5.2 施工領域全体の自動計測

「目標設計面」と「施工前測量」を使用して、現場全体の進捗と日々の進捗が自動的に算出されます。算出結果は、3Dビュー下部の「進捗管理」タブと「出来高管理表」タブに表示されます。



出来高管理表							
日付		掘削 (m³)			施工完了率	盛土 (m³)	
		日次	残り			日次	残り
2026年5月25日	日	-5,223	29,049	1%	50	1,618	3%
2025年9月24日	日	227	23,825	19%	0	1,668	0%
2025年9月23日	日	1,101	24,053	18%	0	1,668	0%
2025年9月22日	日	1,003	25,153	15%	0	1,668	0%

5.3 計画&進捗 切土・盛土ウィジェット

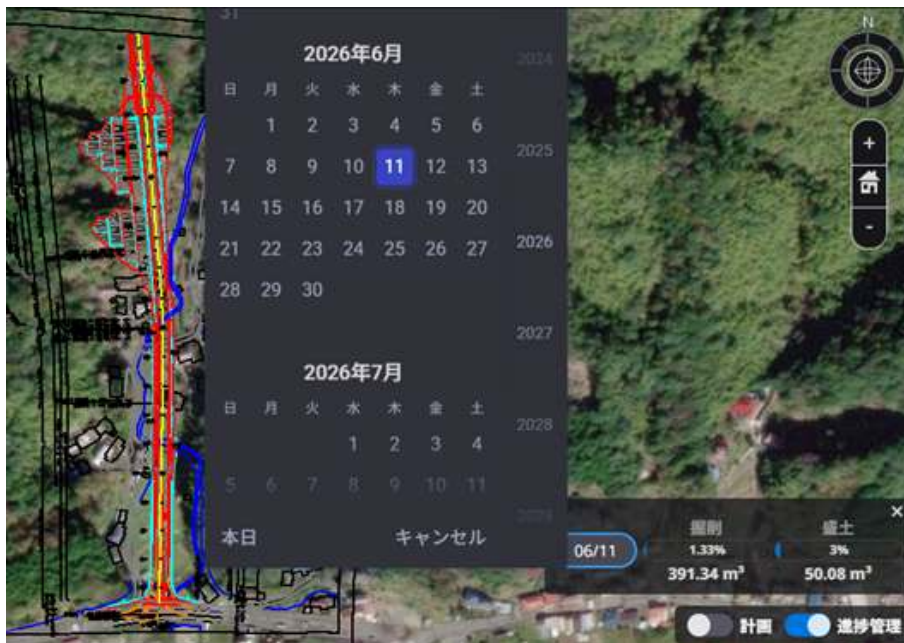
地図ビューの右下に、計画ウィジェットと進捗管理ウィジェットが表示されます。進捗を有効にするには、次のデータレイヤーが必要です：目標設計面（目標形状）／施工前測量／計測データまたは施工履歴データ。



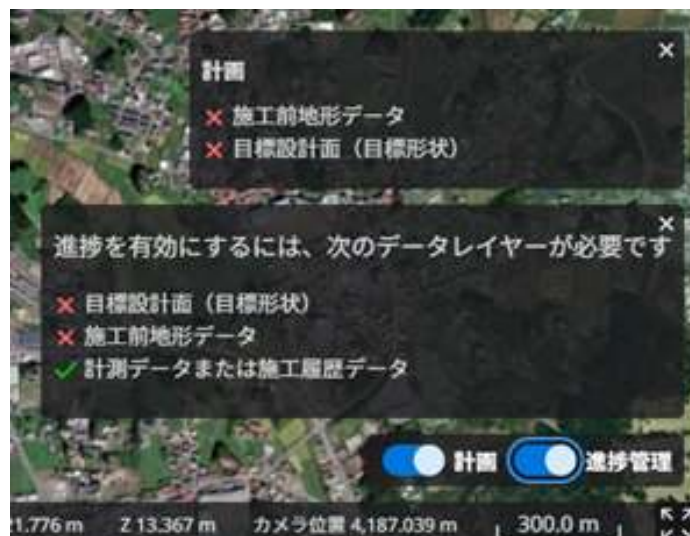
- ・ 計画ウィジェット：計画切土・盛土量と計画盛土量を表示します。



- ・ 進捗管理ウィジェット：現在の日付（またはカレンダーで選択した日付）に基づいて、現場の切土・盛土量と進捗率（％）を表示します。



「計画」および「進捗管理」において、必要なデータが設定されていない場合、機能ごとに不足しているデータレイヤーの通知が表示されます。



5.4 ヒートマップと分類

3Dビュー下部の「ヒートマップ」のオプションボタンでは、施工領域全体の進捗の表示方法を「無し」「標高差」「進捗管理」「分類」から選択できます。

■ 標高差

計画値（目標設計面）と実績値（現況地形）との標高差を色分けして表示します（標高差表示が有効な場合のみ）。

■ 進捗管理

現場の進捗率（%）を色分けして表示します。各色はデフォルトの進捗算出色に設定され、3Dビューに反映されます。



■ 分類

分類方法を使用して、現場の進捗を色分けして表示します。



・ヒートマップの表示タイプには「無し」「標高差」（標高差表示が有効な場合）「進捗管理」「分類」があります。

・ヒートマップ・分類の表示には、作業範囲と切盛土量の計測が設定されている必要があります。計測パネルや3Dアイコンパネルがアクティブな場合は、非表示または無効になることがあります。表示タイプはプロジェクトごとに保存されます。

5.5 進捗折れ線グラフ

進捗折れ線グラフでは、時系列で進捗率を折れ線グラフで表示できます。日ごとの切土進捗率と盛土進捗率を確認できます。



■ 操作手順

1. 下部パネルで「進捗グラフ」タブをクリックします。
進捗折れ線グラフが表示されます。

■ グラフの見方

- ・横軸：日付（時系列）
- ・縦軸：進捗率（%）
- ・切土進捗率／盛土進捗率を、それぞれ折れ線グラフで表示します。
- ・グラフをスクロールすると期間を移動でき、ズームすると詳細を確認できます。ポイントにマウスを重ねると、その日の進捗率が表示されます。



- ・表示には作業範囲と切盛土量の計測が設定されている必要があります。進捗データの計算には時間がかかる場合があります。表示には「計測」以上の権限が必要です。
- ・時系列で進捗率を折れ線グラフで表示する機能です。

5.6 作業範囲サマリのダウンロード

作業範囲ごとの掘削量・盛土量・土量差をCSV形式でダウンロードできます。

	A	B	C	D	E	F	G
1	作業範囲土量						
2	基準形状 2026年5月25日 16:35						
3	目標形状 2026-01-15 17_17_28_DXPP交流会 デモ 道路工事_進入路.xml						
4	単位	m³					
5							
6	作業範囲	掘削	盛土	土量差			
7	盛土 A	4.69	892.34	-887.66			
8	盛土 B	8.72	651.01	-642.29			
9	切土 5	0	0	0			
10	切土 6	0	0	0			
11	切土 6 1	0	0	0			
12	切土 6 1 1	0	0	0			
13							

■ 操作手順

タイムライン	進捗管理	進捗グラフ	出来高管理表	作業範囲
基準形状				
2026年5月25日 16:35				
目標形状				
2026-01-15 17_17_28_DXPP交流会 デモ 道路...				
作業範囲	掘削 (m³)	盛土 (m³)	土量差 (m³)	進捗率 (%)
盛土 A	4.69	892.34	-887.66	0
盛土 B	8.72	651.01	-642.29	0
切土 5	0.00	0.00	0.00	0

1. 下部パネルで「作業範囲」タブを開きます。
2. 「基準形状」と「目標形状」を指定します。
3. 「作業範囲サマリのダウンロード (.csv) 」 ボタンをクリックします。
CSVファイルがダウンロードされます。

■ CSVファイルの内容

・作業範囲名 ・掘削量 ・盛土量 ・土量差



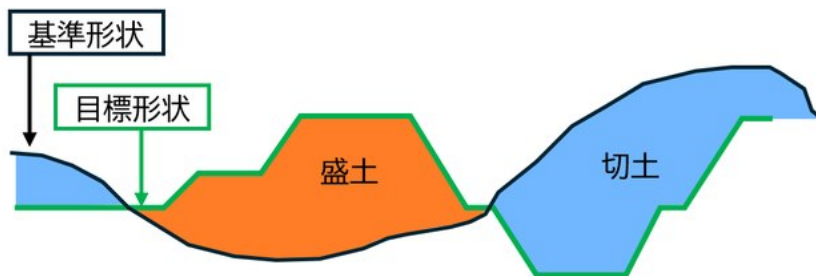
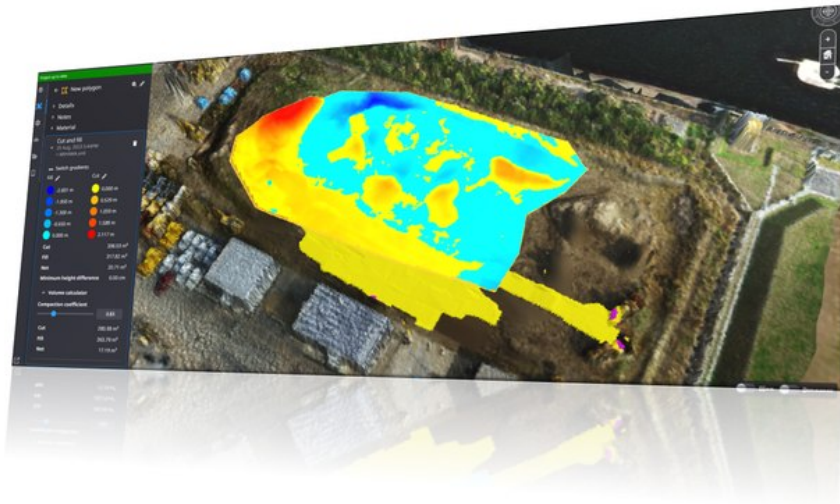
「基準形状」と「目標形状」が設定され、表示可能な作業範囲が存在する場合にのみ有効です。

6 計測

地形データ上で、土量・面積・距離・勾配・断面・標高などを計測できます。

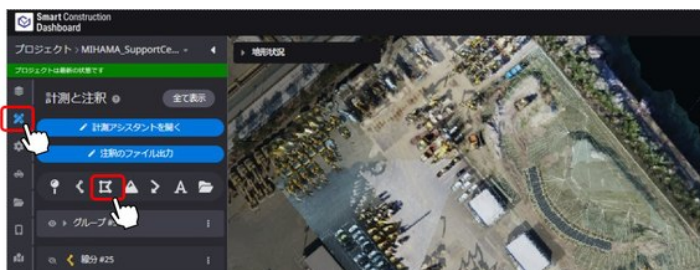
6.1 切盛土量の計測

選択した範囲の切土量・盛土量を計測できます。基準形状と目標形状が重なるエリアが、土量計算の対象です。

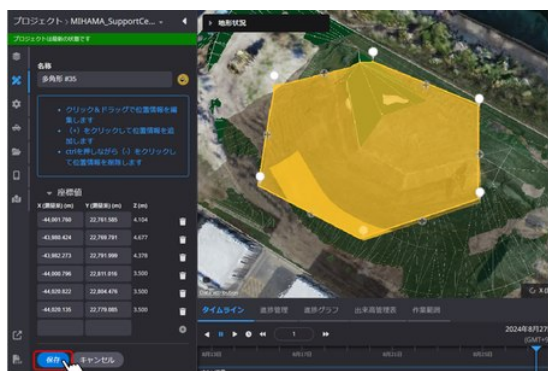


■ 操作手順

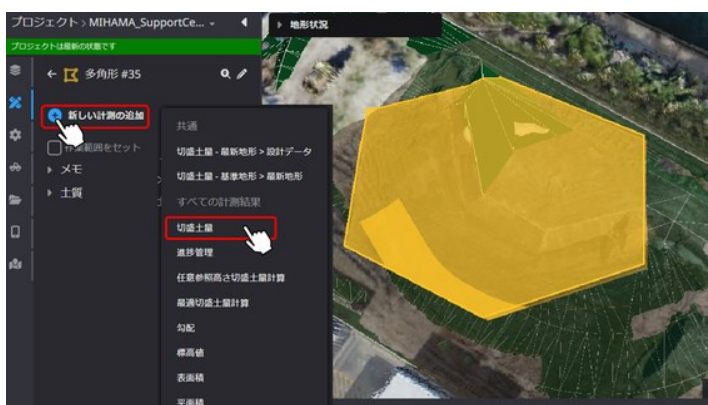
1. サイドパネルの「計測」アイコンをクリックし、「多角形」または「目標設計範囲」を選択します。



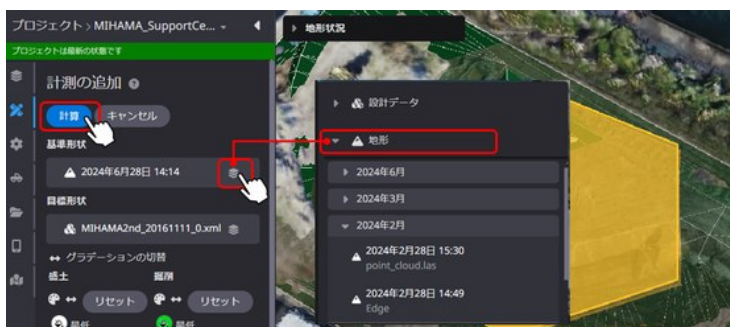
2. マウスの左クリックで対象範囲を囲い、右クリックで閉じて「保存」します。



3. 「新しい計測の追加」をクリックし、「切盛土量」を選択します。



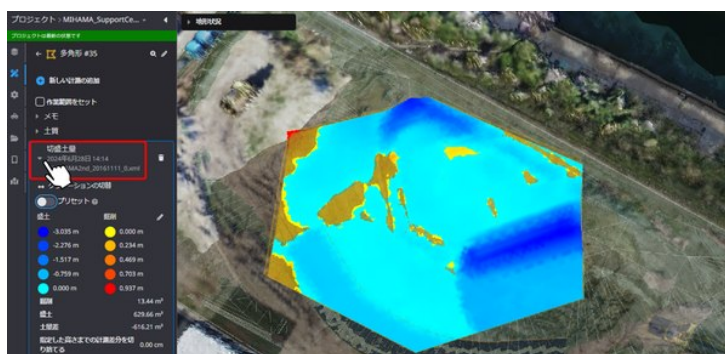
4. 「基準形状」と「目標形状」が計測対象データに設定されていることを確認し、「計算」をクリックします。



計算結果が、作成した多角形のタブ内に反映されます。



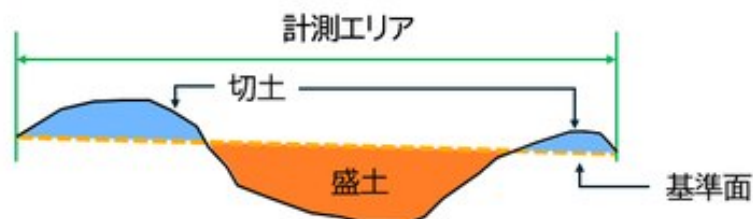
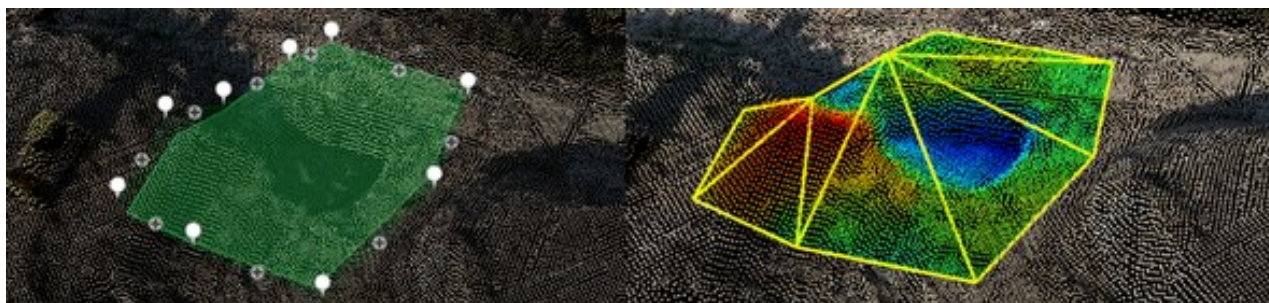
・ヒートマップが表示されない場合は [▶] をクリックします。



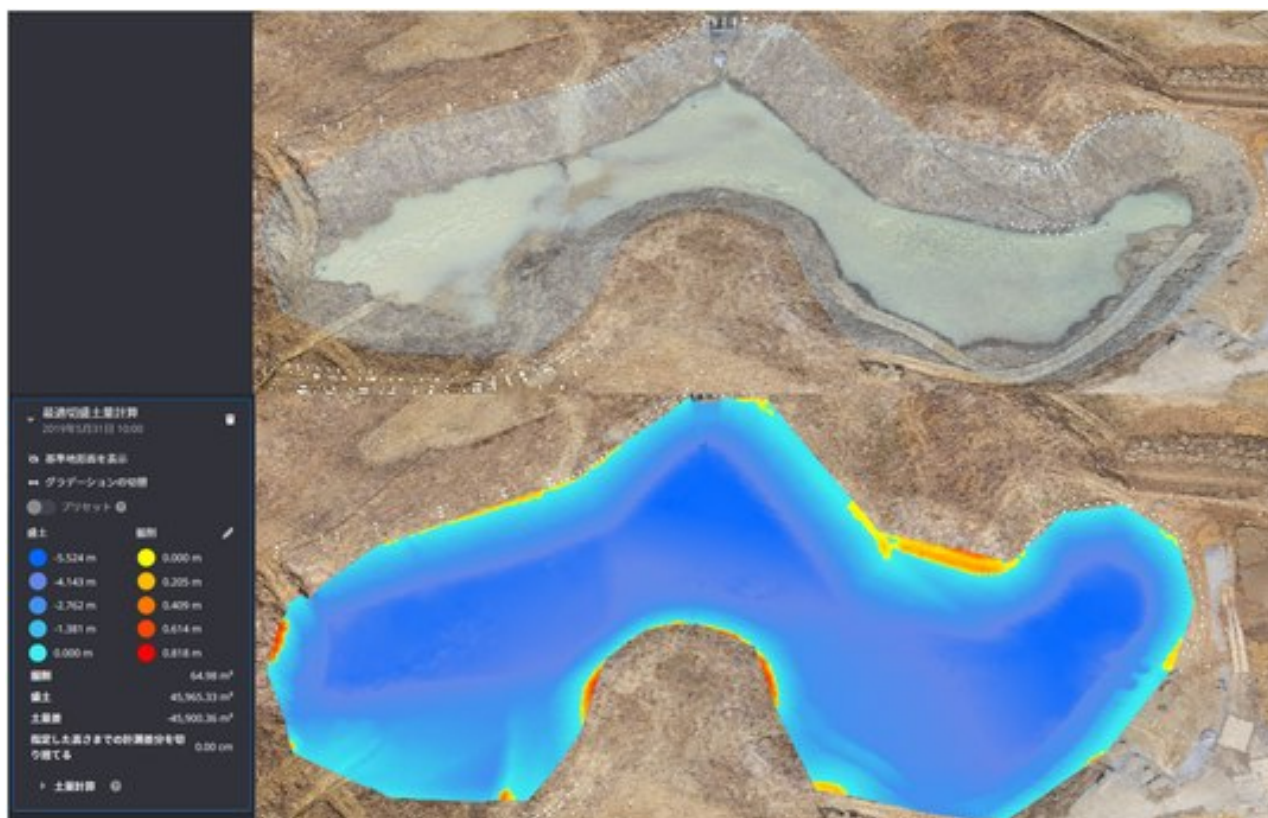
- ・土量は、50cmメッシュごとに1点の代表点を算出して計算します。
- ・土量計算はサーバー上で実行されるため、結果の表示に数秒から数分かかります。

6.2 基準面を指定した土量の算出

多角形で囲んだ範囲に基準面を設定し、その高さからの切盛土量（最適切盛土量）を算出できます。仮設の沈砂池の容量推定などに活用できます。

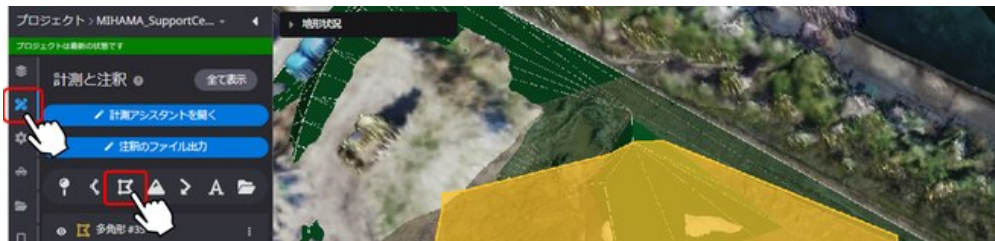


活用例として、基準面までの盛土量を参考に、造成工事で設置する仮沈砂池内の貯水量の計測などにも応用されています。

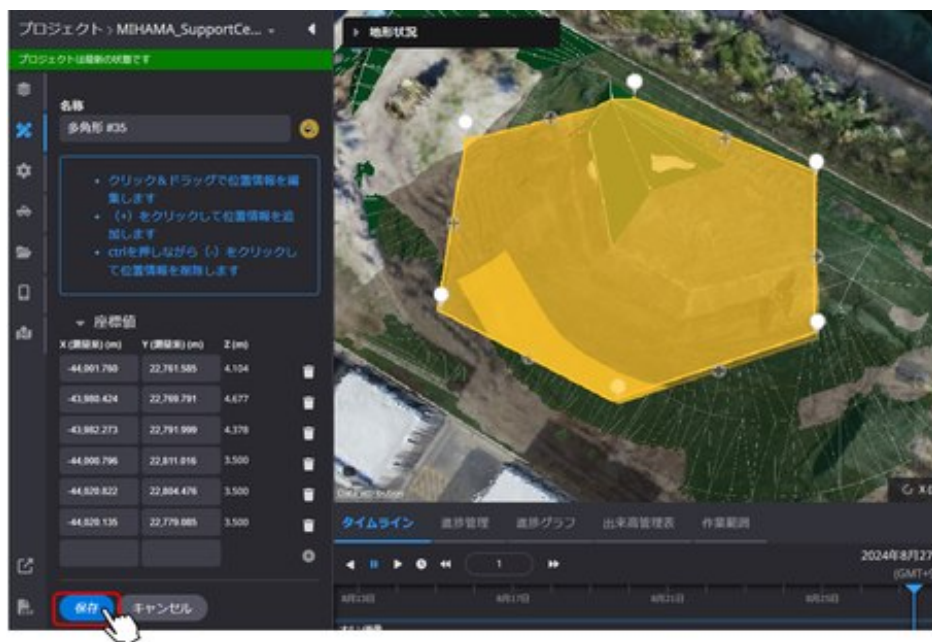


■ 操作手順

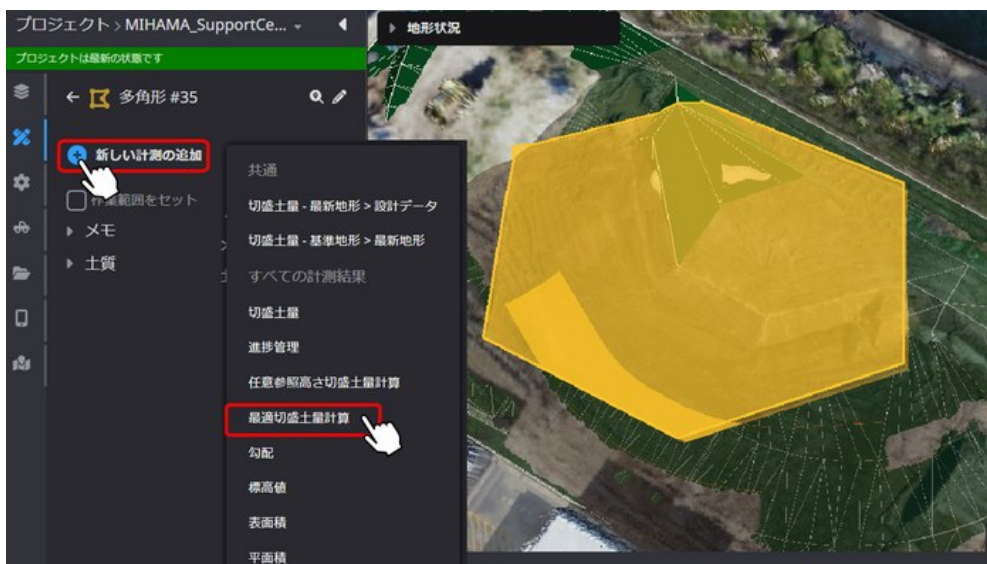
1. 計測アイコンをクリックし、注釈から「多角形」を選択します。



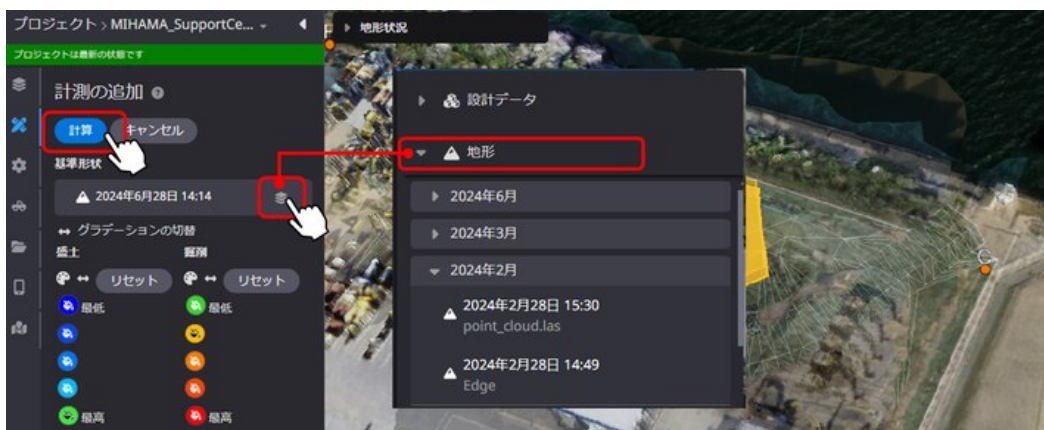
2. マウスの左クリックで範囲を囲い、右クリックで閉じて「保存」します。



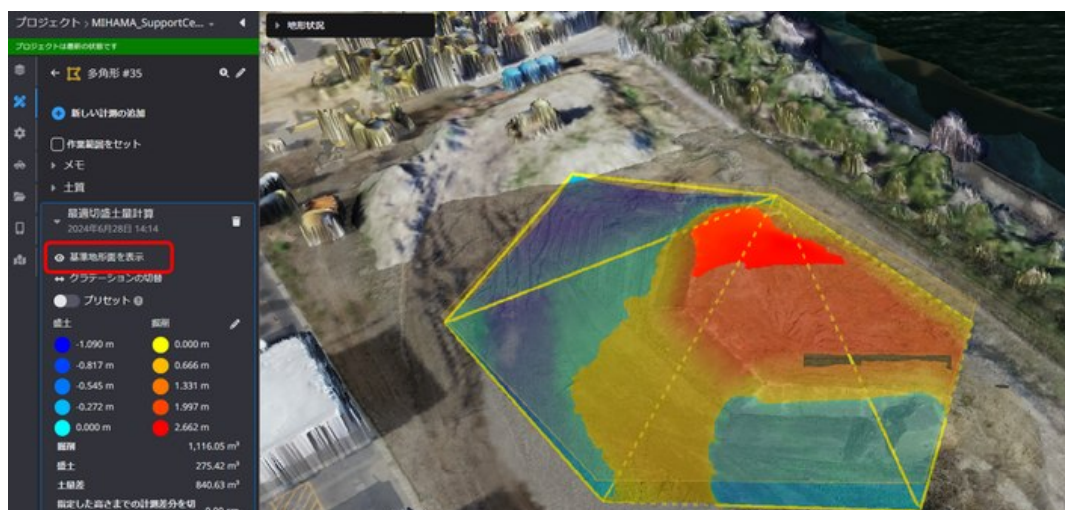
3. 「新しい計測の追加」をクリックし、「最適切盛土計算」を選択します。



4. 「基準形状」から基準となるデータを選択し、「計算」をクリックします。

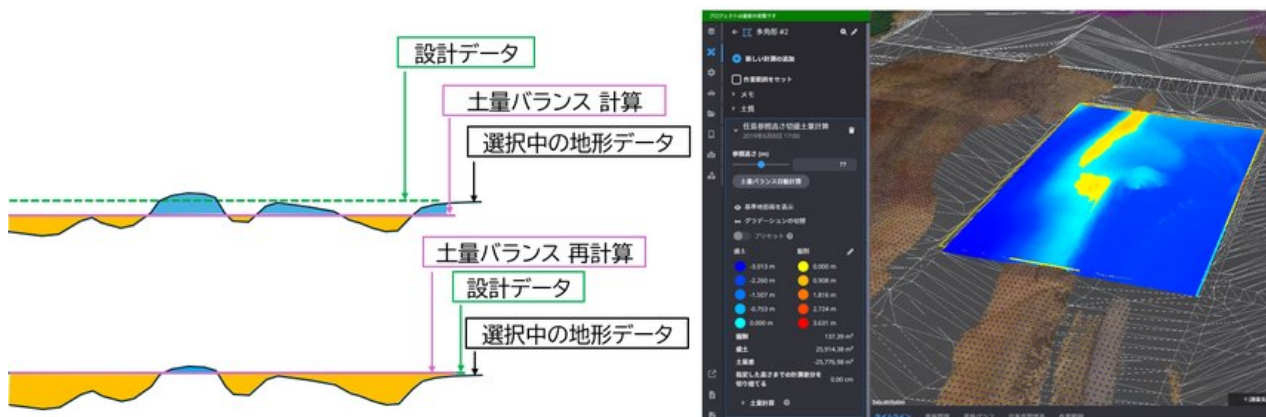


- 作成した多角形のタブ内で計算結果を確認します。[▶] をクリックするとヒートマップが表示されます。
- [基準地形面を表示] をクリックすると、基準面を確認できます。



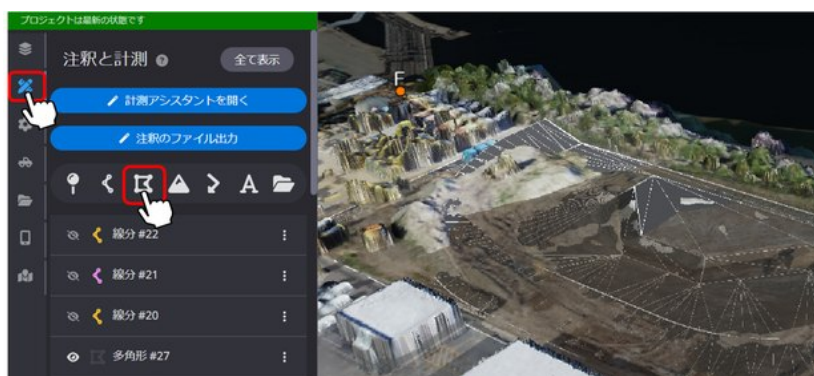
6.3 切盛土量が±0となる標高の算出

選択した範囲で、切土量と盛土量が±0（バランス）となる標高値を、自動で算出できます。造成工事の完成面の高さの検討などに活用できます。

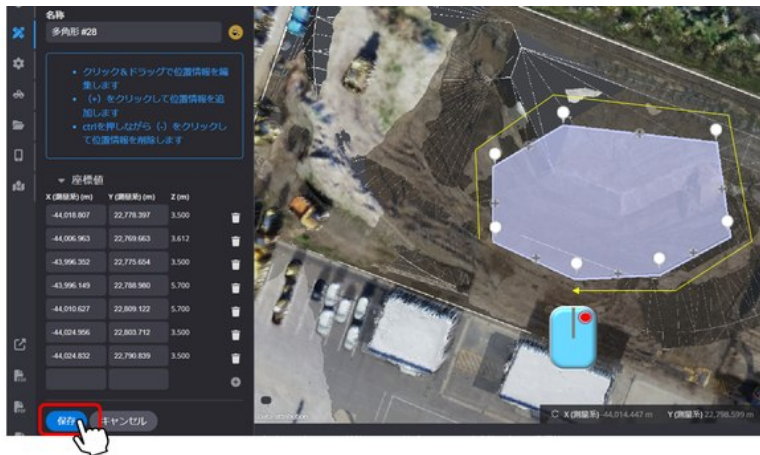


■ 操作手順

- 計測アイコンをクリックし、注釈から[多角形]を選択します。



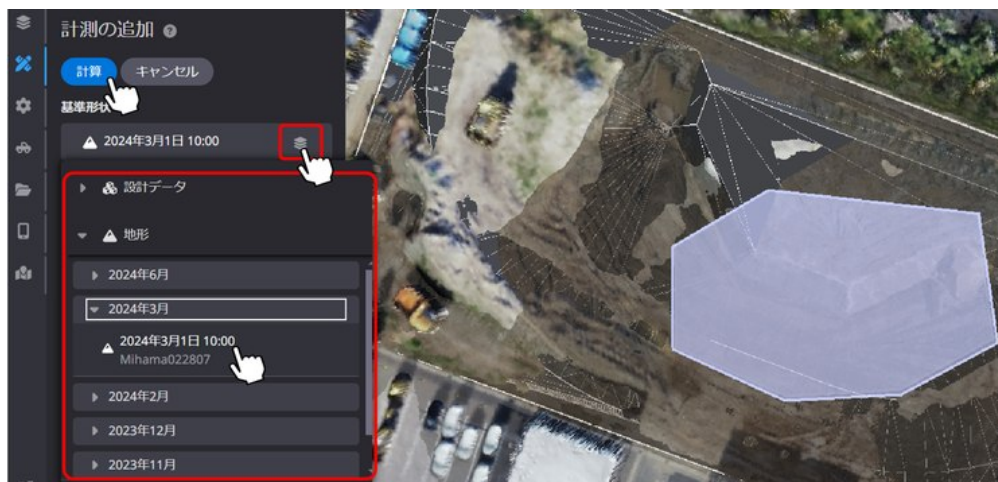
2. マウスの左クリックで範囲を囲い、右クリックで閉じて「保存」します。



3. 「新しい計測の追加」をクリックし、「任意参照高さ切盛土量計算」を選択します。



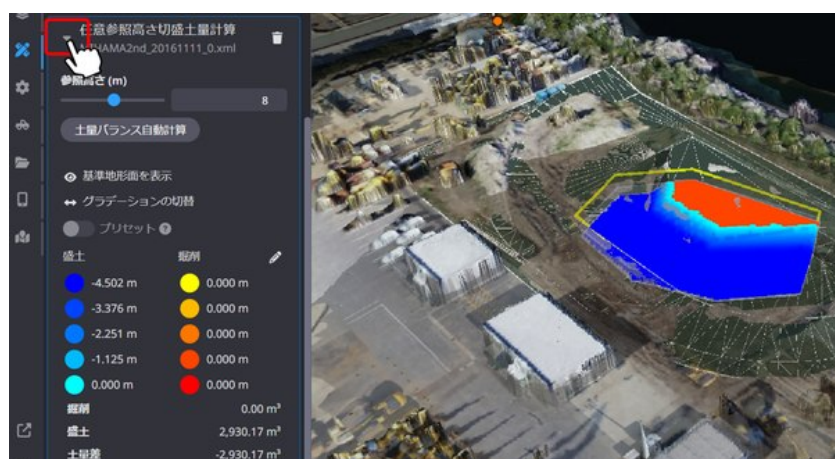
4. 「基準形状」から基準となるデータを選択し、「計算」をクリックします。



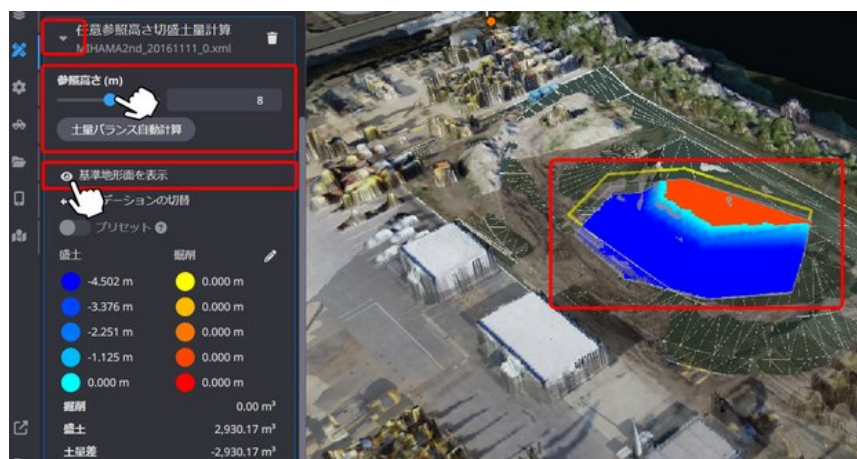
作成した多角形のタブ内に計算結果が反映されます。



- ・ [▶] をクリックするとヒートマップが表示されます。



- ・ [土量バランス自動計算] をクリックすると、選択範囲内で切盛土量が±0となる標高値が算出されます。
- ・ 「参照高さ」のバーを操作すると、任意の標高値での余剰土量を算出できます。

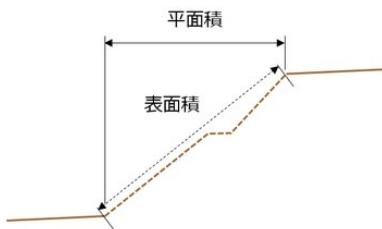


- ・ 土量バランスを調整できる範囲は、設計データの±100mまでの高さです。

6.4 面積の計測

選択した範囲の面積を計測できます。地形に沿った「表面積」と、水平に投影した【平面積】を選択できます。



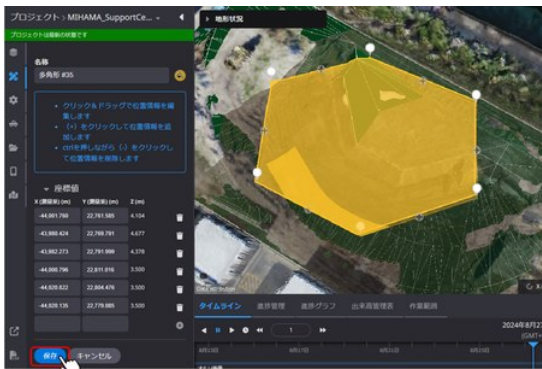


■ 操作手順

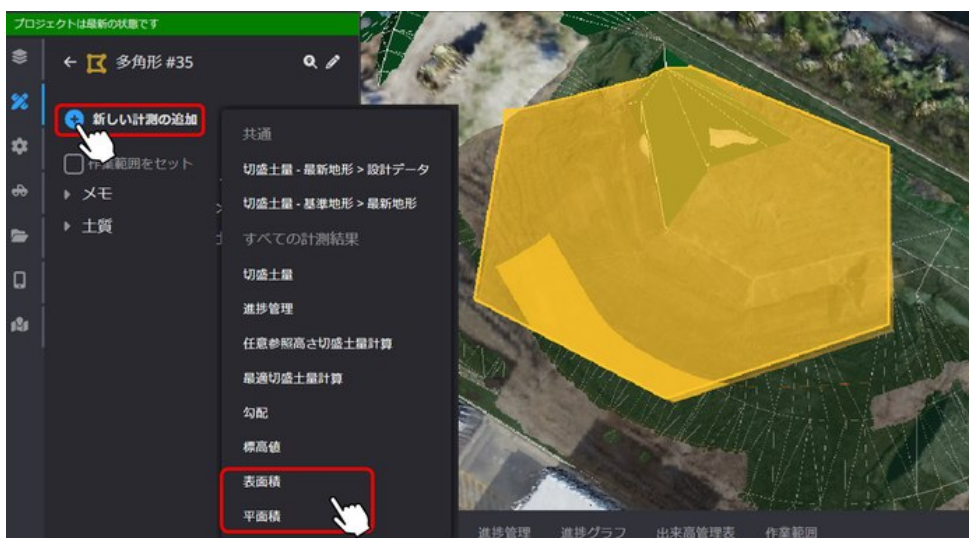
1. サイドパネルの計測アイコンをクリックします。
2. 注釈から「多角形」を選択します。



3. マウスの左クリックで対象範囲を囲い、右クリックで閉じて「保存」します。

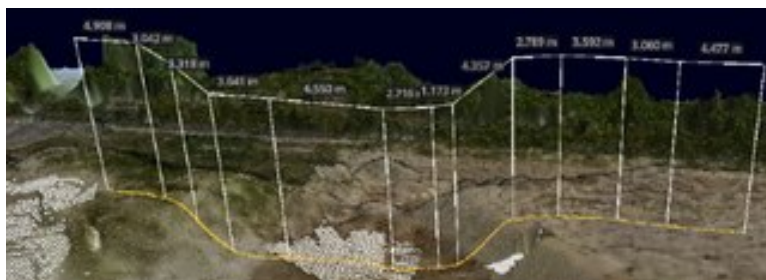


4. 「新しい計測の追加」をクリックします。
5. 「表面積」または「平面積」を選択して計測します。



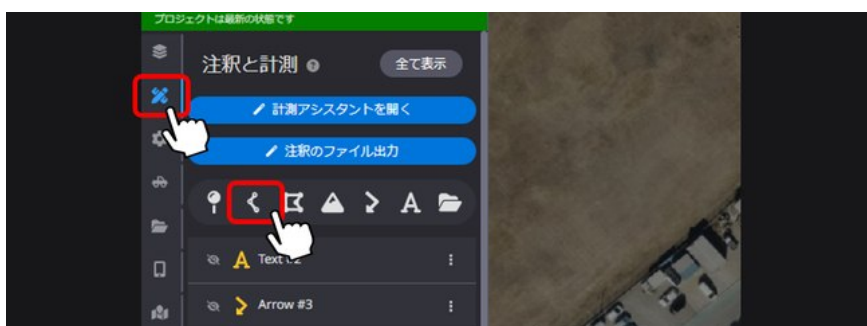
6.5 距離・勾配の計測

線分を引いて、距離や勾配を計測できます。地形に沿った「表面距離」、「水平距離」、「点間距離」、「勾配」の各モードがあります。



■ 操作手順

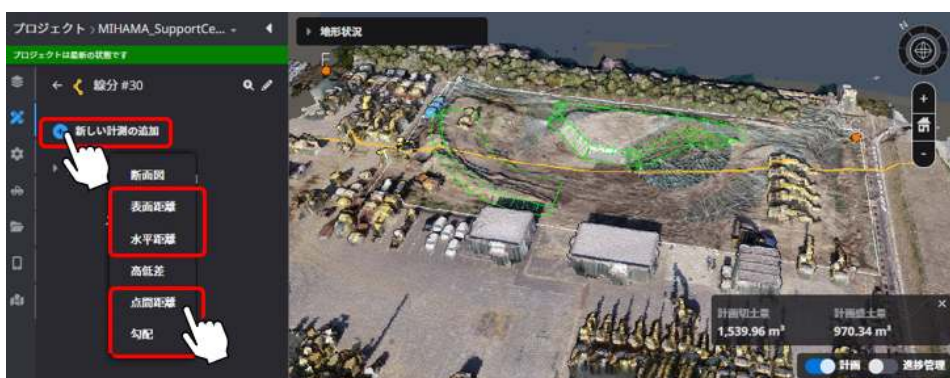
1. サイドパネルの計測アイコンをクリックします。
2. 注釈から「線分」を選択します。



3. マウスの左クリック（1点目→2点目）で線を引き、2点目をクリックした後に右クリックで閉じて「保存」します。

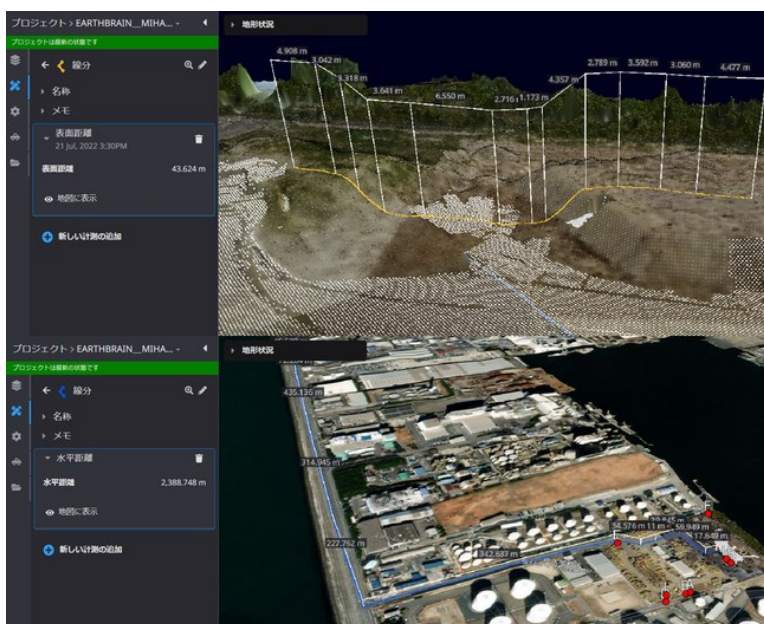


4. 「新しい計測の追加」をクリックし、「表面距離」「水平距離」「点間距離」「勾配」から選択します。



■ 各モードの用途

- ・ 表面距離：地形に沿った距離を算出します。敷鉄板や登坂距離の算出に利用します。
- ・ 水平距離・点間距離：水平面での距離を算出します。場外運搬距離の算出に利用します。



- ・ 勾配：線分のポイント間を基準に、勾配値を算出します。



6.6 断面の計測

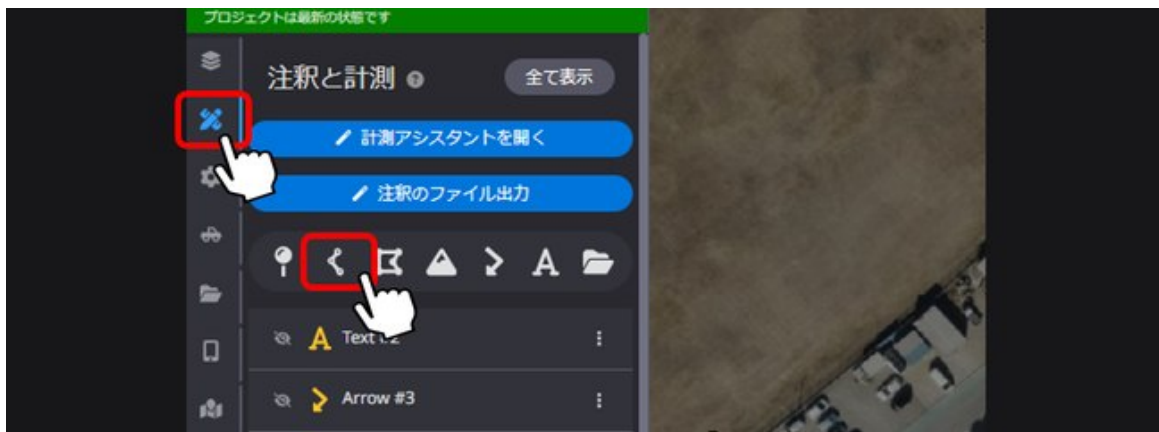
線分を引いて、地形データや設計データの断面（高さプロファイル）を、2Dグラフで表示できます。施工の高さ管理や地盤沈下の確認に活用できます。



■ 操作手順

1. サイドパネルの計測アイコンをクリックします。

2. 注釈から「線分」を選択します。



3. マウスの左クリックで横断・縦断線を引き、右クリックで「保存」します。

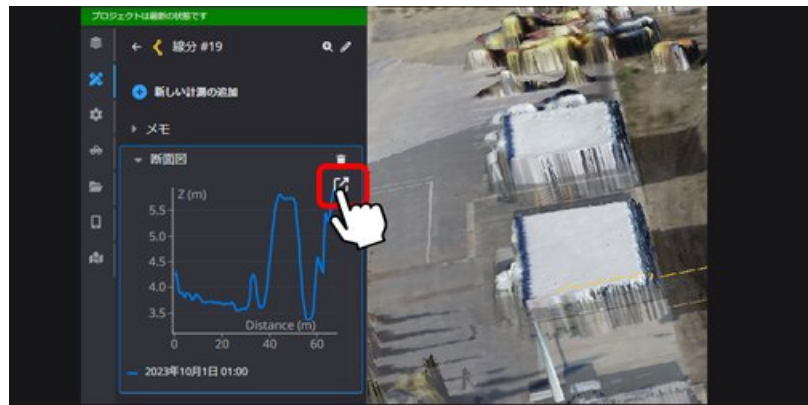


4. 「新しい計測の追加」をクリックし、「断面図」を選択します。





- ・「拡大ボタン」をクリックすると、ボトムパネルに断面が表示されます（50cmピッチで再現されます）。



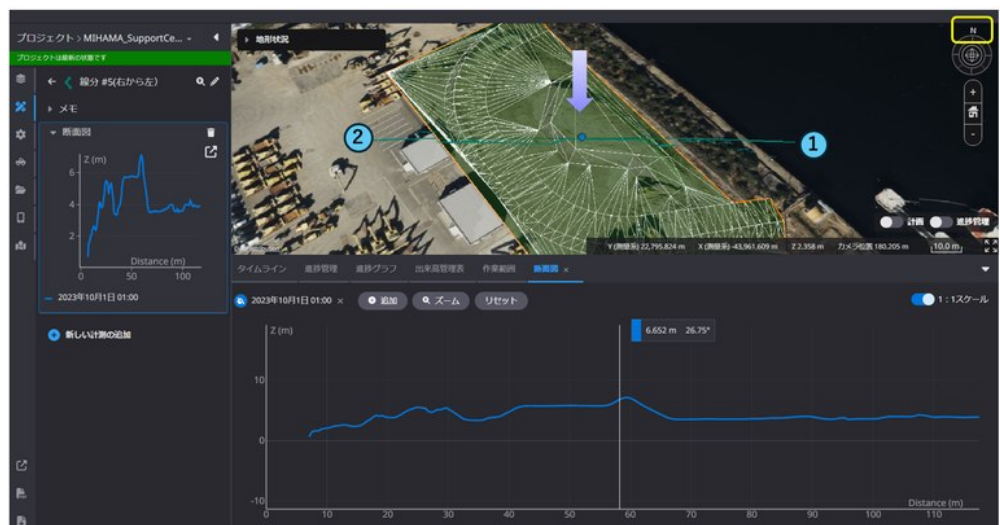
- ・複数データの比較：「追加」アイコンから比較データを選択すると、最初に追加した断面との高さ差が表示されます。

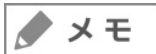




・断面の視点：方位が北の場合

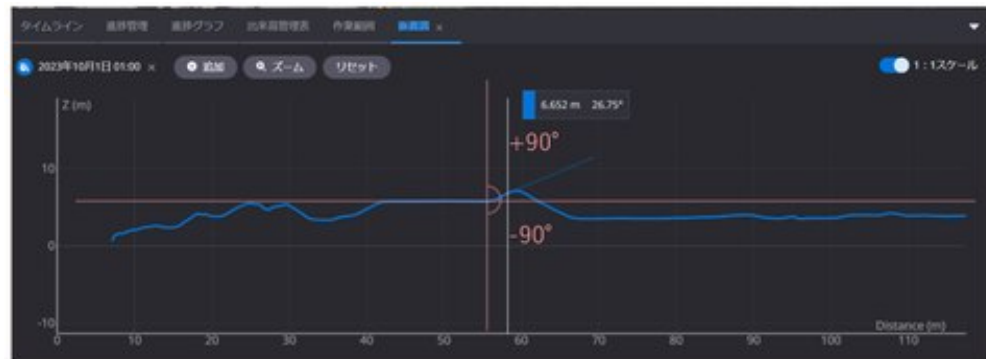
線を ① → ② の順に引くと、矢印の方向に断面が表示されます。



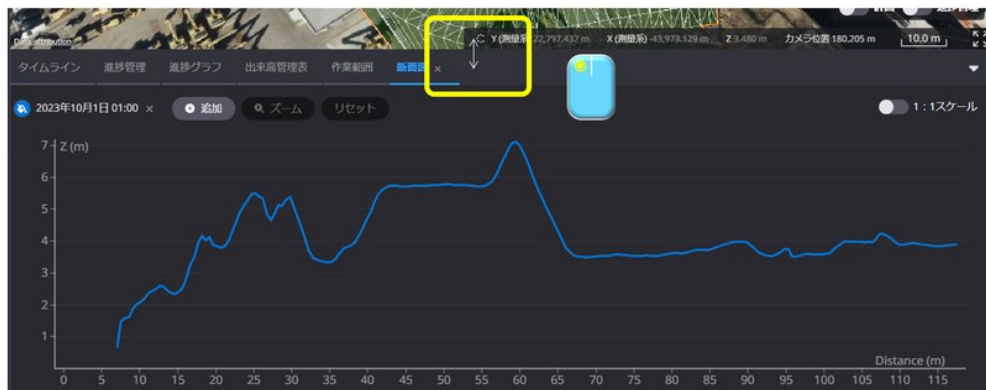


・断面の値：角度設定の場合

水平線を基準に、傾きから $+$ / $-$ 方向を判定して表示します。



・パネルサイズの変更：ボトムパネル上部をドラッグすると、表示サイズを変更できます。



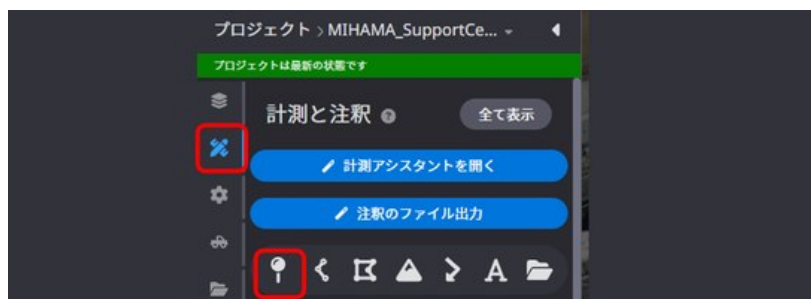
6.7 標高履歴の確認

地形データ上にポイントを設置し、そのポイントの標高の履歴（時系列の変化）をグラフで確認できます。施工の進捗管理や地盤沈下の確認に活用できます。

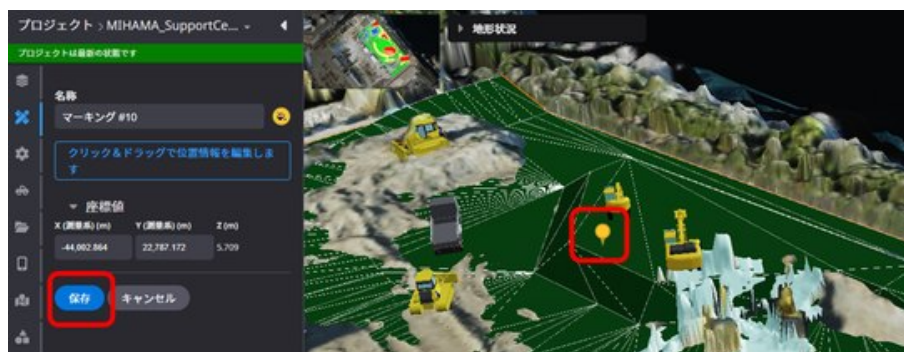


■ 操作手順

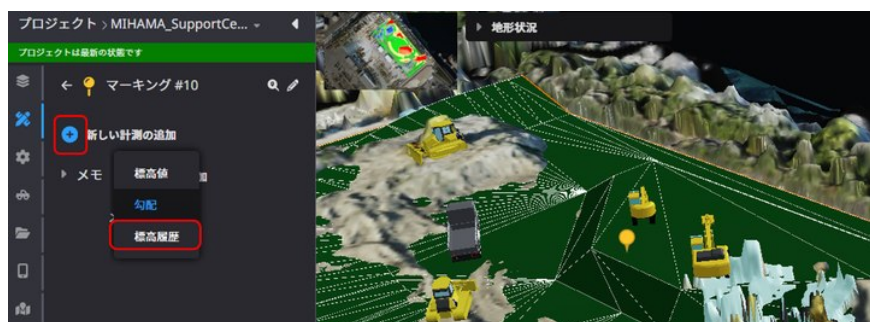
1. 計測アイコンをクリックし、「マーキング」を選択します。



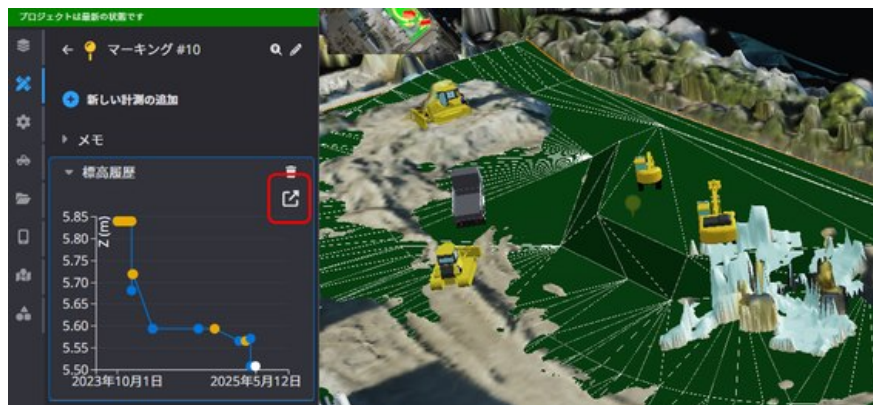
2. マウスの左クリックで地形上にポイントを指定し、「保存」します。



3. 「新しい計測の追加」をクリックし、「標高履歴」を選択します。



-
4. 「拡大ボタン」をクリックすると、ボトムパネルに履歴が表示されます。



- ・本機能には、CSV形式で座標値を取り込む機能はありません。
 - ・注釈や計測結果の色・閾値などのカスタマイズについては、サポートサイトの「注釈情報をカスタマイズしたい」「計測結果をカスタマイズしたい」を参照してください。
-

7 現場レポートの生成（帳票）

現場の状況は、スクリーンショット（PNG）やPDFレポートとして出力できます。本章では、これらのレポートの出力方法を説明します。進捗チャート・日々の進捗・作業範囲の確認・CSV出力は「[5 進捗・出来高の管理](#)」を参照してください。

7.1 スクリーンショットの出力（PNG）

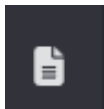
1. プロジェクトを開きます。
2. 3Dビューを、キャプチャしたいビューに合わせて調整します。
3. サイドパネル左下の「スクリーンショット（PNG）」アイコンをクリックします。画像がダウンロードされます。



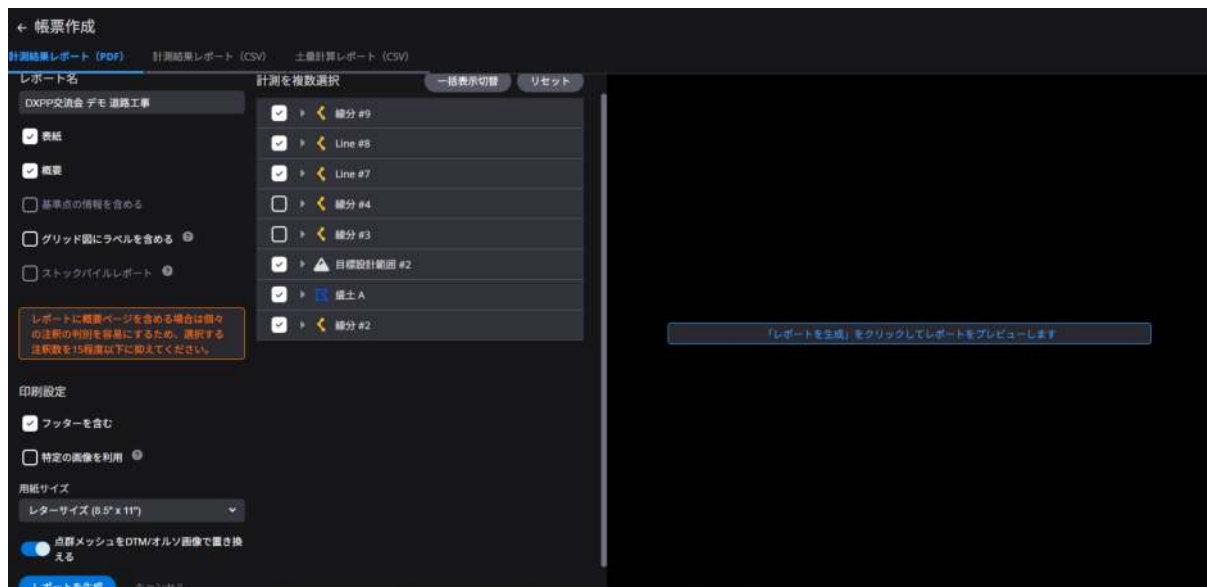
7.2 現場のPDFレポートの作成

■ 基本手順

1. プロジェクトを開きます。
2. サイドパネル左下の「帳票作成」アイコンをクリックします。「PDFレポートの作成」画面が開きます。



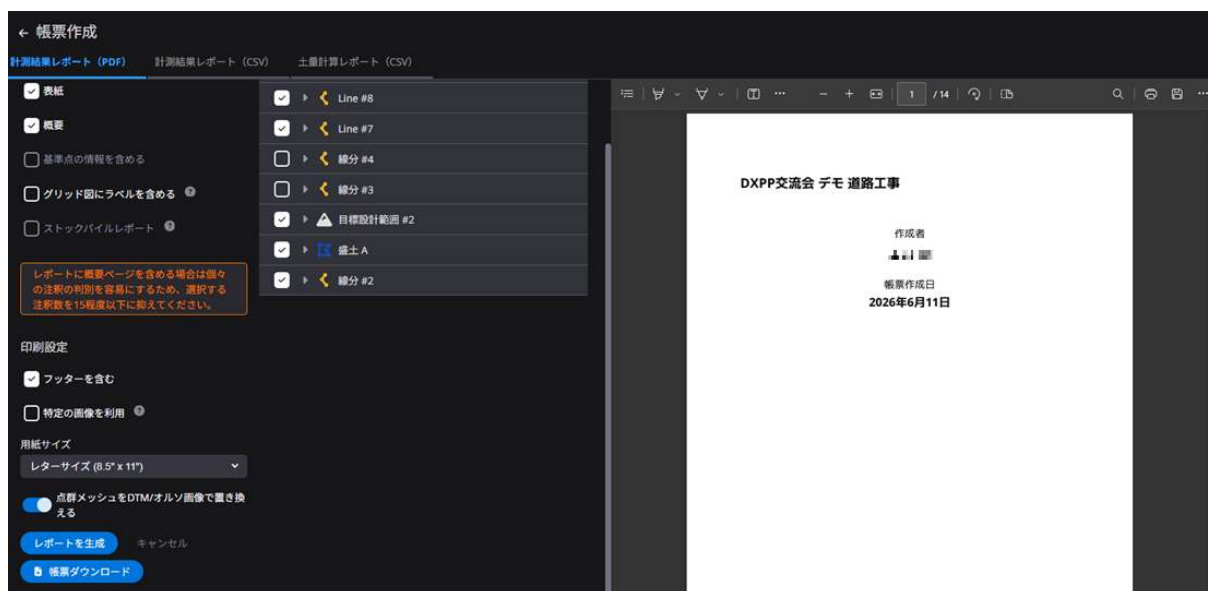
3. PDFレポートに含める計測を選択します。



4. 「レポートを生成」ボタンをクリックします。選択した計測を使用して、レポートの生成が開始します。

レポートを生成

5. 生成完了後、[帳票ダウンロード] をクリックし、レポート名と印刷設定を調整して保存します。
レポートがダウンロードされます。



■ サマリーページと凡例

PDFレポートに、プロジェクト全体のスクリーンショットや、含まれる注釈・計測の一覧を示すサマリーページを追加できます。レポート設定で「概要」をオンにします（デフォルトでオン）。

また、線分の断面図には、イメージの左下に凡例（表示中のデータレイヤーの情報）が自動的に表示されます。



サマリーページは、ストックパイルレポートが有効な場合は表示されません（相互排他）。

■ スtockパイルレポートの合計値

ストックパイルレポートを有効にすると、表に各ストックパイルの詳細データに加えて、すべてのストックパイルの合計行が表示されます。



あらかじめ多角形注釈から「最適切盛土量計算」を実行し、計算結果が1つ以上ある状態にしておく必要があります。

■ 標高グラデーション凡例

PDFレポートの図の右側に、掘削と盛土に対応する凡例が表示されます。

■ 「グリッド図にラベルを含める」機能

切盛土量計測のPDFレポートに、高さと体積のラベルをグリッド表示で含められます。切盛土量計測を選択し、「グリッド図にラベルを含める」チェックボックスをオンにすると、各グリッドセルに高さと体積の値が表示されます。



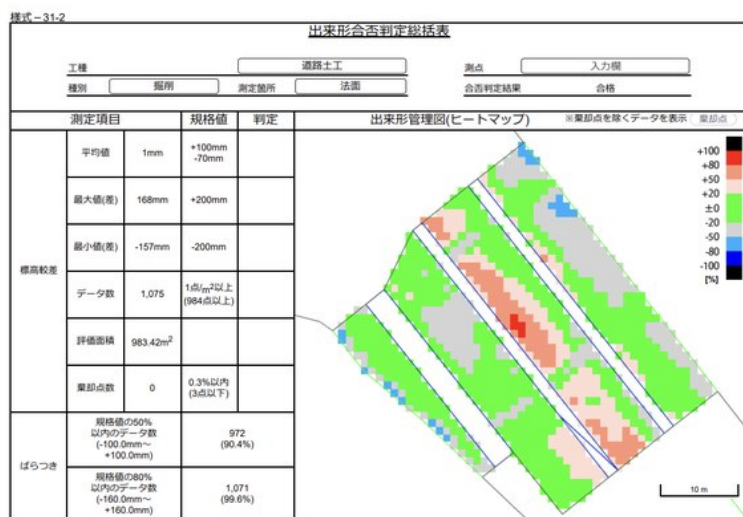
「グリッド図にラベルを含める」機能は、切盛土量計測が選択されている場合にのみ有効になります。

8 出来形合否判定 (i-Construction)

出来形合否判定機能を使用すると、3次元設計データ（面データ）と出来形評価用データ（点群データ）を比較し、設計面との差分を工種ごとの規格値に対して合否判定できます。結果は、差分をパーセンテージで色付けした分布図（帳票）として出力されます。本機能は外部連携機能のため、3Dビュー左下の「外部ページを開く」から起動します。

8.1 出来形合否判定の概要

出来形合否判定は、設計面と出来形評価用データ（点群）の各ポイントの差分を、パーセンテージで色付けて分布図にした帳票です。



■ 提供している機能

- ・ 三次元データを用いた出来形管理（土工）／施工履歴データを用いた出来形管理（河床掘削）／三次元データを用いた出来形管理（舗装）
- ・ 事前精度確認機能／施工履歴データ出力機能

■ 評価点の求め方

- ・ 最近隣法：グリッド点に最も近い点の高さを採用します。
- ・ 差分平均法：設計面との高さの差をすべて算出し、その平均値に設計面の高さを加えた値を採用します。

8.2 利用の準備（工種設定の確認）

1. Smart Construction Dashboard の現場プロジェクトを開き、画面左下の「外部ページを開く」から「出来形合否判定」を選択します。



2. 出来形チェック未作成の場合、工種設定画面が表示されます。現場の新規作成時に設定した利用用途に基づく工種を確認し、「確定」をクリックします。



出来形チェックに施工履歴データを含めるかどうか、この工種設定で確認します。i-Construction 対応の利用用途を設定している必要があります。

8.3 出来形チェックの作成（土工）

■ 出来形チェックの作成

1. 「出来形チェック作成」を選択し、「出来形管理図表」を選択します。
2. 出来形チェック名称を入力し、工種を確認します。
3. 評価点のグリッドデータ化間隔（0.5m／1.0m）を選択します。
4. 必要に応じて地形の自動判別［する／しない］を選択し、「確定」をクリックします。



■ 設計データの登録

1. 設計データ（LandXML形式）をアップロードします（ローカルディスク、またはデータフォルダから選択）。
2. TINチェック [する／しない] を選択し、[OK] をクリックします。



■ 点群データの登録

1. 出来形評価用の点群データをアップロードし、座標系を選択して [確定] をクリックします。



■ 出来形確認箇所の設定

1. [出来形確認箇所の設定] をクリックし、評価するTIN領域を区分ごとに指定します（altキーを押しながら左クリックで範囲を選び、左ダブルクリックで確定）。
2. 指定した領域に出来形確認箇所を設定し、[登録] をクリックします。



表示されているTINをすべて選択して設定を完了しないと、次のステップに進めません。画面右上の「一括選択」をONにしてから設定すると、選択漏れを防げます。

■ 出来形チェックの実行

1. 評価点の求め方、法面・法尻の除外／抽出、グリッドサイズを選択し、規格値を確認して「OK」で実行します（規格値は任意に設定できます）。

出来形チェック実行

グリッドデータ化の方法: 逆距離加重法

法面・法尻5cm除外: ☒ する ☐ しない

計測点群チェック: ☒ する ☐ しない

グリッドサイズ: 0.5m

規格値編集

工程	地形種別	平均値(mm)		個々の計測値(mm)	
		下層	上層	下層	上層
盛土	天端	-50	+50	-150	+150
盛土	法面	-80	+80	-190	+190

OK 閉じる



■ 結果の確認

1. ステータスが「完了」になったら出来形チェックを開き、「出来形チェック結果」横のアイコンをクリックして、設計データ上の各区分をクリックすると評価結果が表示されます。

出来形チェック

TEST004 [完了] [アイコン]

設計: MIMAMA2nd_20161111_0.xmi [完了]

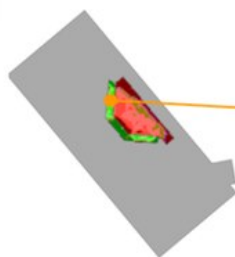
計測点群: pointcloud.ppk.csv [完了]

点群確認結果

出来形チェック結果 [アイコン]

評価データ

オフラインビューアデータ [未作成]



確認

選択されたエリアの出来形合否判定結果表を表示します。よろしいですか？

工程	平場
地形種別	掘削
校差	平場
グリッドデータ化の方法	逆距離加重法
グリッドデータ化間隔	1.0m

OK 閉じる

- ・「任意点検索」（近傍点／5m×5m／10m×10m）で、指定した領域内の点の一覧を確認できます。
- ・各工程・測点・種別・測定箇所は、必要に応じて編集できます。

8.4 工種別の設定（水中掘削・舗装）

基本の流れは8.3と同様で、工種設定が異なります。詳細は、サポートサイトの各記事を参照してください。

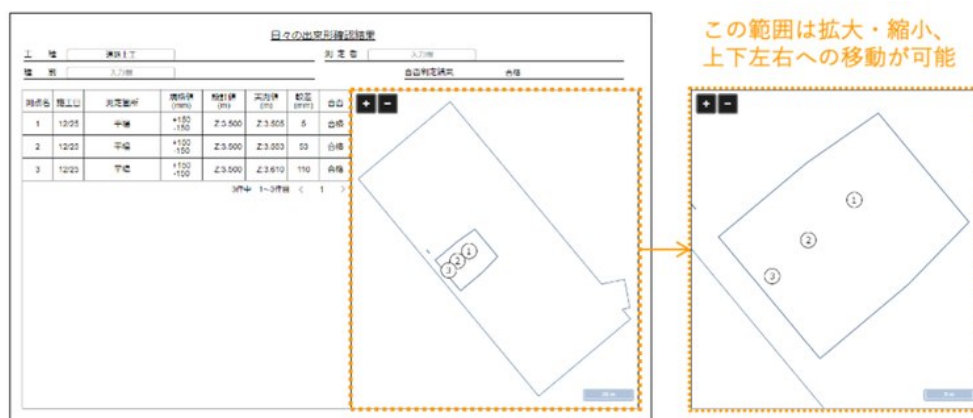
- ・水中掘削（河床掘削）：施工履歴データを用いた出来形管理に対応します（「出来形合否判定（水中掘削）設定をしたい」）。
- ・舗装：三次元データを用いた出来形管理（舗装）に対応します（「出来形合否判定（舗装）設定をしたい」）。

8.5 日々の出来形確認

トータルステーション（TS）などで3点測量した計測点ファイル（.txt／.csv）を用いて、日々の出来形を確認できます。

1. 8.3と同様に、3次元設計データを登録します。
2. 測量データの代わりに、TSで計測した3点のデータを登録します。

3. 工種設定を行い、出来形チェックを実行します。



TSの3点を評価するため、グリッド化の設定はありません。

8.6 事前精度確認

事前精度確認は、現場の検査点データを事前に登録し、対象のICT建機（Komatsu製／EARTHRAIN製3DMG）の施工履歴データと比較して、施工精度を確認する機能です。利用前に、プロジェクト現場にICT建機を接続しておく必要があります。

■ 操作手順（Komatsu製ICT建機の例）

1. 前準備として、工種設定で「施工履歴」にチェックを入れます。
2. 出来形合否判定を開き、一覧から「施工履歴」をクリックして「新規作成」をクリックし、事前精度確認名称を入力します。



3. 対象のICT建機を選択し、履歴データの取得日時を指定します。

4. 検査点データ（TS座標値のCSV：点名・N・E・Z）を登録し、[チェック開始] をクリックします。

5. 精度確認が完了すると、ステータスに合格／不合格が表示されます。「精度チェック結果」から結果を確認します。



- ・判定がエラーの場合、検証点から1mの範囲に施工履歴データがない、または取得期間に履歴データがないことが主な要因です。
- ・EARTHBRAIN製3DMG建機の設定は、サポートサイトの「事前精度確認の設定がしたい_EARTHBRAIN製3DMG建機」を参照してください。

8.7 施工履歴データ一覧の出力（CSV）

1. 前準備として、工種設定で「施工履歴」にチェックを入れ、事前精度確認を実施します。

2. 「施工履歴」をクリックし、「施工履歴取得範囲」ボタンで取得範囲を設定して「確定」をクリックします（設計データファイル、または最南西端・最北東端の座標で指定）。

3. 「施工履歴取得」ボタンから、使用する事前精度確認結果・利用建機・取得期間を設定して確定します。
処理が完了すると施工履歴データ一覧に「完了」と表示され、一覧右のアイコンからCSVをダウンロードできます。

8.8 オフラインビューア機能

出来形チェックの判定結果を、ビューアとともにファイル形式でダウンロードし、オフラインで確認できます。

1. 出来形チェック完了後、メニューから「オフラインビューアデータ作成」を選択します。



2. 処理完了後、Zipファイルをダウンロードします。
Zipファイルを解凍し、index.html を開くと、可否の結果を確認できます。



解凍したファイルは、すべてオフライン利用に必要です。削除しないでください。

9 各種設定

Smart Construction Dashboard では、プロジェクトごとに座標系・単位・表示・アクセス権限などの各種設定を確認・変更できます。本章では、サイドパネルの「各種設定」から行う設定について説明します。

9.1 各種設定の表示

サイドパネルの歯車アイコンをクリックすると「各種設定」が表示されます。各種設定は以下のパネルで構成され、各パネルはクリックで展開・折りたたみできます。



・「サポートモード」および「プロジェクトを削除」の設定は、管理権限が必要です。

9.2 施工現場情報

「施工現場情報」パネルには、現場の詳細が表示されます。

■ 表示項目



- ・現場名・施工期間・位置などの情報は Smart Construction の現場管理側で管理されており、Smart Construction Dashboard からは変更できません。変更する場合は Smart Construction で操作してください。
- ・サマータイムは、チェックボックスでオン／オフを切り替えます。

9.3 座標系

座標参照系（CRS）は、データが地図ビュー上にどのように投影されるかを定義します。設定した座標系の詳細がパネルに表示されます。表示内容は、ローカライゼーションファイルで設定した場合と、手動で選択した場合で異なります。

例

[ローカライゼーションプロジェクト]



[手動で座標系を選択したプロジェクト]

[構成] ボタンをクリックすると、「座標系を変更します」「座標系の履歴」のメニューが表示されます。



- 座標系の初期設定の手順は「[3.2 座標系](#)」を参照してください。本節では、作成後の確認・変更を説明します。
- ローカライゼーションファイルで設定した場合、データレイヤーパネルのローカライゼーションレイヤーにそのファイルが表示されます。手動で選択した場合は表示されません。

■ 座標系の変更

1. 「構成」→「座標系を変更します」をクリックすると、座標系変更ダイアログが表示されます（管理権限が必要）。



2. 目的に応じて、以下のタブから設定します。

- ・「ファイルをアップロードする」：新しいローカライゼーションファイル（.gc3／.tp3／.dc／.cal／.jxl）をアップロードします。

The screenshot shows a dialog box titled '座標系を変更します' (Change Coordinate System). It has two tabs: 'ファイルをアップロードする' (Upload File) and '座標系を選択' (Select Coordinate System). The 'Upload File' tab is active. Below the tabs, it says 'ローカライゼーションファイル (.gc3, .tp3, .dc, .cal, .jxl)' and '現場の位置と現場の座標系を設定します' (Set the location and coordinate system of the site). A note states: '* 現場のローカライズに使用するTP3ファイルは、gc3(基準点) とtn3(TINデータ) の情報が含まれている必要があります' (The TP3 file used for site localization must contain information for gc3 (reference point) and tn3 (TIN data)). There is a 'ファイル選択' (Select File) button and a 'Drop file here' area. At the bottom right are 'キャンセル' (Cancel) and 'OK' buttons.

- ・「座標系を選択」：現場位置を指定し、プロジェクションと垂直基準を手動で選択します。

The screenshot shows the same dialog box, but the '座標系を選択' (Select Coordinate System) tab is active. It features a '現場位置' (Site Location) section with a '現場を見つける' (Find Site) button. Below this are two dropdown menus: '座標系' (Coordinate System) and '垂直基準' (Vertical Datum). At the bottom right are 'キャンセル' (Cancel) and 'OK' buttons.

- ・「座標系を同期する」（対応現場のみ）：他の Smart Construction アプリが設定した最新の座標系情報を取り込みます。



- ・座標系を変更すると、データのタイリングが実行されます。処理に時間がかかることがあるのでご注意ください。なお、変更前に確認ダイアログで警告が表示されます。
- ・他の Smart Construction アプリで座標系が更新された場合、Smart Construction Dashboard にも通知が表示されます。通知を確認し、座標系を同期するかどうかを選択できます。

■ 座標系の履歴

「構成」→「座標系の履歴」をクリックすると、過去の座標系変更の履歴が一覧で表示されます。各変更の日時・内容・変更者などを確認できます。

座標系の履歴			
タイプ	名称	変更日	変更者
ローカライゼーションファイル	名称 ▼	2026年4月17日 10:17	管理員

閉じる

9.4 データ連携

「データ連携」パネルでは、建機施工履歴データの自動同期に関する設定を行います。

■ 設定項目

- ・ グループID : Smart Construction Drone (Everyday Drone) からデータをインポートする際に使用する組織のグループID。
- ・ 毎日の建機施工履歴データの同期 : 有効にすると、設定した時刻に現場の建機から過去24時間の施工履歴データを自動的に取得します。「目標設計面 (目標形状)」と「施工前測量データ」が登録されている必要があります。
- ・ 毎日の建機施工履歴データの同期時刻 : 自動同期を実行する時刻を設定します。
- ・ 施工履歴反映と優先度 : 複数の建機タイプからデータが重複する場合の優先順位を設定します。優先度が高い建機のデータが優先して使用されます。

[編集] ボタンをクリックすると、同期設定の詳細を変更できます (管理権限が必要)。



施工履歴データの取得時間の変更手順は「[4.9 施工履歴データの登録](#)」も参照してください。

9.5 単位

「単位」パネルには、現場作成時に設定された単位が表示されます。これらの単位は、すべての計測計算とレポートに使用されます。

ここで表示される単位は、Smart Constructionの現場情報と同期しています。「[3.3 単位](#)」で設定したものではありません。



現場で設定された単位と、Smart Construction Dashboardで設定された単位を一致させるようにしてください。

修正が必要な場合は、以下の手順で行ってください。

1. 「Smart Construction」のページで、「現場一覧」タブをクリックします。
2. 修正が必要な現場を選択し、右下の「現場情報を編集」ボタンをクリックします。
3. 「詳細設定」をクリックし、該当の単位を修正してください。

■ 変更できる項目

- ・ 距離単位：m（メートル）、ft（International Feet）、ftUS（United States survey feet）
- ・ 面積単位：m²（平方メートル）、Square foot、Acres、Hectare
- ・ 体積単位：m³（立方メートル）、Cubic yard
- ・ 通貨単位：円、USドル、ユーロ、UKポンド、オーストラリアドル、シンガポールドル、ニュージーランドドル、カナダドル
- ・ 重量単位：kg（キログラム）、lb（ポンド）

9.6 表示

「表示」パネルでは、3Dビューの表示に関する設定を行います。

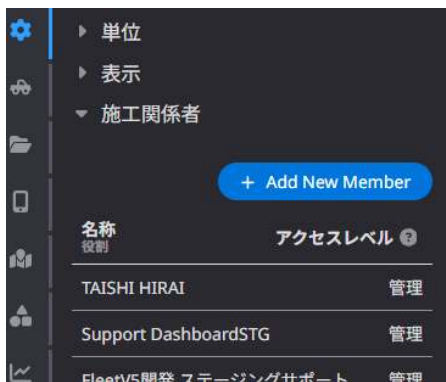
■ 設定項目

- ・ 解像度：3Dビュー内の地形データの表示解像度を「低」「中」「高」から選択します。高い解像度ほど細かいデータが表示されますが、処理負荷が増加します。
- ・ 施工現場画像：プロジェクト一覧ページに表示される現場のサムネイル画像を設定します。
- ・ 3Dビューのホーム：「現在の視点をホームにセットする」ボタンをクリックすると、現在の3Dビューの視点がホームビューとして保存されます。次回プロジェクトを開いた際に、このビューから表示が開始されます。



9.7 施工関係者

「施工関係者」パネルには、このプロジェクトにアクセスできるユーザーの一覧と、各ユーザーのアクセスレベルが表示されます。管理権限を持つユーザーは、メンバーのアクセスレベルを変更できます。



「建機の追加／編集」「ファイルを建機に転送」の操作は、現場の権限が「現場監督」または「作業員（リーダー）」の方のみです。

9.8 URL現場共有（共有リンク）

「URL現場共有」パネルでは、共有リンクの作成・管理を行います。共有リンクを使用すると、Smart Construction Dashboard のアカウントを持たないユーザーにも、プロジェクトへのアクセスを提供できます。リンクには有効期限とパスワードを設定でき、期限切れや手動での無効化によりアクセスを制限できます。



共有できるデータは以下となりますが、リンク先のデータはダウンロードはできません。

- ・オルソ画像データ
- ・測量データ
- ・施工履歴データ（建機）
- ・設計データ
- ・ローカライゼーションファイル
- ・ifcファイル（構造物モデル）
- ・各計測結果

■ 共有リンクの作成

1. サイドパネルの「設定」タブを開き、「URL現場共有」パネルを展開します。
2. 「共有リンクの作成」ボタンをクリックします。



3. 共有リンク生成画面で、以下の情報を入力します。

共有リンクの作成画面のスクリーンショット。タイトルは「共有リンクの作成」で、右上には閉じるボタン（×）があります。フォームには「共有リンク名」のラベルと入力欄があり、URL_20260614082707と入力されています。次に「有効期限」のラベルと2つの入力欄があり、6/15/2026と08:27と入力されています。最後に「パスワード」のラベルと入力欄があり、パスワードを入力と表示されています。右下には「キャンセル」と「生成」のボタンがあります。

- ・ 共有リンク名（必須）：リンクを識別するための名前。
- ・ 有効期限（必須）：設定すると、その日付以降はリンクが無効になります。
- ・ パスワード（任意）：設定すると、リンクへのアクセス時にパスワードの入力が必要になります。



パスワードを設定する場合は、パスワードのチェックボックスにチェックを入れます。

4. 「生成」をクリックすると共有リンクが作成され、「URL現場共有」パネルの一覧に追加されます。



■ 共有リンクの管理

「URL現場共有」パネルには、作成済みの共有リンクが一覧表示されます。各リンクには、共有リンク名（またはURL）／有効期限／パスワード保護の有無（鍵アイコン）／情報アイコン（作成日時・作成者）が表示されます。

- ・ コピー：【コピー】ボタンをクリックすると、共有リンクのURLがクリップボードにコピーされます。メールやチャットで共有先に送付します。
- ・ 無効化：【無効化】ボタン（ゴミ箱アイコン）をクリックし、確認ダイアログで【OK】をクリックすると、そのURLからはアクセスできなくなります。



共有リンクを無効化すると、既に共有済みのリンクもアクセスできなくなります。有効期限が過ぎた共有リンクは自動的に無効になります。無効化したリンクは再度有効化できません。必要な場合は新しいリンクを生成してください。

9.9 サポートモード

「サポートモード」パネルでは、コマツカスタマーサポートアカウントによる現場へのアクセス可否を切り替えます。トグルをオンにすると、サポートチームがプロジェクトにアクセスして、問題の調査・サポートを行えるようになります。

▼ サポートモード

 サポートモードを有効にする



このパネルは、管理権限（「管理」アクセスレベル）を持つユーザーのみ表示されます。

9.10 プロジェクトの削除

「プロジェクトを削除」パネルの「削除」ボタンをクリックすると、現在のプロジェクトを削除できます。削除前に確認ダイアログが表示され、現場名を確認して削除します。

▼ プロジェクトを削除

 消去



削除したプロジェクトは復元できません。このパネルは、管理権限を持つユーザーのみ表示されます。

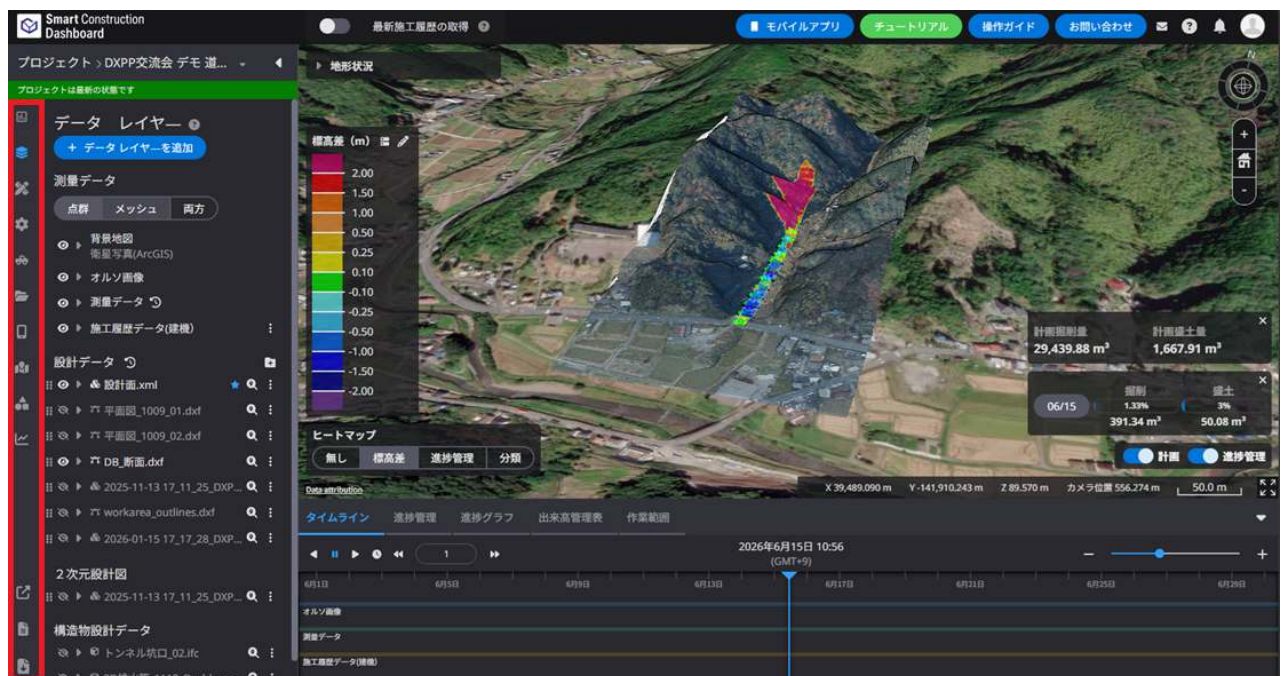
10 3Dビューとタイムライン

プロジェクトを開くと、3Dビューに現場が表示されます。本章では、ビューア画面の構成、3Dビューの操作（ナビゲーション）、およびタイムラインの使い方を説明します。

10.1 画面構成

ビューアでは、開いた現場の可視化・計測・分析ができます。画面は以下の要素で構成されます。

■ サイドパネル



- ・ データレイヤー：データのアップロード・操作（4 各種データ登録）
- ・ 計測と注釈：計測（6 計測）、注釈の追加（4.10 注釈の追加）
- ・ 各種設定：現場のプロパティ設定（9 各種設定）
- ・ 建機：現場建機へのアクセス（4.3 建機へのファイル転送、13 建機管理）
- ・ プロジェクトファイル：プロジェクトファイルのアクセス・ダウンロード（14 プロジェクトファイル管理）
- ・ コミュニケーション：モバイルアプリへの指示送信・レポート閲覧（12 連携機能）
- ・ 計測指示：Smart Construction Rover への計測指示・結果閲覧（12 連携機能）
- ・ 3Dアイコン：現場の施工検討（11 3Dアイコン）
- ・ 外部ページを開く：転圧管理機能・出来形管理機能へのアクセス（12.3 転圧管理システム連携、8 出来形合否判定（i-Construction））
- ・ 帳票作成：現場のPDFレポートを生成（7 現場レポートの生成（帳票））
- ・ スクリーンショット（PNG）：現在のビューのスクリーンショットを生成（7 現場レポートの生成（帳票））

10.2 3Dビューのナビゲーション

3Dビュー上では、以下のコントロールで現場のナビゲーションと探索ができます。

■ マウス操作

- ・ 左クリックしてドラッグすると、3Dビュー上を移動します。
- ・ 右クリックしてドラッグすると、拡大または縮小します。
- ・ トラックホイールを押さえたままドラッグすると、ビューを傾けたり回転させたりします。



■ ビューのリセット

ナビゲーションウィジェットのホームアイコンをクリックすると、ビューをリセットします。



ホームビューは「各種設定」>「表示」で変更できます（「9.6 表示」参照）。目的の範囲・ビューに移動してから「現在の視点をホームにセットする」をクリックします。



■ ズーム

右クリックしてドラッグするか、マウスでスクロールするか、ナビゲーションウィジェットの「+」「-」ボタンをクリックして、ズームを調整します。



■ 回転

ナビゲーションウィジェットのコンパスホイールをクリックしてドラッグすると、基本方位に沿ってビューを回転します。



■ オービット

マウスを中クリックしてドラッグするか、ナビゲーションウィジェット内のジャイロをクリックしてドラッグすると、視点を旋回（オービット）します。

■ 全画面表示

全画面表示ボタンをクリックすると、3Dビューを最大化します。小矢印をクリックすると、サイドパネルとタイムラインを個別に折りたたみできます。



10.3 タイムライン

タイムラインは、現在のプロジェクト時刻と、シーンに表示されるデータセットを制御します。タイムラインには「オルソ」「測量データ」「施工履歴データ（建機）」の3つのレイヤーがあります（「4 各種データ登録」参照）。

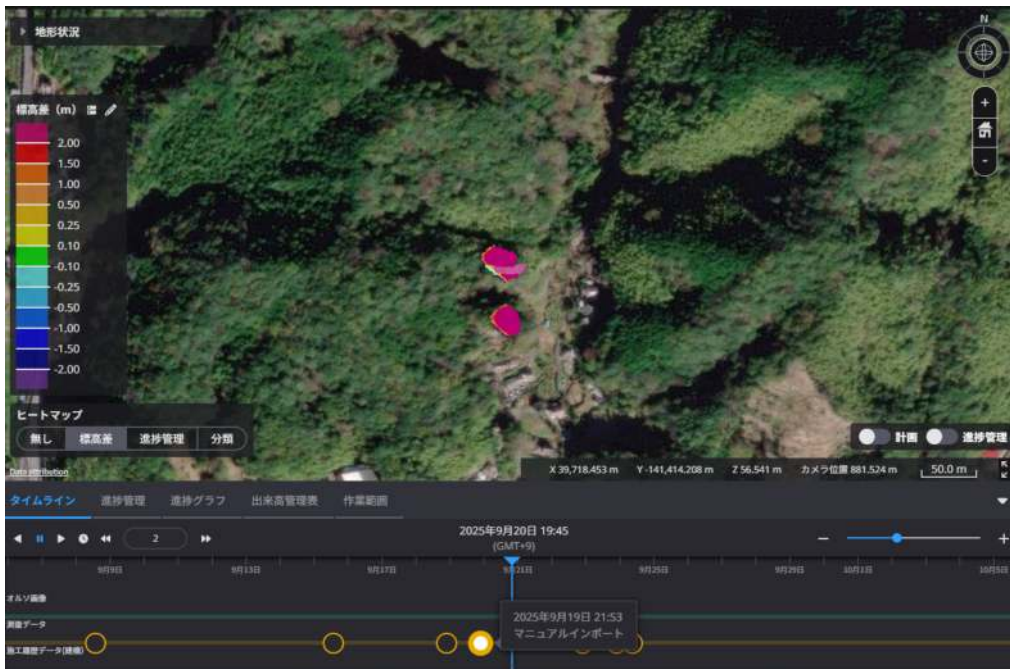
- ・ タイムラインで示された時刻に、最新タイムのタグ付きデータセットがレイヤーごとに表示されます。
- ・ 丸印は、その時点にデータが登録されていることを示します。塗り潰された丸印は、データセットが現在3Dビューに表示されていることを示します。



- ・ 丸印をクリックすると、一時的にクリックしたレイヤーを表示します。選択中のレイヤーのアイコンは、中心部が白くなります。

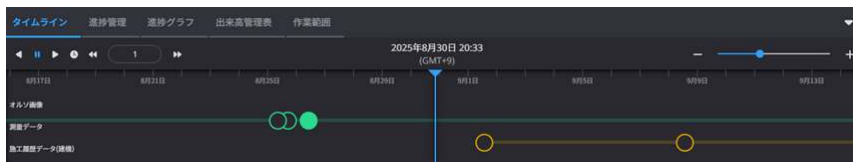


- ・ マウスイカーソルを中心部が白くなったアイコンに重ねると、同じく重ねたアセットを3Dマップ上に表示し、そのアセットで登録（変更）された箇所を明るく強調表示することができます。



■ タイムラインの操作

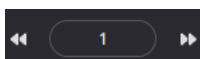
- 時刻の変更：タイムラインをクリックして前後にドラッグすると、3Dビューに表示される現在時刻を変更できます。



- スケールの調整：スライダをドラッグして、タイムラインの表示スケールを調整します。



- 再生／一時停止／逆再生：再生コントロールで、時系列にそってデータの表示を再生・一時停止・逆再生します。
- 再生速度の増減：再生速度を増減します。



- 現時刻に設定：表示を現在の時刻に設定します。

11 3Dアイコン

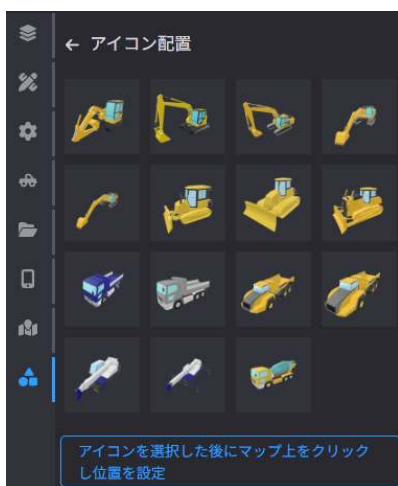
3Dアイコン機能を使用すると、3Dビュー上に建機の3Dモデルを配置して、施工を検討できます。3Dアイコンはグループで管理でき、編集・削除も可能です。

■ 3Dアイコンの配置

1. サイドパネルの「3Dアイコン」をクリックします。



2. 「アイコン配置」ボタンをクリックし、配置する3Dモデル（建機など）を選択します。



3. 3Dビュー上で、配置したい位置をクリックします。



4. 名前を入力して「保存」をクリックします（名前は必須）。

■ 表示／非表示の切り替え

各行の目のアイコンで、3Dアイコンやグループの表示／非表示を切り替えます。「すべて表示」「すべて非表示」で一括切り替えもできます。

■ 編集・削除・移動

- ・ 編集：対象を選択し、プロパティパネルで編集します。
- ・ 移動：対象を選択し、三点メニューから「移動」を選択すると、3Dビューがその位置に移動します。
- ・ 消去：対象を選択し、三点メニューから「消去」を選択します。

■ グループ管理

「グループを作成」でグループを作成し、3Dアイコンをドラッグして移動できます。グループの編集・削除や、展開・折りたたみができます。

■ 作業領域の表示

「作業領域を表示」をクリックすると、3Dアイコンの作業領域（干渉検知エリア）が表示されます。作業領域は、プロパティパネルの「干渉検知」タブで設定した作業半径に基づきます。





3Dアイコンの使用には計測の読み取り権限が、追加・編集・削除には計測の書き込み権限が必要です。3Dアイコンはプロジェクトに保存され、他のユーザーも確認できます。

12 連携機能

Smart Construction Dashboard は、モバイルアプリ・Smart Construction Rover・転圧管理システムなど、さまざまな機能と連携できます。本章では、これらの連携機能を説明します。

12.1 モバイルアプリ連携

Smart Construction Dashboard モバイルアプリは、現場作業者が地形条件を確認したり、Smart Construction Dashboard からの指示に基づいて作業したり、メッセージや写真でレポートを作成したりするためのアプリです。Smart Construction Dashboard からモバイルアプリへ作業指示を送信し、返信メッセージやレポートを閲覧できます。

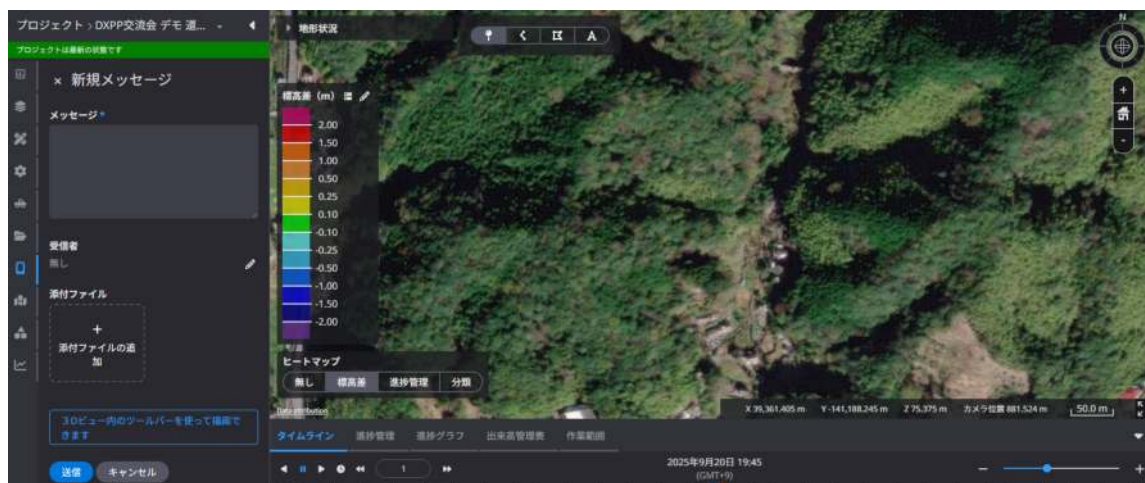
■ コミュニケーション機能

- ・ サイドパネルの「コミュニケーション」で、現場に関連するメッセージ（作業指示）の一覧を確認できます（メッセージID・本文／ステータス〔対応中・対応済み〕／受信者／返信数・添付数／更新日時）。
- ・ 「フィルター」で、自分宛て・作成者・更新日時の条件で絞り込めます。

■ 新規メッセージの作成

1. 「追加」ボタンをクリックします。
2. メッセージ（必須・最大3,000文字）、受信者、添付ファイルを入力します。

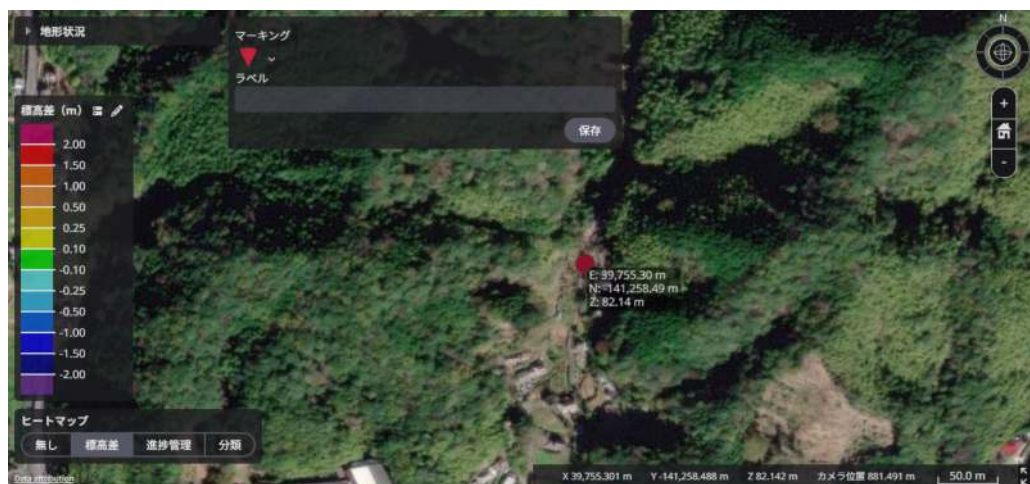
3. 「送信」をクリックします。



- ・ 描画ツール：メッセージ作成中、3Dビュー上に描画（レッドライン）で位置を指示できます（マーキング／線分／多角形／文字）。



- ・ 簡易計測：メッセージ作成中、3Dビュー上で簡易的な計測ができます。



- ・ プレビュー画像：描画を追加した場合、添付する現場画像の取得範囲を指定します（描画時は必須）。範囲を調整し「カメラ」ボタンで設定します。



描画した図形は再編集できません。削除する場合は、図形をクリックして「削除」を選択します。

12.2 Smart Construction Rover連携

Smart Construction Rover 連携を使用すると、Smart Construction Dashboard から Rover に計測指示を送り、Rover で計測した結果を受け取って Smart Construction Dashboard 上で表示できます。事務所などの遠隔地から、現場作業員へ計測指示を送れます。



本機能は、現在、日本国内でのみ使用できます。



■ 計測指示の作成（Smart Construction Dashboard側）

1. 左端のアイコンから「計測指示」をクリックして、計測指示メニューを開きます。



2. 「+ 追加」をクリックし、計測指示の名称を入力します。



3. 3Dビュー上で計測したい場所をクリックすると、計測依頼点が追加されます（1つの計測指示に複数の点を追加できます）。



4. 左パネルで点の [▶] をクリックすると、計測依頼点の情報を確認できます。



5. 「保存」をクリックすると、計測指示が保存されます。

■ Smart Construction Rover での計測（端末側）

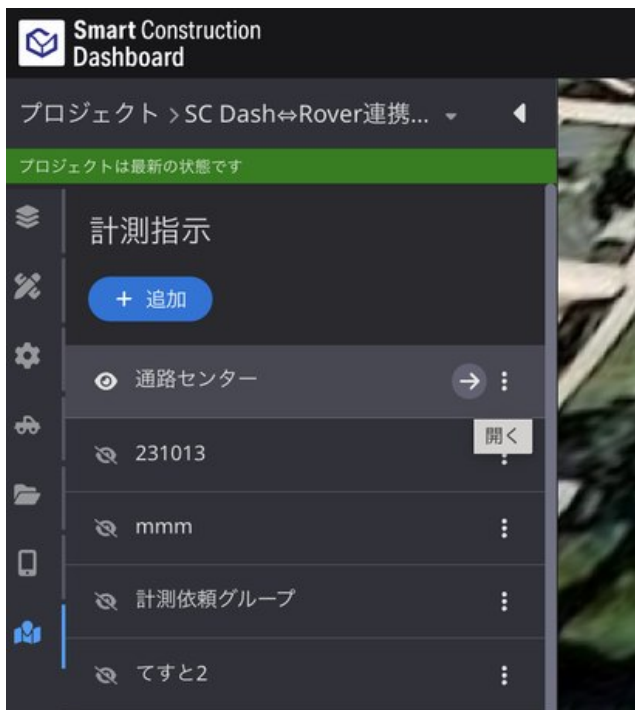
Dashboard で作成した計測指示を Rover にダウンロードし、計測を実施します。端末側の操作（既知点のダウンロード／逆打端点の選択／実測値の計測）の詳細は、Smart Construction Rover のマニュアルを参照してください。



Smart Construction Dashboard に表示される実測値は、計測のたびに上書きされます。

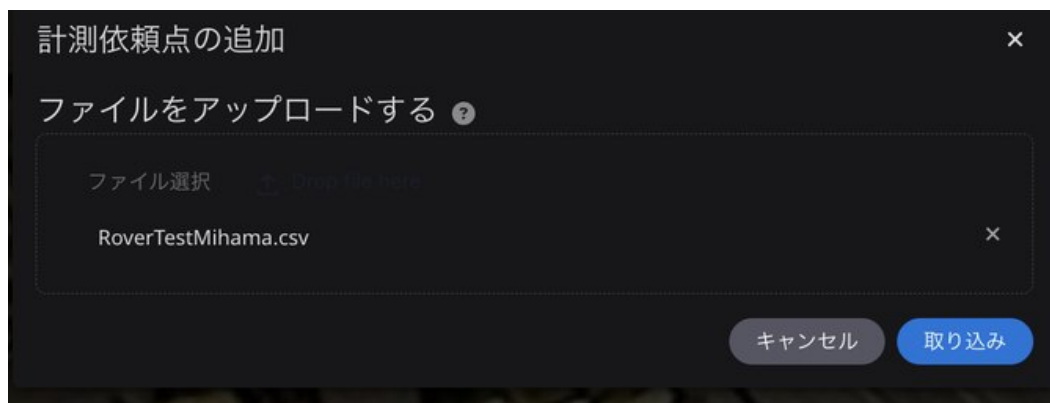
■ 計測結果の表示

計測指示一覧から計測指示を選択すると、計測依頼点と計測結果が表示されます。3Dビュー上でマーカーをクリックしても確認できます。



■ 計測指示のCSVインポート

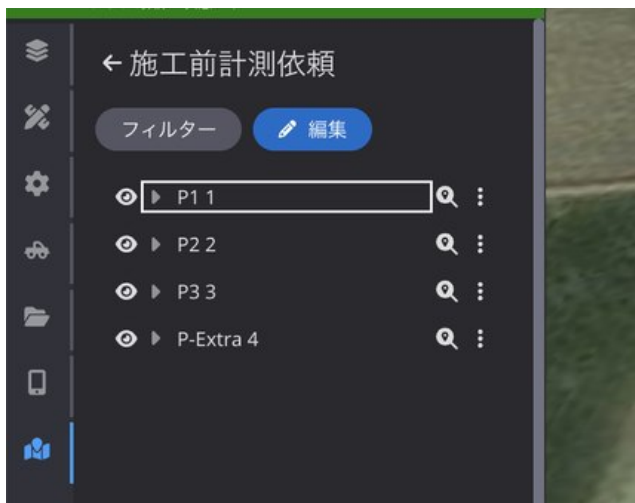
1. 計測指示の追加画面で名称を入力し、[CSVファイルからインポート] をクリックします。
2. CSVファイルを選択して [取り込み] をクリックします。
3. [保存] をクリックします。



CSVファイルの形式は、ポイント名称と現場のローカル座標系（North・East・高さ）をカンマ区切りで1行に記載したものです。

■ 計測指示の編集

追加済みの計測指示を開き [編集] をクリックすると、名称や計測依頼点を変更できます。「保存」で更新されます。



計測指示を更新した場合は、Rover側で再度、計測指示を取り込み直す必要があります。

12.3 転圧管理システム連携

アカサカテック社製の転圧管理システム（GP Roller／Smart Roller）と連携すると、転圧結果の帳票（締固め分布図・走行軌跡）を Smart Construction Dashboard 上に表示・管理できます。ブルドーザーまたは転圧機として登録した建機に対して設定します。

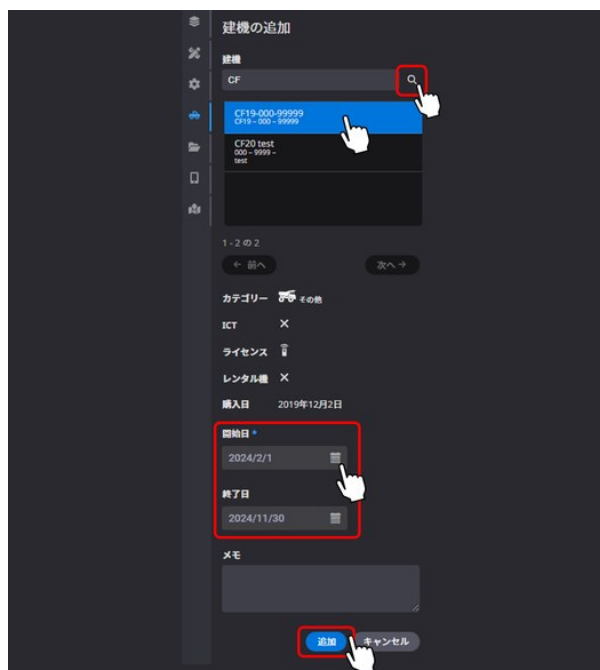
■ 現場プロジェクトへの設定（共通）

1. サイドパネルの「建機」をクリックし、「建機の追加」をクリックします。



2. 建機名や機械番号で、転圧システムを設定したブルドーザーまたは転圧機を検索して選択します。

3. 対象の転圧機を選択し、登録の「開始日」「終了日」を設定して「追加」をクリックします。



4. 設定後、サイドパネルの「外部ページ」から「転圧結果」をクリックします。



■ GP Roller の場合

1. 「転圧車両を見る」で車両の登録期間を確認し、「転圧結果を見る」→「設定画面（GP Roller）」を開きます。
2. 工事名に表示される16桁のIDを控え、転圧機側の GP Roller アプリの「施工情報登録」→「工事情報」タブの「施工ID」に入力します。
3. 事前に控えた「転圧建機ID」を、GP Roller アプリの「機械情報登録」→「機械情報」タブの「重機ID」に登録します。

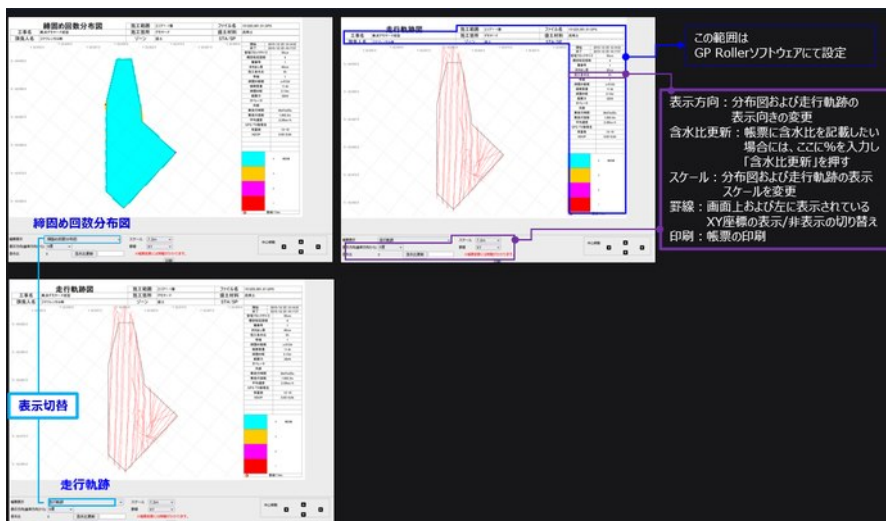
■ Smart Roller の場合

事前にアカサカテック社への問い合わせとシステム本体の導入が必要です。車両一覧で対象車両のメニューから「Smart Roller 連携」をクリックし、車両に鎖のマークが付けば連携完了です。



■ 表示項目

締固め分布図・走行軌跡などを表示できます。Smart Roller では、転圧結果一覧・既知点帳票・GNSS観測帳票も確認できます。



転圧システムの利用には、GP Roller／Smart Roller のソフトウェアで、車両の規格・記録項目をあらかじめ設定する必要があります。詳細はアカサカテック社のマニュアルを参照してください。

13 建機管理

Smart Construction Dashboard では、組織が保有する建機を管理し、プロジェクト現場に紐づけて利用できます。本章では、組織建機管理とプロジェクト建機管理について説明します。建機へのファイル転送の基本操作は「4.3 建機へのファイル転送」を参照してください。

13.1 組織建機管理

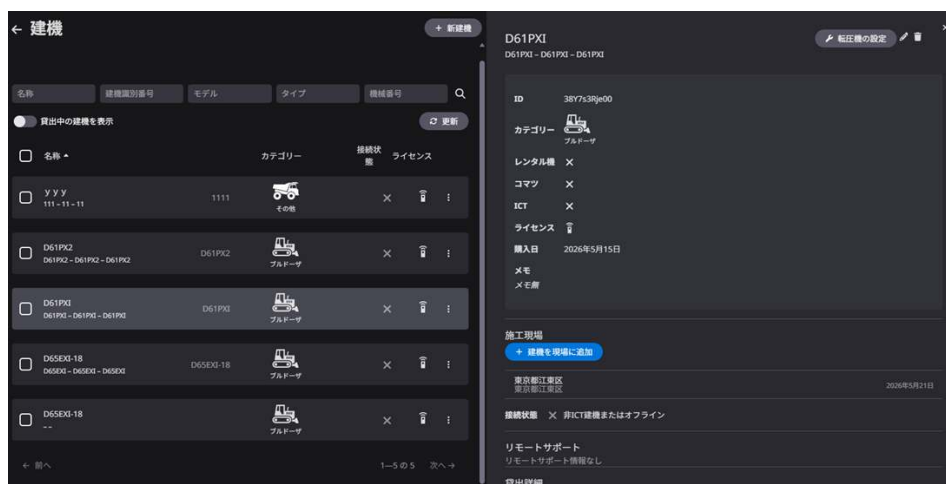
組織建機管理は、プロジェクト一覧ページの「建機」ボタンからアクセスします。組織が保有する建機の登録・確認・設定変更・貸出・返却・現場への紐づけを行います。

■ 組織建機一覧

プロジェクト一覧ページの「建機」ボタンをクリックすると、「建機」ページが開きます。



- ・ 建機詳細の閲覧：一覧の項目をクリックすると「建機詳細」パネルが開き、基本情報・接続状態・割り当て現場・貸出情報を確認できます。

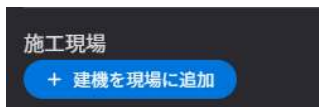


- ・ 建機の追加：「新建機」をクリックし、建機詳細（名称・モデル・タイプ・機械番号・カテゴリなど）を入力して「追加」をクリックします。

- ・ 建機詳細の編集：「建機詳細」パネルの鉛筆アイコンをクリックします。



- ・ 建機の削除：「削除」ボタンをクリックして確認します。
- ・ 現場への登録：「建機を現場に追加」をクリックし、施工現場を選択して「追加」をクリックします。



ICT建機（3DMGを含む）の新規登録はできません。コマツの担当者にご連絡ください。

- ・ ICT接続：接続状態（非ICT建機／オフライン／接続／切断）が、建機の現場詳細情報の下に表示されます。



■ 建機のレンタル

建機が自社保有物で、他の組織に貸し出されておらず、施工領域に割り当てられていない場合、貸し出すことができます。「レンタル詳細」の「レンタルを開始」をクリックし、貸出先ユーザーID（メールアドレス）や期間を入力して「レンタルを開始」をクリックします。



レンタルを開始すると、貸出先組織の全ユーザーに通知が送信されます。貸出先が承認すると、レンタルが完了します。

■ リモートサポート

リモートサポート機能では、現場に紐づけられた建機のコントローラ画面を閲覧したり、遠隔操作したりできます。[リモートサポー

ト] ボタンは、建機がオンライン状態のときのみ有効です。



・この機能は北米では使用できません。画面表示のみか操作可能かは、ユーザーの権限と使用地域により決まります。

・レンタル中の建機は、貸出先に操作権限が移ります。レンタル終了後、貸出元でリモートサポートが可能になります。

13.2 プロジェクト建機管理

プロジェクト建機管理は、プロジェクトビューアのサイドパネル「建機」からアクセスします。建機の紐づけ・ファイル転送・KOMTRAX情報の参照・リモートサポートを行います。

■ プロジェクト建機一覧

サイドパネルの「建機」タブを開くと、現場に割り当てられた建機の一覧が表示されます。



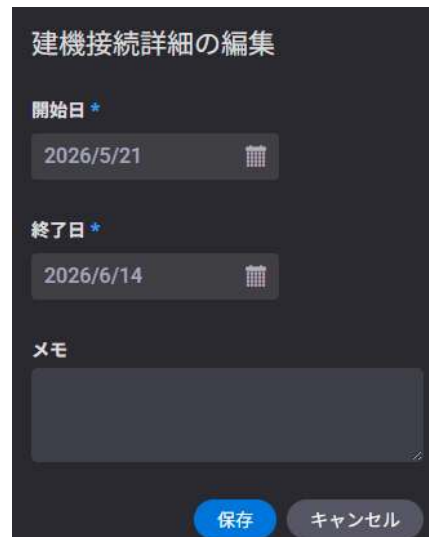
- ・ 建機の追加：[建機の追加] をクリックし、使用可能な建機を検索・選択して、稼働開始日（必要に応じて終了日）を入力し [追加] をクリックします。



- ・ 使用期間：指定の建機を選択し、鉛筆アイコンをクリックすると、稼働期間の日付を編集できます。



使用期間を過ぎると、オンラインステータスの取得を停止し、リモートサポートなどの操作ができなくなります。ご利用中の場合は、使用期間の設定にご注意ください。



■ KOMTRAX情報（コマツ建機）

コマツ製建機では、KOMTRAX連携により、前日までの稼働情報・燃料情報を確認できます。建機詳細パネルに次の情報が表示されます。

- ・ サービスメーター（累積稼働時間）
- ・ 現在位置
- ・ 稼働状況タブ（稼働時間・作業効率）
- ・ 燃料使用量タブ（残燃料・消費燃料）
- ・ 転送タブ（ファイル転送状況。ICT建機のみ）

日付ナビゲーターで日付を選択すると、その日のKOMTRAX情報が表示されます。



非コマツ建機またはオフラインの場合、KOMTRAX情報は表示されません。

■ リモートサポート

[リモートサポート] ボタンは、建機がオンライン状態のときのみ有効です（「[13.1 組織建機管理](#)」参照）。

14 プロジェクトファイル管理

「プロジェクトファイル」パネルでは、現場に追加された各種データの表示や、3次元データ以外の施工に関連するファイルなどをアップロードできます。プロジェクトファイルは、Smart Construction Groupware と連携します。

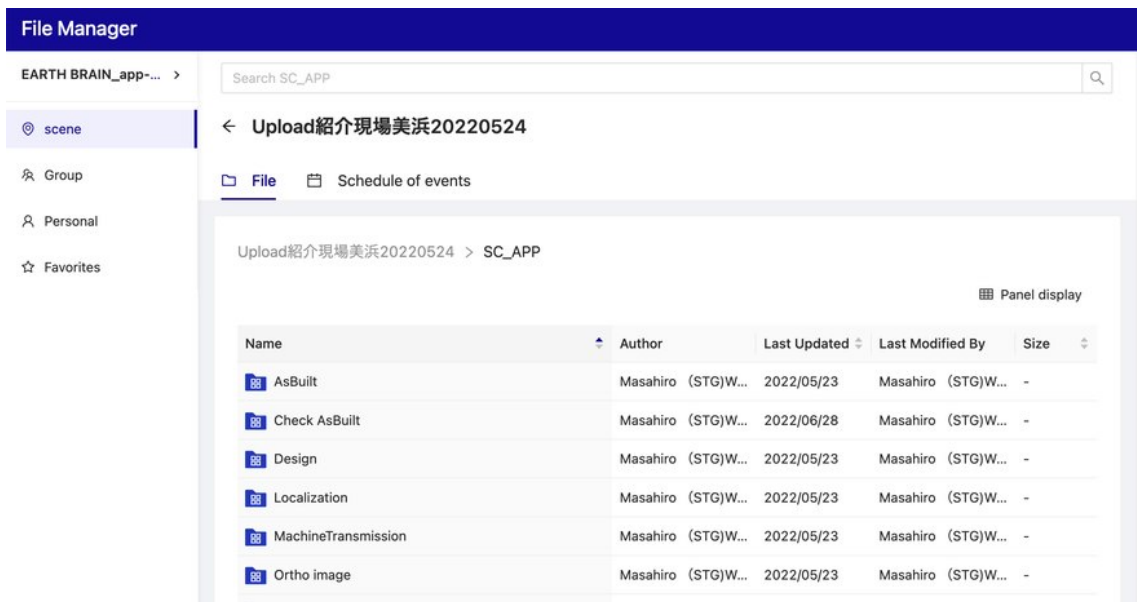
■ プロジェクトファイルの構成

「プロジェクトファイル」ビュー上部の「Groupware」ボタンをクリックすると、Smart Construction Groupware が新しいタブで開きます。



各現場には、以下のデフォルトフォルダがあります。

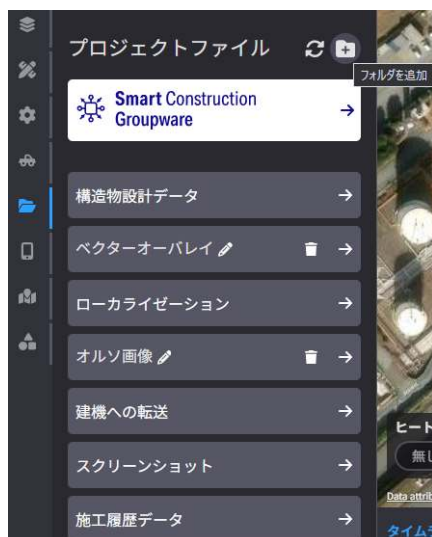
- ・ 施工履歴データ（建機）：取得された施工履歴が自動的に保存されます（統合されていない、その日に取得された施工履歴が保存されます）。
- ・ 設計データ：現場の設計データです。
- ・ ローカライゼーション：現場ローカライゼーションファイル
- ・ 建機への転送：建機にファイル転送すると、ファイル転送されたファイルが自動的に登録されます。
- ・ オルソ画像：データレイヤーに追加されたオルソ画像が登録されます。
- ・ スクリーンショット（PNG）：「スクリーンショット（PNG）」機能で撮影したスクリーンショットです。
- ・ 構造物設計データ：現場の構造物設計データです。
- ・ 測量：現場の測量データです。
- ・ ベクターオーバーレイ：CZML／GeoJSON／KMLが追加されます。



ここにアップロードしたファイルは、タイリングや処理は行われず、グループウェアに保存されます。

■ ユーザーフォルダの管理

- ・ フォルダの作成：「フォルダを追加」アイコンをクリックします（初期名称は「Untitled folder xx」）。



- ・ フォルダ名の編集：フォルダ名の横の鉛筆アイコンをクリックします（ユーザーフォルダのみ）。



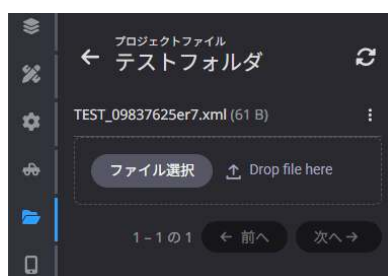
- ・ フォルダの削除：削除（ゴミ箱）アイコンをクリックします（ユーザーフォルダのみ）。



■ ファイルの保存・ダウンロード・削除

- ・ 保存：ユーザーフォルダを開き、ファイルをドラッグ＆ドロップするか、選択してアップロードします。

-
- ・ダウンロード：「ファイルのダウンロード」を選択して、ローカルデバイスにダウンロードします。



- ・削除：「ファイルの削除」を選択して、フォルダから削除します。



- ・この機能は北米では使用できません。画面表示のみか操作可能かは、ユーザーの権限と使用地域により決まります。
 - ・レンタル中の建機は、貸出先に操作権限が移ります。レンタル終了後、貸出元でリモートサポートが可能になります。
-

15 付録

本章では、予実管理（サマリー）機能と、操作を支援する補助機能・サポート（問合せ先）について説明します。

15.1 予実管理（サマリー）

サマリーパネルでは、計画値と実績値を比較できます。切盛土量の計画値・実績値・差分を一覧で確認し、グラフで可視化できます。

■ 操作手順

1. サイドパネルで「概要」タブをクリックします。

サマリーパネルが表示されます。

■ 表示内容

- ・ 概要表示：計画値・実績値・差分の合計値と進捗率を表示します。
- ・ 日次実績詳細：日ごとの実績データを表示します。
- ・ 作業範囲実績詳細：作業範囲ごとの実績データを表示します。
- ・ グラフ：計画値と実績値を時系列で比較し、日次データの推移を確認できます。



サマリーデータは、作業範囲と切盛土量の計測が設定されている場合に表示されます。

15.2 補助機能（目的から探す・アシスタント）

アプリケーションには、操作を支援する補助機能があります。操作前に利用すると、円滑に利用できます。

■ 目的から探す

計測を行う際に操作方法がわからない場合、目的別に手順が掲載されています。



■ アシスタント機能

どんな計測機能・注釈機能が利用できるかわからない場合に、アシスタント機能を開くと、よく使う機能の簡易的な説明（チュートリアル）とともに、備わっている機能が紹介されます。



15.3 サポート・問合せ先

アプリケーションには、トラブル時のサポート機能があります。必要な情報を添えて問い合わせると、円滑にトラブルシューティングできます。

■ ヘルプ機能（サポートサイト／問合せフォーム）

1. 画面右端の「お問い合わせ」ボタンをクリックします。FAQサイト（サポート）と問合せフォーム（リクエストを送信）につながっています。



2. 問合せフォームを利用する場合は、現場名・施工現場ID・URLを記載すると、診断がスムーズに進みます。



電話で現場名を伝える方法では、正確な情報が得られないことがあります。問合せフォームにURL・現場名・施工現場IDを貼付・記載すると、円滑に調査・対応が進みます。

■ サポートモード

プロジェクト現場を作成すると、サポートセンターへ自動的に参加者として招待通知が届きます。問合せフォームよりURLを送ると、オペレータが確認のためアクセスできます。サポートが不要な場合は、サポートモードをオフにすると、施工関係者から外れます（9.9 サポートモード）。

